

# **赤田 I 遺跡発掘調査概要(1)**

**— 個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査 —**

2005年3月

**富山県小杉町教育委員会**





平安時代の溝跡出土遺物(8地区)

## 序

小杉町は富山県のほぼ中央に位置し、北部には広大な射水平野の田園地帯が広がり、南部に向かってなだらかな射水丘陵が連なる緑豊かな町です。

町域の中心を南北に流れ富山湾に注ぐ下条川は、現在では改修され直線的な流路となっていますが、昔はかなり蛇行し、大雨時などには浸水の被害も頻発した暴れ川であったようです。

必ずしも立地条件に恵まれていなかったものの貴重な水を得るために太古からこの流域で適地を求め生活していた様子は、縄文時代をはじめとする各時代の遺跡が集中していることから窺い知ることができます。

このたびの調査は下条川右岸から約300m離れた赤田Ⅰ遺跡で行いました。この遺跡は平成13~14年の土地区画整理事業に先立つ分布調査により新発見され、その後の調査で古墳時代と平安時代の二時期を中心とした複合遺跡の実態が少しづつ明らかになってきています。

今回の調査地は土地区画整理事業後の宅地部分5箇所で実施いたしました。このうち1箇所では古墳時代前期末頃の幅4mほどの溝から器形のわかる土器が多数発見されています。ほかの1箇所では平成14年の調査で確認していた平安時代の祭祀(祓えの儀式)を執り行った溝の一部を発掘しています。

この溝は平地に見られる自然の川跡とは異なり、人工的に掘り込まれたと考えられる点もあり、今後の調査との比較が課題となりました。

本書はこうした埋蔵文化財調査の成果をまとめたものであり、文化財保護について関心を深めていただくとともに、今後の研究を進めるうえで参考にしていただければ幸いです。

終わりに、調査及び報告書刊行にあたり、ご支援・ご協力いただきました関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成17年3月

小杉町教育委員会  
教育長 稲葉 茂樹

## 例　　言

- 本書は富山県射水郡小杉町下条(一条)地内に所在する赤田I遺跡の発掘調査概要である。
- 調査は個人専用住宅建築に先立ち、個人の依頼を受け小杉町教育委員会が実施した。調査費用については、小杉町が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
- 発掘区は平成14年度に土地区画整理事業に先立ち実施した道路敷きの1~4地区の本発掘調査地区と重複しないように、今年度調査箇所を5~9地区とした。各地区的地番・現地調査期間及び面積は次のとおりである。なお( )内の地番は本換地前の小杉町土地区画整理事業仮換地地番を示している。
- 5地区 一条5番9(5街区8番) 平成16年5月20日~6月4日(11日間) 対象面積181m<sup>2</sup> 発掘面積64m<sup>2</sup>
- 6地区 一条10番13(10街区13番) 6月7日~6月16日(8日間) 対象面積199.30m<sup>2</sup> 発掘面積108m<sup>2</sup>
- 7地区 一条11番3・4(11街区3・4番) 9月28日~10月28日(15日間) 対象面積215m<sup>2</sup> 発掘面積207m<sup>2</sup>
- 8地区 一条11番16(11街区17番) 10月25日~11月19日(17日間) 対象面積266.70m<sup>2</sup> 発掘面積165m<sup>2</sup>
- 9地区 一条10番15(10街区16番) 11月18日~11月26日(5日間) 対象面積289.13m<sup>2</sup> 発掘面積112m<sup>2</sup>
- 調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、主幹堀川辰幸、主査原田義範が調査事務を担当し、生涯学習課長石黒信明が総括した。また、調査は原田と御中部日本鉱業研究所調査員高野裕二が担当した。
- 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから助言・指導を戴いた。また、発掘から報告書刊行に至るまで次の方々から協力を得た。記して深く謝意を表したい。(敬称略、五十音順)  
安念幹倫・池野正男・上野一章・内田亞紀子・金三津英則・柳岡修史・栗山雅夫・高田修一・鈴木景二  
富樫昭一・野原大輔・久田正弘・宮田進一・本林功・森隆・谷澤芳範・山内賢一・吉澤一起
- 遺物図版掲載写真は撮影指導に来町された独立行政法人奈良文化財研究所牛鳴茂氏と西大寺フォト杉本和樹氏が撮影した写真を使用した。
- 発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。(五十音順)  
【現地調査】江口實・酒井義雄・新保利恵・新田三喜子・久野静枝・宝田郁夫・宝田紀代春・堀田肇  
前田明子・前田幸子・山口チズ子  
【整理作業】金瀬ますみ・吉島正喜・新保利恵・新田三喜子・開一美・堀塙実津子・吉沢泰子
- 調査で得た図面・写真・遺物は小杉町教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。  
赤田I遺跡: AD I-5(5地区)・AD I-6(6地区)・AD I-7(7地区)・AD I-8(8地区)  
AD I-9(9地区)

## 凡　　例

- 本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 調査区の座標は次のとおりである。  
5地区: X2Y3=X79225 Y-7180 6地区: X4Y3=X79130 Y-7050 7地区: X7Y5=X79120 Y-7100  
8地区: X2Y4=X79100 Y-7090 9地区: X5Y4=X79140 Y-7080
- 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。SD:溝 SK:土坑 SP:柱穴及び柱穴状ピット SX:不明遺構
- 遺構図の縮尺は1/80、遺物実測図の縮尺は土器の1/4を基本とし、縮尺の異なる出土遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。
- 遺物実測図中の土器などの表現は次のとおりとした。また、土器の断面は須恵器・珠洲を黒塗りとし、他の土器は白抜きとした。

[■]: 赤彩 [■]: タール [■]: 黒色土器 [■]: 鉄釉 [■]: 灰釉 [■]: 黒漆

- 土層図中の色調は、小山正忠・竹原秀雄編 1967『新版標準土色誌』日本色研事業株式会社の表記を用い、土色の測定には土色計(第一合成社製 SCR-1)を使用した。

## 目 次

I 遺跡の位置と歴史的環境 .....	1
II 調査に至る経緯 .....	3
III 調査の概要 .....	5
1. 試掘調査及び工事立会出土の遺物 .....	6
2. 本発掘調査5地区 .....	8
3. 本発掘調査6地区 .....	11
4. 本発掘調査7地区 .....	14
5. 本発掘調査8地区 .....	17
6. 本発掘調査9地区 .....	22
〈引用参考文献〉 .....	24

## 挿図目次

第1図 調査地と周辺の主な遺跡 .....	2
第2図 調査位置 .....	4
第3図 5地区遺構図 .....	9
第4図 5地区SD01遺物出土状況 .....	10
第5図 6地区遺構平面図 .....	12
第6図 6地区遺構土層図 .....	13
第7図 7地区遺構平面図 .....	15
第8図 7地区SK08・09遺物出土状況 .....	16
第9図 8地区遺構平面図 .....	19
第10図 8地区遺構図 .....	20
第11図 8地区SD01遺物出土状況 .....	21
第12図 9地区遺構図 .....	23
第13図 試掘調査の出土遺物(1-IT・2-IT・2-4IT) .....	25
第14図 試掘調査の出土遺物(2-7T~2-55T) .....	26
第15図 試掘調査の出土遺物(2-7T) .....	27
第16図 試掘調査の出土遺物(2-7T・2-25T) .....	28
第17図 試掘調査の出土遺物(2-25T) .....	29
第18図 試掘調査の出土遺物(2-25T) .....	30
第19図 試掘調査の出土遺物(2-5T~2-63T) .....	31
第20図 試掘調査の出土遺物(2-64T~2-92T), 表採 .....	32
第21図 試掘調査の出土遺物(1-2T) - SD01-05, 遺構外 .....	33
第22図 試掘調査の出土遺物(1-2T) .....	34
第23図 工事立会の出土遺物(A地区) .....	35
第24図 工事立会の出土遺物(B地区) .....	36
第25図 工事立会の出土遺物(B・C地区) .....	37
第26図 5地区的出土遺物 .....	38
第27図 5地区的出土遺物 .....	39
第28図 6地区的出土遺物 - SD01-07, 包含層 .....	40
第29図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	41
第30図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	42
第31図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	43
第32図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	44
第33図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	45
第34図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	46
第35図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	47
第36図 8地区的出土遺物 - SD01-02, 包含層 .....	48
第37図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	49
第38図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	50
第39図 8地区的出土遺物 - SD01-02- .....	51
第40図 8地区的出土遺物 - SD01- .....	52
第41図 9地区的出土遺物 - SD01-02, 包含層 .....	53
第42図 9地区的出土遺物 - 包含層 .....	54
7地区的出土遺物 - SD01-02, SK08-09-11- .....	54

## 表 目 次

第1表 赤田I遺跡の主な周辺遺跡 .....	2
第2表 小杉町赤田上地区面積整理事業(一条)地内調査実施一覧 .....	3
第3表 出土遺物観察表 .....	55~65

## 写真図版目次

巻頭図版 平安時代の溝跡出土遺物(8地区)	図版 1~6 5~9地区の遺構 .....	68~73
写真図版 平安時代の溝跡出土遺物(8地区) .....	67	
	図版 7~12 試掘調査の出土遺物 .....	74~79
	図版 13~21 5~9地区の出土遺物 .....	80~88

## I 遺跡の位置と歴史的環境

赤田Ⅰ遺跡は富山県射水郡小杉町下条に所在している。小杉町は富山県のはば中央に位置しており、北部に平野、南部に丘陵地を配し、それぞれ射水平野・射水丘陵と呼ばれる。当町はこの射水平野の西部にある。

射水平野はおよそ1万~8千年前に形成された沖積層で、砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖のほうに後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は繩文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高5m以下の小杉町は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化によって海面が後退し、河川などの土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟(現富山新港)として形を残すのみとなり、広々とした平野部が開けていった。赤田Ⅰ遺跡は、このようにして形成された射水平野を流れる下条川右岸の平野部に立地する。下条川は水量と勾配が少ないため橋下条付近より谷底平野を成していく、戸破付近からは自然堤防を形成している。遺跡はこの自然堤防の東縁辺にあることから、河川の氾濫による洪水被害を受けにくい場所であったと考えられる。

赤田Ⅰ遺跡の主たる存続時期である古墳~奈良・平安時代にかけては町域の遺跡数も多く、丘陵地には生産遺跡が、平野部には集落遺跡がそれぞれ立地する傾向がみられる。丘陵地では下条川をはじめとする中小河川の小支流が複雑に谷を刻んで樹枝状の地形となっていて、その丘陵縁辺には小杉流通業務団地内遺跡、小杉丸山遺跡、上野南遺跡、石太郎G~J遺跡、赤坂A~D遺跡、水蔵場A~D・H・I遺跡など生産遺跡が集中している。これらの生産遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内でも最大規模となっている。いずれも須恵器生産のための窯跡や鉄生産のための製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が多く見つかり、炉や窯を繁くのに適した傾斜のある地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが生産遺跡の場として好条件であったと考えられている。

平野部では河川に近い地域に北高木遺跡、荒畠遺跡、南太閤山Ⅰ遺跡、小杉伊勢領遺跡、HS-04遺跡、黒河尺目遺跡などの集落遺跡が分布し、掘立柱建物や堅穴住居、溝状造構が確認されている。また、南太閤山Ⅰ遺跡では土器の側面に顔が描かれた人面墨書き土器や斎串・人形が出土しており、いずれもまじないや神事などの儀礼に用いる遺物であることから集落ではたびたび祭祀が行われていたと考えられている。平成14年に実施された赤田Ⅰ遺跡発掘調査では幅約3.7~12m、深さ約1.5mの水路内より、斎串・人形・馬形・鳥形などの木製品のか、墨書きや赤彩を施したり漆が付着した土師器類が複数折り重なった状態で大量に出土し、これらの遺物を意図的に川へ投棄する祭祀が行われていたとみられる。また、水路の下層からは獸骨や齒なども検出され、周辺の遺跡からも本物の牛馬の代わりにそれらの動物をかたどった土製品が出土している。当時の都の風習では牛や馬を生贋として水神に捧げ雨乞いや豊穰を祈願する犧牲馬(牛)の祭礼が行われていたとされており、この地の集落においても同様な祭祀儀礼が日常的に行われていたことが窺える。

下条川をはじめとする射水平野の中小河川は、上記のような生活・消費地である平野部の集落と生産地である丘陵地とを水運で結んで、さらに放生津潟を経由して高岡市伏木にあった越中国府へと物資を運ぶ交通路として機能したと考えられる。

(高野)



第1図 調査地と周辺の主な遺跡(1:50,000)

番号	名 称	種 別	時 代	備 考
1	赤田 I 遺跡	集落	弥生・古墳・平安・中世	平14年本調査、平16年本調査
2	赤田遺跡	散布地	弥生	平4年一部試掘
3	赤田東遺跡	散布地	不明	平13年一部試掘
4	下条新遺跡	散布地	弥生	平4年一部試掘
5	二の井II遺跡	散布地	弥・古代・奈・平・中・近世	
6	二の井II遺跡	散布地	弥・古代・奈・平・中・近世	
7	二の井IV遺跡	散布地	古墳・中世・近世	
8	团山遺跡	散布地・墓	绳文(前期)・弥生(後期)	昭44年本調査 県指定史跡
9	团山東遺跡	製鉄	奈良	昭44年本調査
10	中山中遺跡	集落	旧石器・绳文・弥生・古墳・奈良	昭56・元平年試掘、平2・13年本調査、平16年試掘
11	中山南遺跡	古墳	弥生	昭50年県指定史跡、昭38・43年本調査
12	大間南北遺跡	製鉄	古代・奈良・平安	昭44年本調査
13	日の宮遺跡	散布地・城	弥生・古代・中世	平13年一部試掘
14	南太閤山 I 遺跡	集落・墓	绳・弥・古墳・奈・平・近世	
15	南太閤山 II 遺跡	製鉄	绳・弥・古墳・奈・平・近世	
16	干田遺跡	集落	弥生(後期)・古墳・奈・平・中世	
17	上野遺跡	集落・墓	绳・弥・古代・奈・平・近世	
18	黒河尺目遺跡	集落	旧石器・绳・奈・平・中・近世	
19	針原西遺跡	集落	弥生・古墳・奈良	
20	小杉伊勢領遺跡	散布地	绳・弥・古代・奈・平・近世	平3年本調査

第1表 赤田 I 遺跡の主な周辺遺跡

## II 調査に至る経緯

平成13年8月9日小杉町下条(赤田)地内の土地区画整理事業予定地約14haで、埋蔵文化財の有無を確認する分布調査依頼が事業者から町教委に提出された。依頼地の南側では周知の埋蔵文化財包蔵地(赤田東遺跡)の存在は知られていたが、当該地は未踏査地であったため遺跡の有無は不明となっていた。

分布調査は9月下旬から10月中旬を目途に実施を予定していたが、他事業の対応のために調査が遅れ、全城の踏査を終えたのは翌年の2月22日であった。踏査の結果、古墳時代及び古代の遺物が3箇所でまとまって見られ

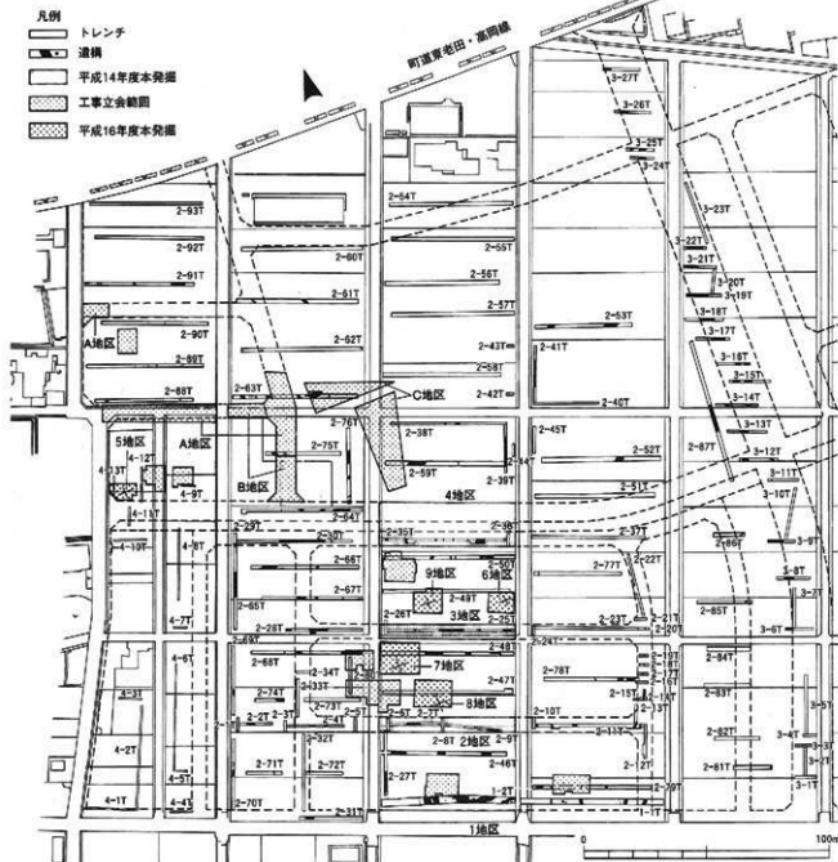
No	年度	所 在 地	開発用途	調査期間	調査の種類	対象面積	発掘面積	検出遺構	出 土 遺 物
1	13	下条1284-1外	宅地	3.18~20 (延べ3日間)	工事立会	216m <sup>2</sup>	216m <sup>2</sup>	古墳;溝 古代;溝	土師器、須恵器 珠洲、中世陶器・磁器
2		下条1092-2付1筆	道路用地	4.17~5.10 (延べ10日間)	試掘	4,278m <sup>2</sup>	802m <sup>2</sup>	溝	土師器、須恵器、珠洲 中世陶器・磁器
3		下条1092-2付1筆	店舗用地	5.27~6.10 (延べ10日間)		61,556m <sup>2</sup>	1,952.8m <sup>2</sup>	溝・土坑	土師器、須恵器、珠洲 中世陶器・磁器
4		下条1092-2外	道路用地	7.13~10.14 (延べ47日間)	本発掘	2,170m <sup>2</sup>	2,170m <sup>2</sup>	堅穴住居 自然流路 溝・土坑	古墳土師器、須恵器 綠釉陶器、壺串、符 漆器、形代
5	14	下条1322	宅地 道路用地 公園用地	9.3~4 (延べ2日間)	試掘	4,166m <sup>2</sup>	174m <sup>2</sup>	溝1	土師器、珠洲
6		下条1309付5筆	宅地 道路用地	9.18~20 (延べ3日間)		616m <sup>2</sup>	616m <sup>2</sup>	溝1・土坑1	土師器、須恵器 越中織部、近世陶器
7		下条1310付1筆	道路用地	12.3~4 (延べ2日間)	工事立会	265m <sup>2</sup>	265m <sup>2</sup>	溝・土坑	土師器、須恵器、珠洲 越中織部、青磁、白磁
8		下条1066	店舗用地	2.28 (延べ1日間)		2,017.24m <sup>2</sup>	656.98m <sup>2</sup>	溝3	土師器、須恵器
9		一条8番6-7	宅地	5.9 (延べ1日間)	試掘	457m <sup>2</sup>	36m <sup>2</sup>		土師器、陶磁器
10		一条12番17	*	10.20 (延べ1日間)		232m <sup>2</sup>	113m <sup>2</sup>		
11	15	一条11番19	*	12.1 (延べ1日間)		217.03m <sup>2</sup>	123m <sup>2</sup>		
12		一条11番14	*	3.22 (延べ1日間)	工事立会	236m <sup>2</sup>	21m <sup>2</sup>		
13		一条5番8	*	3.29 (延べ1日間)		392m <sup>2</sup>	153m <sup>2</sup>		
14		一条4番2	*	4.30 (延べ1日間)		227.92m <sup>2</sup>	84m <sup>2</sup>	古墳;溝	
15		一条5番9	*	5.20~6.4 (延べ11日間)	本発掘	181m <sup>2</sup>	64m <sup>2</sup>	古代;溝	土師器
16		一条10番13	*	6.7~16 (延べ8日間)		199.30m <sup>2</sup>	108m <sup>2</sup>		須恵器、土師器 近世陶器・磁器
17		一条12番11	*	6.11 (延べ1日間)	工事立会	300m <sup>2</sup>	64m <sup>2</sup>		
18		一条5番8	*	6.16 (延べ1日間)		180m <sup>2</sup>	82m <sup>2</sup>	古墳;土坑;溝	
19		一条11番3-4	*	9.28~10.28 (延べ15日間)		215m <sup>2</sup>	207m <sup>2</sup>	古代;土坑;溝	土師器、須恵器、珠洲 中世陶器、近世陶器
20	16	一条11番16	*	10.25~11.19 (延べ17日間)	本発掘	266.70m <sup>2</sup>	165m <sup>2</sup>	古代;溝3	土師器、須恵器、木製品
21		一条10番15	*	11.18~26 (延べ5日間)		289.13m <sup>2</sup>	112m <sup>2</sup>	古代;溝1	土師器、須恵器、鉄滓 木製品、近世陶器
22		一条11番2	*	11.30 (延べ1日間)		212.66m <sup>2</sup>	44m <sup>2</sup>		
23		一条12番14	*	12.1~2 (延べ2日間)		265m <sup>2</sup>	14m <sup>2</sup>		
24		一条5番7	*	12.6~8 (延べ2日間)	工事立会	197.66m <sup>2</sup>	8m <sup>2</sup>		
25		一条10番3	*	12.14 (延べ1日間)		226.31m <sup>2</sup>	131.53m <sup>2</sup>		
26		一条11番17-18	*	12.18 (延べ1日間)		443.57m <sup>2</sup>	136.34m <sup>2</sup>		

第2表 小杉町赤田土地区画整理事業(一条)地内調査実施一覧 ※ H15年度以降の所在地は不換地番を示す。

たので、4月以降に約3,800m<sup>2</sup>で遺跡の範囲確認のための試掘調査を実施することになっていた。しかし、田植え準備の始まる3月末までに行なう造成予定地内の仮設用排水路敷設場所が試掘予定地の1箇所と重複していたので、掘削時に工事立会することになった。立会の結果、古墳時代と古代の溝が確認され、遺物も良好な状態で遺存していたため、先の分布調査結果と勘案し、計画地の西側半分に当たる約7haで遺跡範囲確認と今後の取り扱いを明確にする試掘調査を進めることになった。

試掘調査は造成工事の優先箇所である道路予定地から開始し、宅地及び商業施設用地へと順次行なっていった。道路用地の試掘では、調査対象地のはば中央を北東方向に流れる幅4~5mの平安時代に祭祀を行なった川跡を確認し、大量の土器器塊の完成品や祭祀関連の木製品が出土した。また、宅地部分では所々で古墳時代の土器と遺構が検出された。これらの結果を踏まえて、土地区画整理事業地内の遺跡の取り扱い協議を重ね、盛土保存・工事立会・慎重工事の3区域を明示し、工事が遺構に与える影響を判断しながら、随時調査を実施することになった。

(原田)



### III 調査の概要

#### 本発掘調査の経過

試掘調査及び平成14年度本発掘調査の結果を受け、赤田土地区画整理事業地5・10・11街区における宅地部分について本発掘調査の必要性が検討され、平成16年5月20日から同年11月26日までの延べ56日間において合計5箇所(発掘調査面積656m<sup>2</sup>)で調査を実施した。調査区は平成14年度の本発掘調査に引き続いで設定され、5地区、6地区、7地区、8地区、9地区的順に随時調査を行った。いずれの地区も造成工事により山砂の盛土がなされているため、まず重機で盛土と旧耕作土を除去し、その後に作業員を投入して包含層削除・遺構検出・遺構掘削を行った。作業の進捗状況に応じて、写真撮影や遺構平面図作成などの図化・記録作業を順次実施した。調査終了後は全ての地区で埋め戻しを行って現況復帰を図っている。

#### 基本層序

各調査区の基本層序は大きく1~4層に分層される。いずれの地区も上から1層目には山砂で厚さ約20~40cmの盛土がなされて、山砂の下には厚さ約20cmの盛土、20~30cmの旧耕作土、10~20cmの遺物包含層が引き続いで堆積する。地表面は現況地盤より約1mの深さで検出される。6~9地区ではこの基本層序に準じた土層堆積がみられるが、5地区は地表面直上まで厚い盛土がなされており造成時に削平を受けたものとみられる。

第1層 にいぶ黄橙色砂質土(10YR6/4) 粘性なし、しまりなし、山砂の盛土

第2層 黒色粘質土(2.5YR2/1) 粘性あり、しまりややあり、礫などを含む盛土

第3層 灰色粘質土(5Y5/1) 粘性なし、しまりややあり、植物遺体含む、旧耕作土

第4層 黒褐色粘土(10YR3/1) 粘性なし、しまりややあり、遺物包含層

地山土 暗灰色粘土(10YR6/1) 粘性なし、しまりなし、ややシルト質を含む

#### 調査区概要

本年度の調査地は、平成14年度の調査区に近接する箇所であった。前年度の調査区である2~4地区に挟まるように6~9地区を発掘し、両地区との関連性を考慮しつつ調査を実施した。5地区のみやや西側に離れた調査地となった。

5地区は土地区画整理事業地西端部のやや下条川寄りに位置し、発掘面積は64m<sup>2</sup>、地表面の標高は約5.2mである。調査区を横切るように溝状遺構1条(SD01)が確認され、覆土内より古墳時代に属する遺物が多数出土している。

6地区は平成14年度調査の3地区北側に近接し、発掘面積は108m<sup>2</sup>、地表面の標高は約5.2mである。溝状遺構11条、小ピット2基を検出した。出土遺物はSD01・07から珠洲焼が、包含層では須恵器や越中瀬戸などが確認されている。

7地区は3地区的南に近接し、発掘面積は207m<sup>2</sup>、地表面の標高は約5.3mである。溝4条、小ピット3基、土坑7基を検出した。SK08・09より古墳時代~古代の遺物が出土している。

8地区は調査区の最も南に位置し2地区に近接する。発掘面積は165m<sup>2</sup>、地表面の標高は約5.4mである。遺構は溝3条が検出されており、なかでも規模の大きいSD01からは多くの遺物が出土した。遺物は土師器の壺と皿が大量に出土し、墨書き土器や内外面に赤彩を施されたものも確認された。さらに須恵器や木製品(曲物・盤・紡織具・下駄・木札・牽串・馬形)も多く出土している。

9地区は6地区の西側約20mに位置し、3地区に近接する。発掘面積は112m<sup>2</sup>、地表面の標高は約5.2mである。調査区東端と西端に溝2条を検出、遺構内から土師器や須恵器などの遺物が出土している。(高野)

## 1. 試掘調査及び工事立会出土の遺物

試掘調査及び工事立会では弥生土器、土師器、須恵器、縁釉陶器、灰釉陶器、中世土師器、珠洲、唐津、越中瀬戸、中国陶磁、土製品、石製品等弥生時代中期から近世にかけての多種多様な遺物が多く出土している。紙面の制約もあり、ここでは時代ごとに遺物を概観して紹介したい。

弥生時代中期の土器(第14図 42、第19図 208、第24図 324~343、第25図 344・345)

工事立会のB地区で出土している。壺、広口壺、無頸壺、台付鉢が出土している。文様は櫛描文、刻み目、斜行短線文等が見られ、調整は主として内外面のハケメが顯著に見られる。弥生時代中期でも後半にあたり、小松市八日市地方遺跡のⅧ期[福澤 2003]に並行する段階と考えられる。

弥生時代後期～古墳時代前期の土器

器種は壺、壺、器台、鉢、ミニチュア製品等が出土しており、壺は頭部が「く」の字で口縁端部を面取りするものが見られる。時期は月影式と考えられる。概ね時期は法仏式から月影式段階に比定される。

壺は長頸壺と底部のみのものが出土している。長頸壺は頭部がやや外傾して直線的に伸びるものとやや外反気味に伸びるものとが見られる。時期は月影式と考えられる。器台は口縁部のみの出土であり、他器種の可能性も多い。口縁に3条の棒状浮文を施している。時期は月影式と考えられる。鉢(第14図 47)は把手付鉢の把手部分であり、鉢そのものはかなり大型とみられる。時期は法仏式に比定される。ミニチュア製品(第20図 212)は底部より内湾して摘みあげた形状をなす。

古墳時代中期の土器(第14図 53~57、第22図 264~269・292、第23図 294~310、第25図 346・347・363~370)

土師器の壺、壺、高坏、鉢、ミニチュア製品が出土している。時期としては、田嶋明人氏の漆町11~12群[田嶋 1986]の範疇であり、概ね古墳時代中期前半にあたる。

壺は頭部が「く」の字に屈曲するものが大半を占め、口縁部の形態は端部に面取りを施すもの。口縁端部を肥厚させるもの。口縁部の中位で稜をつくり、端部で外反して面取りをなすものが見られる。壺は、頭部が「く」の字状に屈曲し、体部は球胴形で底部が丸底あるいは扁平な底となるものが占める。口縁部の形態は、外傾して端部を面取るもの。稜をもち、やや直立気味の口縁をつくるもの。単にやや直立ぎみの短い口縁をもつ小型の製品が見られる。高坏は坏部が平坦な底部から外傾して伸展するもの、やや丸みをもつ底部から外傾し伸展するものが見られる。脚部は釣鐘状あるいは、やや内傾した脚部に裾部が屈曲して「ハ」の字に開くものが多く見られる。鉢は口縁部がやや外反するもので体部は半球形で丸底と考えられる。ミニチュア製品は底部からやや内湾気味に摘み上げたもので調整は見られない。

古代の土器、陶器

土師器、須恵器、縁釉陶器、灰釉陶器が出土している。土師器は壺、壺、皿が出土している。壺は図示出来たもののほとんどが長財壺の口縁部である。端部を肥厚させて、内側に稜をもたせたものである。時期は9世紀後半から10世紀前半と考えられる。壺はロクロ成形で底部は回転糸切りで不調整のものがほとんどであり、無高台のものである。装飾としては赤彩を施すものが2割程度見られる。また、タール状の付着物が口縁部に見られるものも出土している。壺の形状としては、底部から口縁端部にかけて、やや内湾しながら立ち上がるものの、直線的に立ち上がるものの、緩やかに内湾し、口縁でやや外反するものの3タイプに分類される。皿も壺と同じくロクロ成形で無高台の皿Aについては回転糸切り不調整のもので、高台の付く皿Bは、皿Aの形状のものに高台が貼り付けられるものである。皿の形状としては底部から直線的に広がるもので浅いものである。装飾として赤彩のものは見られないが、灯火によるタール状の付着物は皿A、皿Bともに見られる傾向である。時期は壺、皿とともに9世紀後半から10世紀前半のものであると考えられる。

須恵器は壺A、壺B、皿、蓋、壺、壺、双耳瓶、瓶類等が出土している。壺Aは底部より直線的に立ち上がる浅身のものが多く見られる。壺Bは壺Aより、深身のものが多く、形状は直線的に立ち上がるものと、底部でやや内湾気味に立ち上がるものとがある。蓋は扁平なもので、頂部に扁平な宝珠摘が付くものと付かないものとがあり、口縁端部は丸く納められるものと、面取られているものがある。壺は口縁部を折り返して面取るものが見られ、文様では櫛状工具による波状文が見られる。瓶類では肩部に耳をつけた双耳瓶の出土が見られる。須恵器の時期としては、概ね9世紀から10世紀前半のものと比定される。ただ、壺等はそれ以前の古い様相が見られるため、8世紀のものと考えたい。須恵器の傾向としては土師器壺や皿の時期より古い様相を示していると考えられる。

綠釉陶器(第19図 204・205) 壺の口縁部と底部が出土している。素地は軟質のもので洛北産である。時期は9世紀後半から10世紀初頭のものと思われる。

灰釉陶器(第19図 193) 皿の底部である。胎土から尾北産の製品と見られる。高台は三日月高台をなし、施釉はハケ塗りである。猿投窯K-90段階のものと並行するS-4段階に比定され、時期は9世紀後半から10世紀初頭のものと思われる。

#### 中世の土器、陶磁器

中世土師器、株洲、白磁が出土している。中世土師器は皿(第14図 49・58)が出土している。49はてづくね成形のもので口縁部に一段ナデを施すもので、灯火具として使われ、口縁部にはタール状の付着物が見られる。58はロクロ成形の製品で口縁部にロクロナデを施し、大きな窪みを作り出している。

株洲は壺(第21図 256)、壺(第13図 18)、擂鉢(第13図 19・20、第14図 60、第19図 200、第23図 322、第25図 361)が出土している。壺は口縁部のみの出土で吉岡編年のⅡ期で12世紀後半から13世紀前半のものと考えられる。壺は体部上半のみの出土で櫛目文が施され、吉岡編年のⅡ期にあたる。擂鉢は口縁端部に波状文をめぐらせるものも見られ、時期は吉岡編年のⅡ期・Ⅳ期・Ⅴ期の製品が見られる。

白磁(第14図 50)は底部を欠損しているが見込みから内薄して立ち上がるるもので端部はやや先細るものである。太宰府分類の白磁直頸にあたり、11世紀後半から12世紀前半のものに比定する。

#### 近世の土器、陶磁器

越中瀬戸、唐津、小杉焼が出土している。越中瀬戸(第14図 40、第19図 192・197、第25図 362)は壺と皿が出土している。192は灯明皿に用いられたもので口縁部にタール状の付着物が見られる。197はいわゆるひだ皿と呼ばれるもので口縁部に工具を当てて波板状にめぐらせたものである。時期は17世紀前半に比定される。362には灯火用に使用されたもので内面にカエリが付き、油を満たす部分と芯置きが作られているものである。

唐津(第14図 45、第19図 195・196)は壺、花瓶、擂鉢が出土している。45は壺で底部のみの出土で、灰釉が掛けられ高台部分は露胎である。擂鉢は口縁端部が玉環状となり、体部は半球形に近い形状をなすものと考えられる。時期は17世紀後半から18世紀前半のものである。

小杉焼(第19図 198)は蓋である。全面に青緑色の釉薬をやや厚めに施し、かえり部分の釉薬は身の受部と合わせるために剥ぎとられている。18~19世紀にかけての遺物である。

土製品(第14図 48) 48は管状土錘である。いわゆる櫛形に分類されるものである。

石製品(第14図 46、第19図 184、第20図 237) 基石、石斧、砥石が出土している。46は基石である。黒色のものでやや形状をレンズ状に整えたものである。184は扁平片刃石斧である。蛇紋岩系の石を加工して片側に刃部を形成するものである。237は砥石である。薄い板状に加工しており、使用により下端が磨り減り細くなっている。

錢貨(第22図 293) 293は銅銭で表面に「開元通寶」の4字が鏽出され、裏面は無文である。唐銭であり初鑄年は621年である。

(藤田)

## 2. 本発掘調査 5 地区

### (1) 遺構

調査区のほぼ全域にわたって溝1条(SD01)が確認されており、遺物は全てこのSD01から出土している。

SD01(第3・4図) 5地区的南東端から北西端へカーブを描くように伸びており、溝の規模は全長が約10m、幅は3.2~4m、深さは最深部で約20cmを測る。溝底面からの地山の立ち上がりは緩やかで断面形は扁平なV字型となる。底面に大きな傾斜はみられないが北西端の標高が南東端よりわずかに高くなっていることから、水流は南から北へと流れているとみられる。溝の覆土には炭化物を含む黒色粘土層が厚く堆積しており、土層は6つに細分される。1・2層からは多くの遺物が出土しており、いずれも溝の中心からやや南寄りの部分に集中している。南東から北西への流れの軸に沿うようにして土師器が多数確認されている(第4図)。(高野)

### (2) 遺物

土師器の壺、壺、高坏、器台、鉢、小型壺を確認している。

土師器(第26・27図) 壺(第26図 371~384)は口縁部のみ図示できたものが多く、その形状はいわゆるくの字壺と呼ばれるものと、有段口縁の形態をとるものを見られる。くの字壺は3種に細分され、頸部が直立気味となって短く外反するもの、頸部でゆるやかに屈曲して口縁端部を丸く仕上げるもの、頸部で屈曲して端部をわずかに直立あるいは外傾させたものが見られる。有段口縁のものは、頸部で強く屈曲し端部を直立させて段をなすものと、頸部で短く屈曲し付加状口縁を作り出すものがある。

壺(第26図 385~393)は9点を図示している。385、391は、くの字状に外反する短い口縁部をもつものである。385は体部が球胴形をなすとみられ、調整は外面にタテあるいはやナナメ方向のハケメを、内面にはケズリを施す。386は直口壺の形状を呈するもので、口縁部に一段稜をもつ。387は有段のもので、頸部で大きく屈曲して口縁はわずかに外反して段をつくる。388、389は有段で口縁部が伸展するものである。388の体部は球胴形をなす。390は球胴形の体部をもつものと考えられ、頸部に一段稜をもつものである。392、393は長く伸展した頸部をもつもので小型丸底の体部がつくものと考えられる。

高坏(第27図 403~407・409・410・413~416)は脚部か接合部のみ出土しており、全体形状が見られるのは413のみである。坏部の形状は、平坦な底部から外傾して開くものと、塊状を呈して坏底部から内湾するもので浅いものが見られる。脚部は釣鐘状の短いものであり、裾部から屈曲して大きく開くものと、やや内傾しつつ直線的な脚部に裾部が屈曲して大きく開くものがある。

器台(第27図 408・411・412)は小型で皿状の受部がつき、台部が直線的にひろがるものである。412は小さな皿状の受部をもち、口縁端部は丸みをもつ。台部は上部に4孔の穿孔が施されている。

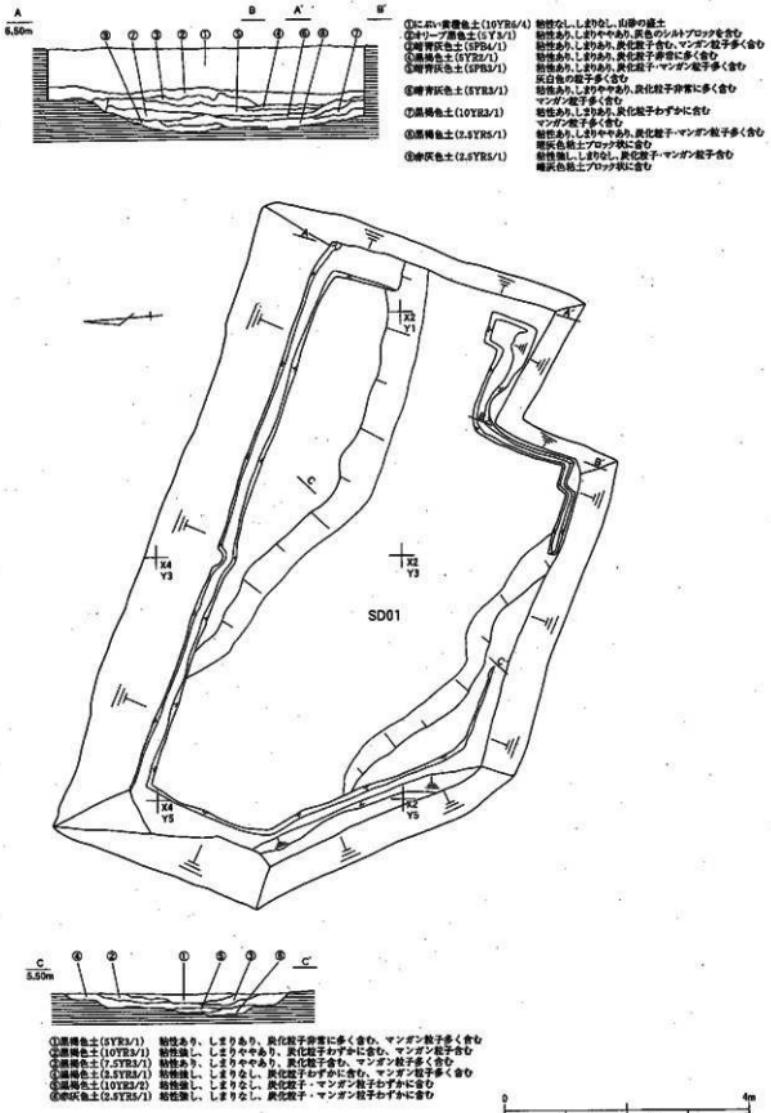
鉢(第27図 417)は底部に孔をもつもので、体部はゆるやかに立ち上がり、端部でやや内湾する。内面の調整にはハケメが施される。

小型壺(第27図 418~420)は体部が球胴形のものと扁平なものとがある。底部はやや丸底氣味のものと平底のものとが見られる。

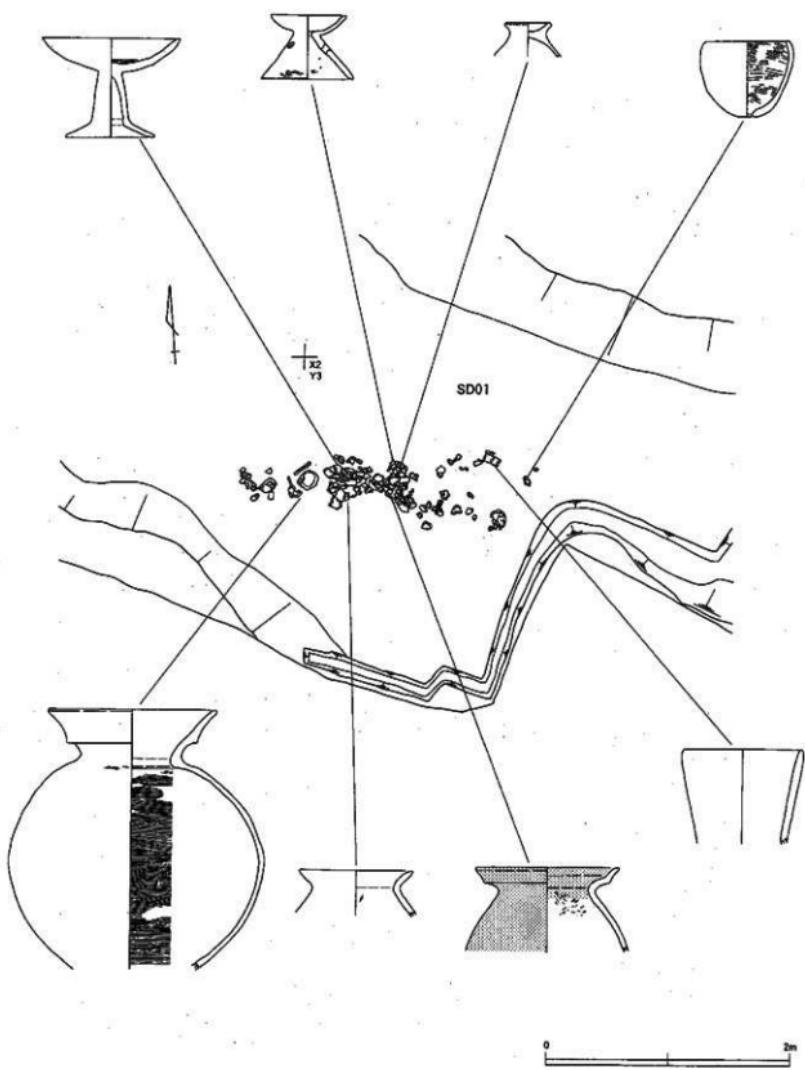
その他(第27図 394~403)にも機種の判別が困難な遺物が数点確認されているが、底部は壺あるいは壺につくものと考えられる。401は高坏の坏部と脚部の接合部分と考えられる。

5地区出土の遺物は総じて古墳時代前中期から中期初頭に属するとみられ、田嶋明人氏の編年でいう、漆町10群~11群に相当する[田嶋 1986]。また、県内の資料で述べれば、小矢部市五社遺跡[三島 1998]や小杉町北野遺跡[小杉町教委 1987]より、やや古い様相を示していると思われる。壺に口縁端部を肥厚させた、いわゆる布留系のものは見られないが、器台が組成として残り、塊形の器種が見られないことから、上記の年代と判断したい。

(藤田)



第3図 5地区構造図(1:80)



第4図 5地区SD01遺物出土状況(1:40)

### 3. 本発掘調査 6 地区

#### (1) 遺構

6 地区は溝11条(SD01~11)、小ピット3基(SP12~14)が調査区の西側にやや集中して確認された。溝は南北方向に伸びるSD01・02・08・10と東西方向に伸びるSD03~07・09・11とに大別される。遺物が確認されたのはSD01とSD07のみである。SP12・13は調査区の北側にまとめて検出されている。

SD01(第5・6図) 調査区南西部分を南北に横切るように確認された溝である。規模は全長5.5m、幅60cm~1m、深さは最深部で60cmを測る。平面形は南北にはば直線的に伸びており、幅は南端でやや狭く西端で広くなる。断面形は逆台形を呈する。遺構の覆土は、黒色粘土層・黒褐色粘土層・褐灰色粘土層・黄灰色粘土層の4層で構成されている。覆土内からは土器類・須恵器・珠洲焼などの小片が出土している。

SD07(第5・6図) 調査区南端から東方向に伸びる溝であり、全長3m、幅60cm、深さ30cmを測る。SD08と交差する部分で途切れおり、断面形は逆台形を呈する。覆土は単層で炭化粒子を含む褐灰色砂質土である。(高野)

#### (2) 遺物

6 地区はSD01・07から少量の遺物と、包含層より多量な遺物の出土が見られた。遺構出土遺物はSD01から珠洲の擂鉢が出土し、SD07からは产地不明の擂鉢が見られた。包含層からの出土遺物は須恵器の壺・甕などがあり、さらに越中瀬戸の皿や珠洲の片口鉢・白磁の境などが出土した。

須恵器(第28図) 須恵器は包含層からの出土であり、甕・壺の破片である。出土遺物の一部には口縁部や底部の破片が見られたものの、その多くが胴部の破片であった。

壺(第28図 423・424・426~428) 壺は胴部の破片が大半であり、内面には当て具痕である同心円文が付く。口縁部の破片(423)は、縁部を外方へ引き出す形状のものである。壺は高台の高いもので自然釉が掛かる。

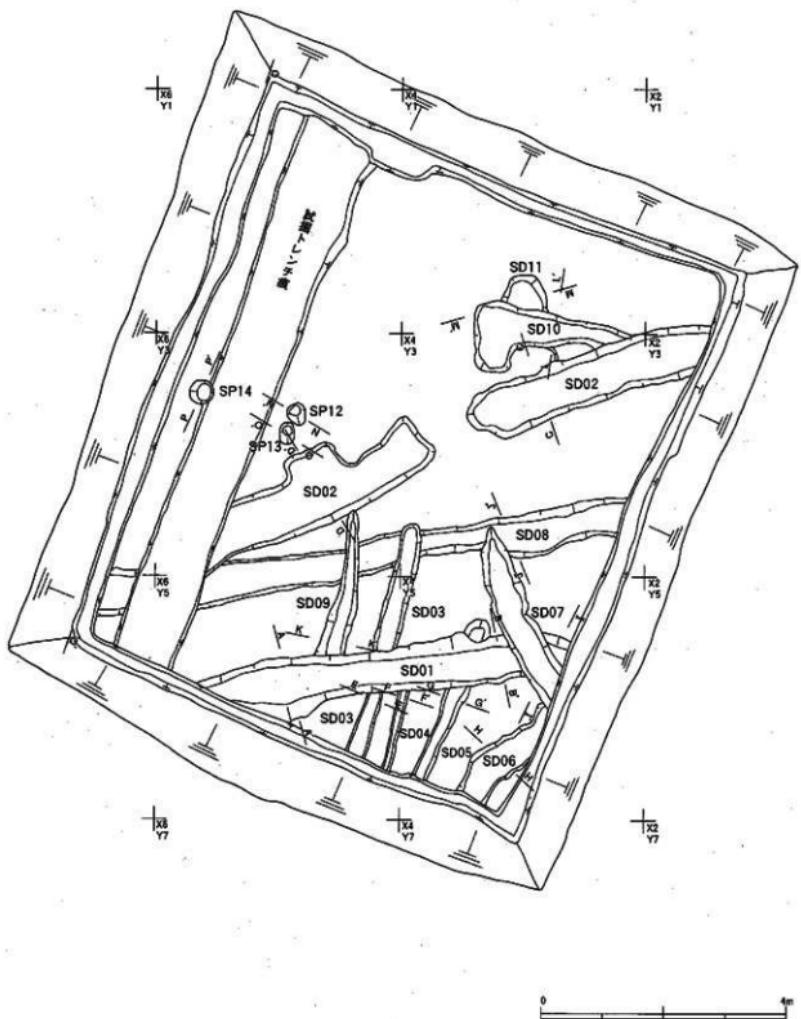
珠洲(第28図) SD01より出土した珠洲の擂鉢(421)である。口縁端部はやや肥大気味であるものの、水平な端部を作り出している。鉢目は粗い柳歯原体が見られ、吉岡編年Ⅲ~Ⅳ期頃[吉岡 1994]のものと考えられる。

包含層より出土した遺物からも珠洲は出土している。すべて底部の破片である(429・430・431)。底部は静止糸切り痕が残り、鉢目は粗く柳歯原体は幅の狭い物であり深く入り込むものである。吉岡編年Ⅲ~Ⅳ期頃のものと考えられる。

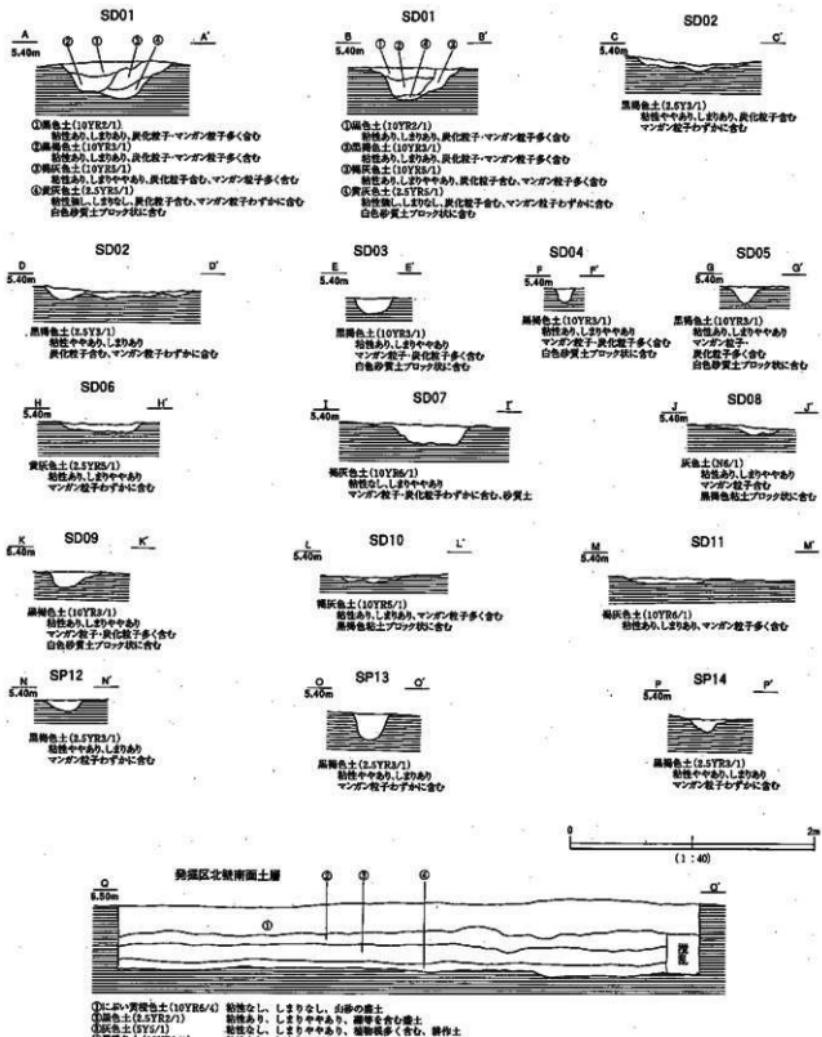
越中瀬戸(第28図) 越中瀬戸はすべて包含層よりの出土であった。器種は皿と向付である(432・433・435)。皿は口縁部から底部にかけての破片(432)と底部のみのもの(433)が出土している。口縁部から底部にかけてのものは(432)、体部中位で角度を変え外反し口縁端部に至る。釉薬は鉄釉であり体部中位付近まで施釉している。内面は内ハケである。体部中位外面と見込み付近には煤痕が残る。底部のみのもの(433)は、高台は深く削り出した高台であり、断面三角形である。体部下位には明瞭な稜線が見られ、外反の角度が変化する。釉薬は灰釉を施釉しており、見込み付近には明瞭な釉止めの段が見られる。向付(435)は高台がやや浅めな削り出し高台であるものの断面三角形を呈し、底部から体部中位にかけて丁寧なロクロヘラ削りを施している。口縁部の形態は、体部上位で角度を変え屈曲し、直立して立ち上がる。縁部はやや肥厚する。釉薬は鉄釉を施釉しており、見込みは内ハケであり、さらに重ね焼き痕も見られた。越中瀬戸は総じて宮田編年Ⅱ期頃[宮田 1997]と考えられる。

白磁(第28図) 白磁塊は包含層より出土している(439)。内湾気味に立ち上がった体部は、上位で緩やかに角度を変え外反しながら口縁端部に至る。灰白色釉を施釉し、胎土はくすんだ白色である。太宰府分類V類頃[太宰府 2000]と考えられる。

(新宅)



第5図 6地区造構平面図(1:80)



第6図 6地区造構土層図

#### 4. 本発掘調査 7地区

##### (1) 造構

7地区は溝4条(SD01~04)、小ピット2基(SP05・07)、土坑7基(SK08~14)を確認した。遺物が確認された造構はSD01・02、SK08・09である。SD01・02は調査区を南北方向に横切るように伸びており、SK08・09はこれらの溝にかかる形で検出されている。調査区の中央部には試掘トレンチ(2-48T)の痕がみられ、調査区の北寄り部分には、近代以降の杭列跡が東西に走っているのを確認した。

SK08(第7・8図) 調査区南西部に位置する土坑で、平面形は東西が約2.5m、南北が約1.2mの不正規円形を呈する。東端部はSD01と切り合っており南西部部分は調査区外へと延びている。SD01との切り合い関係から、SD01はSK08より時期的にやや新しい造構とみられる。深さは最深部で約15cmであり、断面形はやや扁平なV字型を呈する。覆土は3層に分層され、1層目の炭化物を多量に含む層で遺物が出土している。遺物は土坑の中央付近に土師器の小片などがまとまって確認された。

SK09(第7・9図) 調査区の北東部分に位置する土坑で、SD02の底面から東岸にかかるように確認された。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は一辺が60~70cm、深さは最深部で約30cmを測る。断面形は逆台形で、覆土は灰色粘土層・黄色粘土層・褐色粘土層・青灰色粘土層を含む7層からなる。遺物は1層及び6層上面から出土しており、ほぼ完形に近い土師器壺や皿などが出土している。SK09はその形状から柱穴である可能性を考えられるが、覆土や底面に柱痕は確認されておらず、周囲にも柱穴はみられなかった。

SD01・02(第7図) 調査区の中央を南北に横切る溝である。SD01は全長約10m、幅約80cm~1.4m、深さ約10cmを測る掘り込みの浅い土坑で、調査区北側のSD02に接する近辺にて途切れる形となっている。覆土より土師器・須恵器・珠洲焼の小片が出土している。SD02は長さ約10m、幅20cm~2.4m、深さ10~25cmの溝である。両端は調査区外に伸びており、北端に長径1.9m・短径1mの土坑状の落ち込みがみられる。覆土より須恵器がわずかに検出されており、SD01・02ともほぼ同時期の造構であると考えられる。

(高野)

##### (2) 遺物

本地区からの遺物の出土はSD01・02、SK08・09・11などの造構から、土師器・須恵器・珠洲・瀬戸美濃などが見られた。

土師器(第42図) 土師器はSD01・02、SK08・09・11から壇A・壇B・皿B・壺・鍋などが出土している。

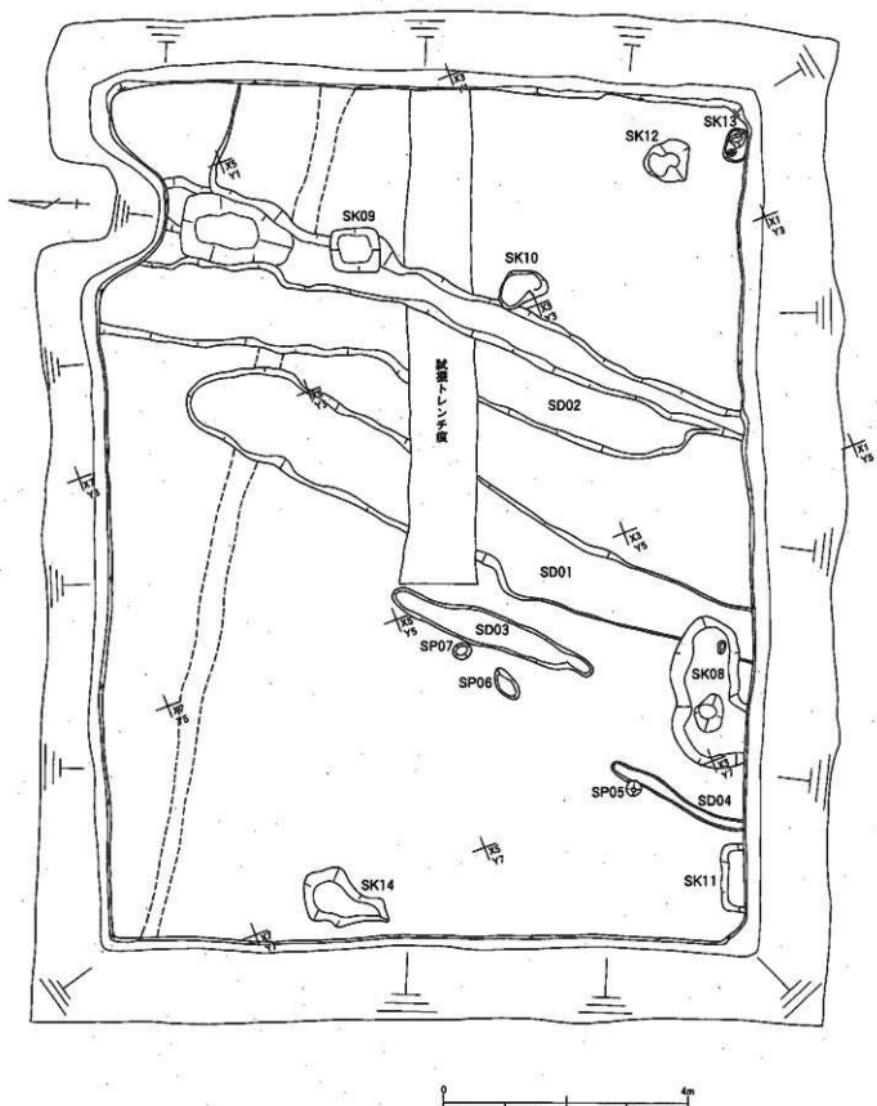
土師器壺Aと皿BはSK09・11より出土している。底部は回転糸切り未調整であり、底部から内湾しながら立ち上がり口縁端部に至るものである。皿Bは高台が「ハ」の字に開き、底部には回転糸切り痕が残るものも見られた(795)が、他の物はナデによって消されていた。壺A・皿Bは8地区SD01で出土した物と同様なものであり、時期は内田編年5段階(内田 1997)、10世紀初頭頃と考えられる。鍋(777)は口縁端部がやや玉縁状に肥大するものであり、内面に緩やかな段が見られる。

須恵器(第42図) 須恵器はSD01・02、SK08より壺・壺の破片が出土している。壺(778)は内面にハケメ痕が見られるもので、壺は(779・786・797)内面に同心円文の当て具痕が見られ、外面には叩き痕が残る。時期は不明である。

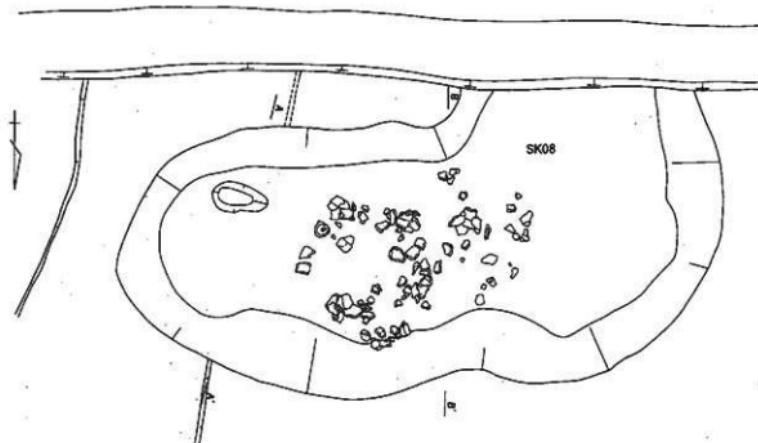
珠洲(第42図) SD01より壺の胴部片が2点出土している(780・781)。780は壺の胴部である。781は器面外面に叩き痕が見られ、内面には当て具痕が残る。時期不明である。

瀬戸美濃(第42図) SD02より瀬戸美濃が出土している。遺物は小片であり、器種不明である(799)。器面外面には灰釉が施釉されており、内面はロクロナデ痕が粗く残る。

(新宅)

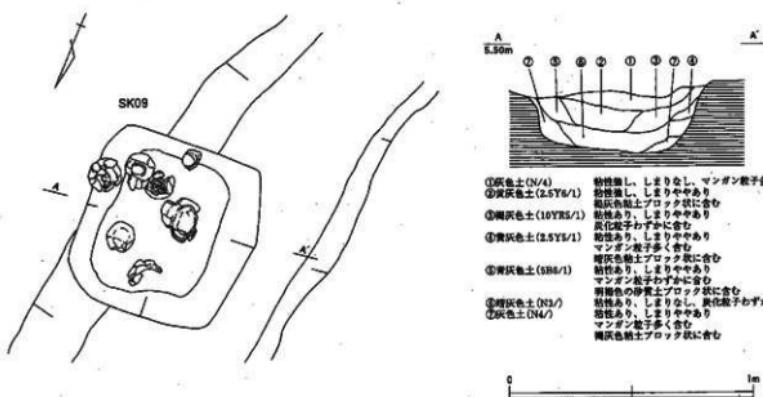


第7図 7地区造構平面図(1:80)



- A 5.40m  
 ① 黒色土 (10YR2/1) 動性あり、しまりあり、炭化物非常に多く含む  
 ② 鹿灰褐色土 (10YH2/1) 動性あり、しまりあり、マンガン粒子多く含む  
 ③ 灰色土 (N3/1) 動性あり、しまりあり、炭化粒子わずかに含む  
 マンガン粒子多く含む、陶瓦色粘土ブロック状に含む

B 5.40m  
 黒褐色土 (10YR2/1) 動性無し、しまりなし、炭化粒子わずかに含む  
 マンガン粒子多く含む、陶瓦色粘土ブロック状に含む



- A 5.50m  
 ① 黒色土 (N4/1) 動性無し、しまりなし、マンガン粒子多く含む  
 ② 灰灰褐色土 (2.5YH6/1) 動性無し、しまりややあり  
 陶瓦色粘土ブロック状に含む  
 ③ 鹿灰褐色土 (10YH3/1) 動性あり、しまりややあり  
 炭化粒子わずかに含む  
 ④ 灰灰褐色土 (2.5YH1/1) 動性無し、しまりややあり  
 マンガン粒子多く含む  
 陶瓦色粘土ブロック状に含む  
 ⑤ 鹿灰褐色土 (5B8/1) 動性あり、しまりややあり  
 マンガン粒子多く含む  
 ⑥ 鹿灰褐色土 (N3/1) 動性あり、しまりなし  
 粒子無し  
 ⑦ 灰色土 (N4/1) 動性あり、しまりややあり  
 マンガン粒子多く含む  
 陶瓦色粘土ブロック状に含む

第8図 7地区SK08・09遺物出土状況(1:20)

## 5. 本発掘調査 8 地区

### (1) 遺構

溝が3条(SD01~03)確認されており、SD01とSD02から遺物が出土している。

SD01(第9~11図) 調査区の西半分で確認された溝である。規模は全長約9m、幅は5m、深さは最深部で1.5mを測る大溝で、南端から北東方向にむかって伸びており、両端は調査区外に伸びる。断面形は全体にU字型を呈しており、両岸の立ち上がりは西側で緩く、東側はやや急角度となっている。溝の底部は北から南にかけて比高差10cm程度のわずかな傾斜がみられる。覆土は10層からなり、9層及び10層から大量の遺物が出土している。出土遺物の大半は土師器や木製品で、複数の遺物が折り重なるように検出されている。溝のほぼ全域で遺物が確認されたが、西側の岸が立ち上がる部分に遺物が集中していた。土師器壺や皿は2重・3重に重った状態で出土したものが多く、数個をまとめた状態で溝に投棄したと考えられる。他にも墨書きや赤彩を施した土師器壺や斎卓・馬形の木製品など、祭祀に関連する遺物が多く出土している。また、底部付近からは獸骨とみられる遺物も出土している。SD01は遺構の形状や南北の軸方向、出土遺物の類似性などから、前年度調査時に各地区で確認された大溝と同一遺構であると考えられる。

SD02・03(第9図) 調査区の東半分で確認された溝である。SD02は全長約6.2m、幅約3m、深さ45cmを測り、東端からSD01へ流れ込むように伸びている。覆土内からはSD01とほぼ同時期の遺物が検出されている。SD03は長さ7m、幅20cm、深さ20cmを測る細長い溝である。遺物は確認されておらず、暗渠の可能性が高い。

(高野)

### (2) 遺物

8地区の中で最も多く遺物が出土した遺構はSD01であった。本遺構からは石器・古墳時代前期以前の遺物や土師器・須恵器・木製品・石製品・鉄鋌などが見られ、大半は土師器であった。石器や古墳時代以前の土器は上層よりの出土であり、流れ込みと考えられる。また、他の遺構や包含層からも同様な遺物が出土している。

石器(第29図) SD01からは石器1点が出土している。石器(440)は太形蛤刃石斧の転用品と思われる。基部が欠損し、石片などに転用されたものと考えられる。弥生時代中期のものである。土師器は甕・壺などの器種が見られる。形状から時期は古墳時代前期から中期にかけてのものと考えられ、中期のものが主体を占めている。

土師器(第29~36図) 本地区より出土した土師器は皿A・皿B・壺A・壺Bであり、それらには赤彩されたものや墨書きした遺物(第32図 531)なども出土している。

SD01より出土の皿は、平底無高台の皿Aと有高台の皿Bの2種類が見られた。皿Aは12点出土している(第29図 449~460)。底部は回転糸切り未調整であり、底部から口縁部へ直線的に聞くものがほとんどであった。赤彩は3点に見られた(449・452・459)。さらに墨痕が底部に見られるもの(454)も出土している。皿Bは7点出土している(第29図 461~467)。高台は貼り付け高台であり、高台の内面には回転糸切りの痕跡が見られた(466・467)のもも確認できたが、多くは丁寧なナデ調整が施されていた。形態は461の様に体部上位で角度を変え、外反しながら口縁部に至るもののが見られたものの、総じて皿A同様の形態を呈している。赤彩は5点見られた(461・462・464・466・467)。また、タールが器面の一部ないしは全面に付着しているもの(463・465)や煤の付着しているもの(467)なども出土している。

壺はSD01・02、包含層より無高台の壺Aと有高台の壺Bが出土している。SD01より出土した遺物は壺Aが154点である(第29~35図 468~521)。うち赤彩されているものは129点であり、タールや煤の付着しているものは、全体で30点であった。形態は体部下位でやや外反するものの、その後は内湾しながら口縁部に至るもののが中心であり、一部に体部上位で角度を変え外反するものも見られる。底部はすべて回転糸切り未調整であり、底径の小さい物と大きなもの2種類に分かれる。壺は1点出土している(第35図 622)。口縁部は緩やかに外反し、端部

は直立する。胸部には煤痕が付着する。墨書き器第32図(531)は1点出土しており、底部に「仁」の文字が見られた。

SD02よりの土師器塗は3点出土している(第36図 656・658・659)。いずれもSD01より出土のものと同様なものであり、器面には煤やタールの付着しているものが見られる。底部は回転糸切り未調整である。

包含層からは、土師器塗Aのはか塗Bも出土している(第36図 662~671)。塗Aは他の遺構同様、底部は回転糸切り未調整であり、形態もまた類似するものであった。赤彩は3点見られ(662・664・667)内1点には、底部から口縁部にかけて、放射状に墨書きされたものが出土している(664)。本地区唯一の出土である塗Bは(671)高台は貼り付け高台であり、高台の内側には糸切り痕が残る。

本地区より出土した土師器は、内田編年の第5段階、10世紀初頭頃のものと考えられる。

須恵器(第35・36図) 須恵器はSD01と包含層より出土している。器種は蓋・壺A・壺B・壺・壺などが見られた。紙面の関係もあり、ここでは遺構出土の食勝具を中心に記述する。

SD01より出土の蓋は天井部に丸みを持ち、つまみではなく端部は丸く納めるもの(第35図 623・624)や扁平形のもの(625)で、端部の折り返しが短く丸みを持つものなどが見られた。

壺A(第35図 626~635)はやや器厚の厚いもの(630)も見られたものの、総じて薄づくりである。形態は底部が回転ヘラ切りであり、底部から口縁端部へ浅く開くものが見られる。

壺Bは(第35図 636~638)高台と体部の境が明瞭に分かれるものは少なく、口縁端部へ直線的に開くものが見られた(637・638)。637は判読不明の墨書きが器面側面に見られる。須恵器の時期はおおむね9世紀末以降としたい。

木製品(第37~40図) 木製品はSD01・02から出土しており、種類や用途が明らかなものを中心に記述する。

下駄(第37図 678・679)は連歎下駄で、小さい縫穴と短く太い歯をもつ。679は台部の断面が三角形となる。

紡織具の糸巻の横木(第37図 681)は一端は欠損しているものの、端部に棒木を固定するための木釘穴を残す。浮子(第38図 700)は紙に半裁した木片の左右に切り欠きをいたるものであり、網の結束部分と考えられる。

容器の皿(第37図 683・684)はいずれも挽物で、683は内外面に黒色漆を塗布し、684は口縁部に布を張り、黒色漆を塗布している。折敷(第37図 685)は側板と底板との皮結合が2ヶ所残る。

曲物(第38図 686~691・694~699)は686・687が底板を側板の内側にめ込んで木釘で結合したものである。いずれも側板の内面にケビキは見られない。686は内外面に黒色漆を塗布する。689・690は底板である。側面には木釘痕が見られ、690には刃当たり痕がある。691は円形板である。底板の可能性もうかがえるが、木釘痕や底板接地時に見られる擦痕などは確認できなかった。694~699は側板の残欠。いずれもケビキは継平行線にいれてある。

木札(第39図 701~703)は、いずれも薄い板の左右に切り欠きをいたるもので、文字などは書かれていなかった。形態は701・702が一端の左右に切り込みがあり、直頭形を呈するものである。703は一端の左右に切り込みが入るもので、上端は面取り状に縁を作る形であった。これらの木札は木簡学会分類の032形式にあたる。

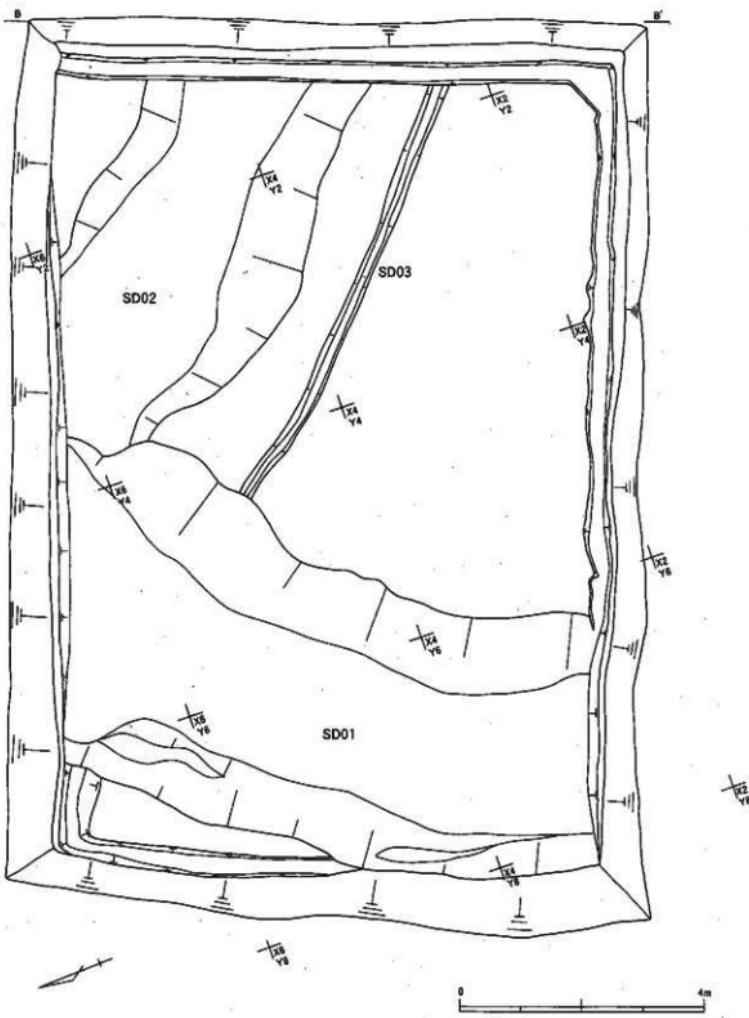
斎串(第39図 704~707)はいずれも細長い板の上端を主頭状、下端を剣先状につくりだし、704は上端木口から削りかけを施す。707は欠損があるため確定ではないが、側面左右に1カ所ずつ切り欠きを入れる。

馬形(第39図 709)は馬の背に鞍をかたどったものである。

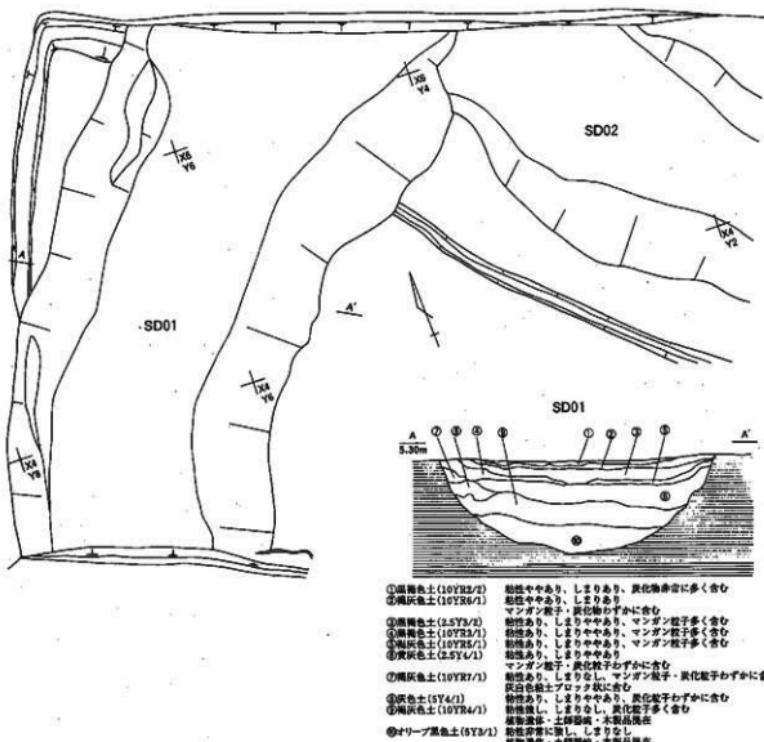
石製品・鉄滓(第36図) SD01からは石製品・鉄滓などが出土している(645~649)。

石製品は砥石(645)であり、表面には研ぎ痕が残る。厚さは薄いものであった。鉄滓(646~649)は塊型滓である。650はフイゴの羽口である。両端は欠損しているため全体像は不明であり、器面には、流動滓が付着している。

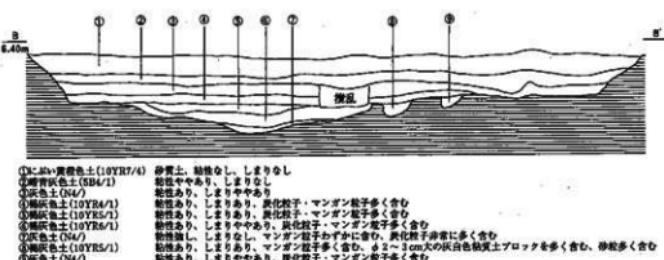
(新宅・藤田)



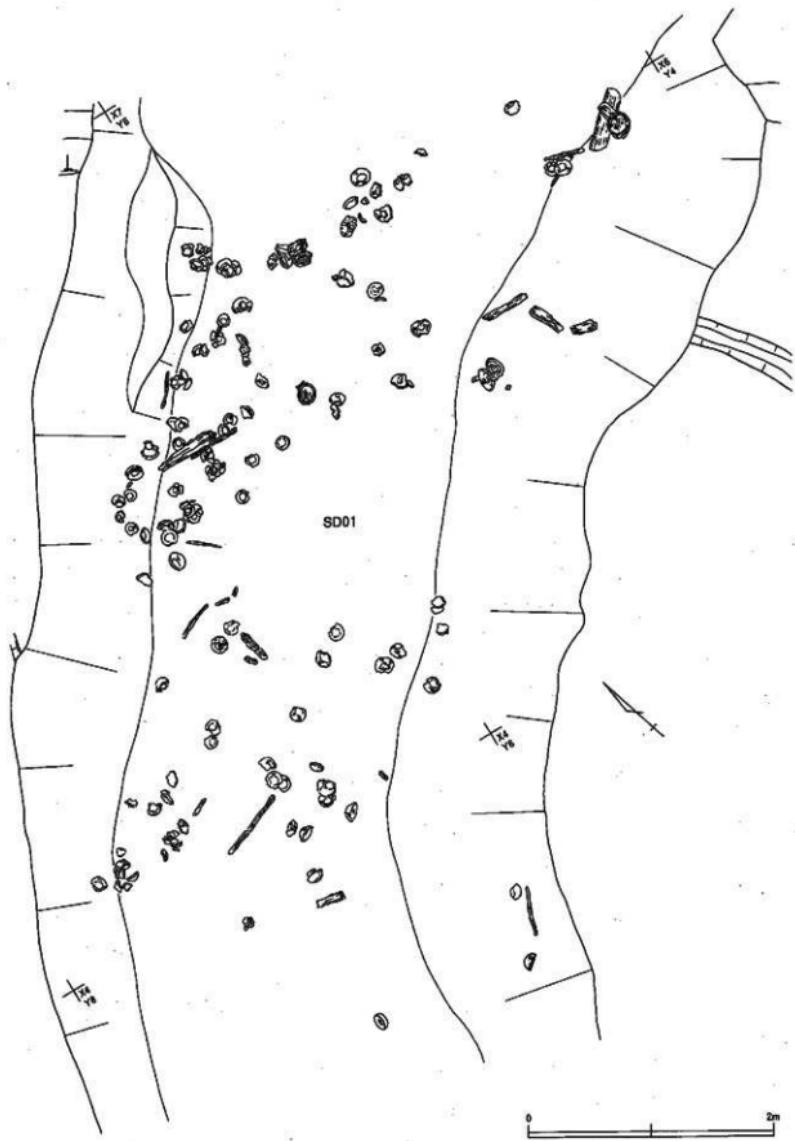
第9図 8地区遺構平面図(1:80)



発掘区東側土層



第10図 8地区遺構図(1:80)



第11図 8地区SD01遺物出土状況(1:40)

## 6. 本発掘調査 9 地区

### (1) 遺構

調査区の東端と西端に溝2条を確認した。西端にSD01、東端にはSD02を検出しておらず、いずれも調査区を南北へ横切っている。溝の覆土内部からは遺物が出土しており、包含層内にもわずかに遺物がみられた。本地区的SD01については、遺構の位置関係や軸方向、出土遺物の類似性などから3地区及び8地区的SD01との関連性が考えられるが、検出範囲が小さいため同一遺構であるとの確定は出来なかった。

SD01(第12図) 調査区西南端の壁面近くに位置する。南西から北東方向へむかって斜めに横切るように検出されており、溝の中心は調査区外にあるとみられる。確認できる規模は全長10m、幅80cm、深さ20cmであり、わずかな落ち込みが認められる。覆土は粒子の細かい黒褐色粘質土が単層で確認されており、覆土内より土師器と須恵器が出土した。

SD02(第12図) 調査区の東端に位置する溝である。SD01と同じく南西から北東へ横切るように検出されており、両端は調査区外に続いている。規模は全長6m、幅80cm~1.2m、深さ20cmを測り、断面形はV字型を呈している。覆土は黒褐色砂質土・暗褐色砂質土・黒褐色粘質土・灰オリーブ色シルト質土の4層からなる。覆土内からは須恵器の壺や壺の小片、木製品などの遺物が出土している。

(高野)

### (2) 遺物

9地区からの遺物はSD01・02や包含層より出土している。遺物は土師器・内面黒色土器・須恵器・木製品・中世土師器皿などが見られた。

土師器(第41・42図) 土師器はSD01と包含層から出土している。器種は鍋・壺である。

SD01より出土の鍋は口縁端部を巻き込む形であり、内面には巻き込みの段が付いている(第41図 744・745)。器面の内外面ともに摩耗が激しく、調整不明である。壺は底部のみの出土である(第42図 747~751)。底部は絶じて回転糸切り未調整であり、750は赤形痕が体部に見られた。

包含層から出土の鍋(第41図 763)はSD01同様口縁端部を巻き込む形であり、内面には巻き込みの段が付いている。壺(第41図 764・766・767)764の体部に赤形痕が見られた。底部は絶じて回転糸切り未調整である。

内面黒色土器(第41図) 内面黒色土器はSD01より1点出土している(752)。高台は摩耗が激しいものの、ロクロヘラ削り痕が残り高台は短い。これは底部切り離し後に、余った粘土を使ってロクロヘラ削りを行い、高台を作り出したものと考えられる。内面は黒色研磨されているものの、ミガキの単位は読みとれなかった。

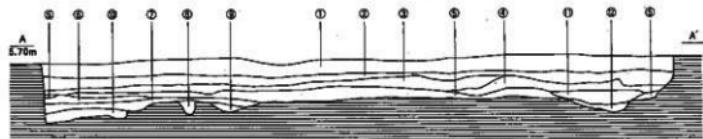
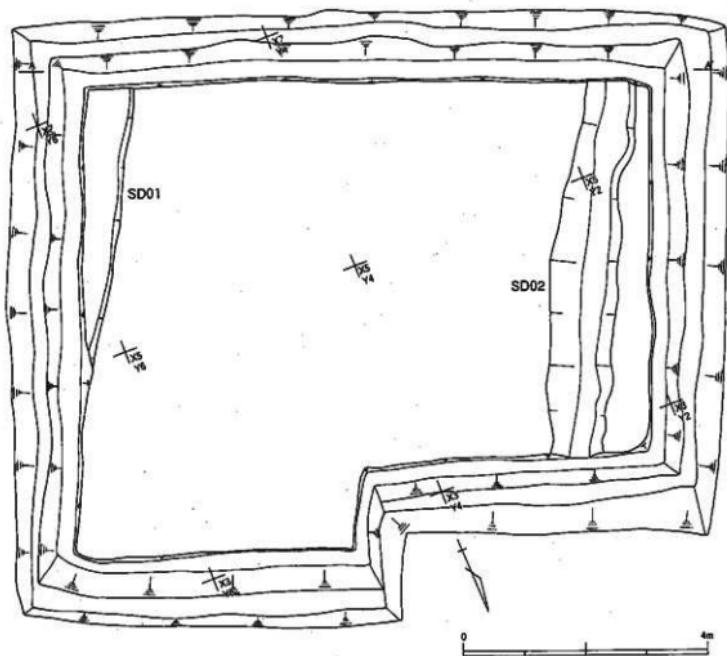
須恵器(第41・42図) 須恵器は壺・壺類の胴部片や瓶頸の口縁部片などが、SD01・02と包含層から出土している(第41図 754~762)。壺・壺類の胴部は(第41図 755・759・761・762、第42図 768・770~774)器面外面に叩き痕が残り、内面には同心円文の当て具痕が見られた。770は叩き痕が平行線文である。754は瓶頸の口縁部である。器面外面はロクロナデが施されている。

木製品(第41・42図) 木製品はSD01と包含層からそれぞれ1点ずつ出土している。

SD01より出土した木製品(第41図 760)は何らかの部材と考えられるが、判然としないため用途不明である。形態は断面が方形を呈し、木製品の側面の片側や上下端が欠損しているため全体像は不明である。

包含層から出土した木製品(第42図 775)はSD01より出土した木製品と同様に、何らかの部材と考えられるが判然としないため用途不明である。

(新宅)

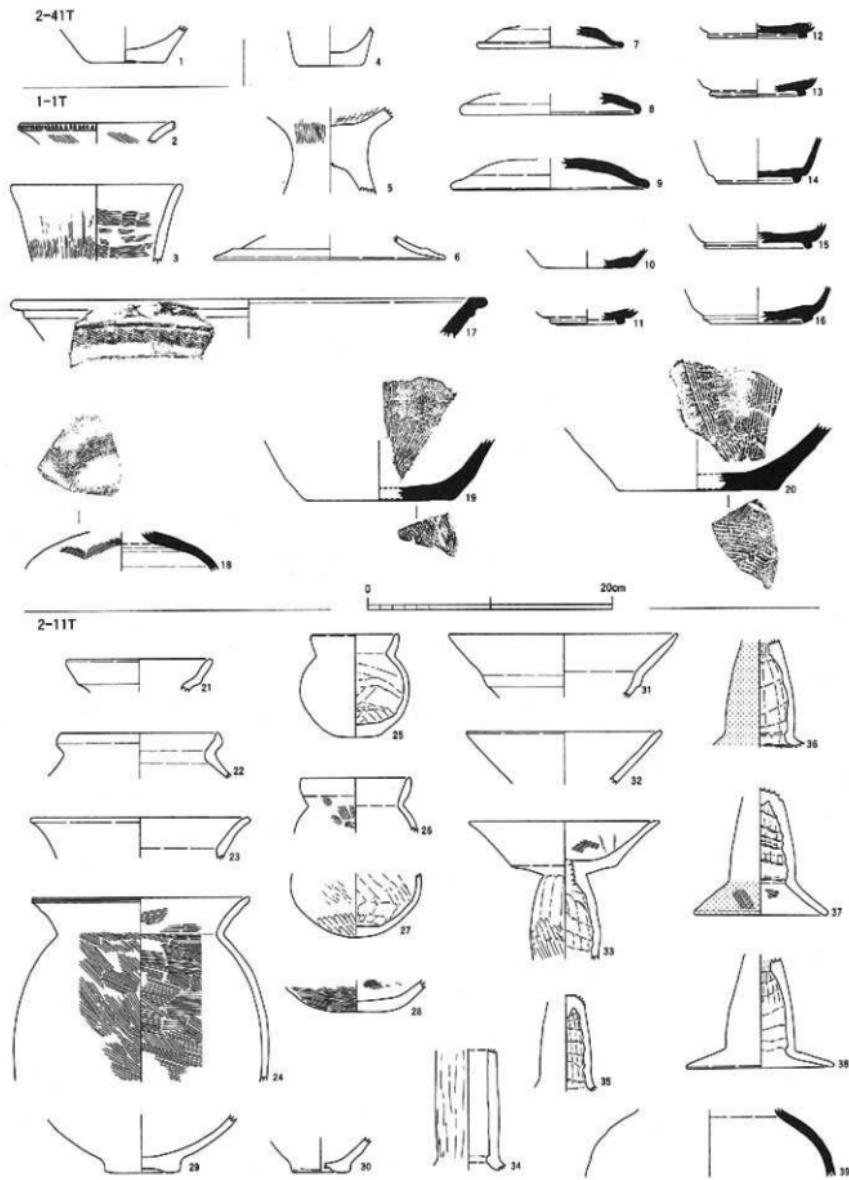


- (1)にじい腐泥土 (1YVR5/4) 特性なし。しまりなし。山野の盛土。
- (2)褐色粘土 (1YV2/3) 稍粘性あり。しまりややあり。褐灰粘土ブロック状に含む
- (3)褐色粘土 (2SY2/1) 稍粘性ややあり。しまりなし
- (4)褐色粘土 (2SY2/1) 稍粘性あり。しまりややあり
- (5)褐色粘土 (7SY2/1) 稍粘性強し。しまりあり。マンガン鉱子多く含む
- (6)褐色粘土 (7SY2/2) 稍粘性強し。しまりややあり。マンガン鉱子多く含む
- (7)褐色粘土 (7SY2/2) 稍粘性強し。しまりややあり。マンガン鉱子多く含む
- (8)褐色粘土 (7SY2/1) 稍粘性あり。しまりあり。マンガン鉱子。褐灰粘土ブロック多く含む
- (9)褐色粘土 (7SY2/1) 稍粘性強し。しまりややあり。マンガン鉱子。褐灰粘土ブロック多く含む
- (10)褐色粘土 (10Y2/4/1) 稍粘性強し。しまりややあり。マンガン鉱子。褐灰粘土ブロック多く含む
- (11)褐色粘土 (7SY2/3/2) 稍粘性強し。しまりややあり。マンガン鉱子多く含む。SD01の底土。透水含む
- (12)褐色粘土 (2SY4/2) 稍粘性ややあり。しまりあり。透水土。SD01の底土(上層)。透水化わずかに含む
- (13)褐色粘土 (2SY2/2) 稍粘性ややあり。しまりあり。透水土。マンガン鉱子わずかに含む

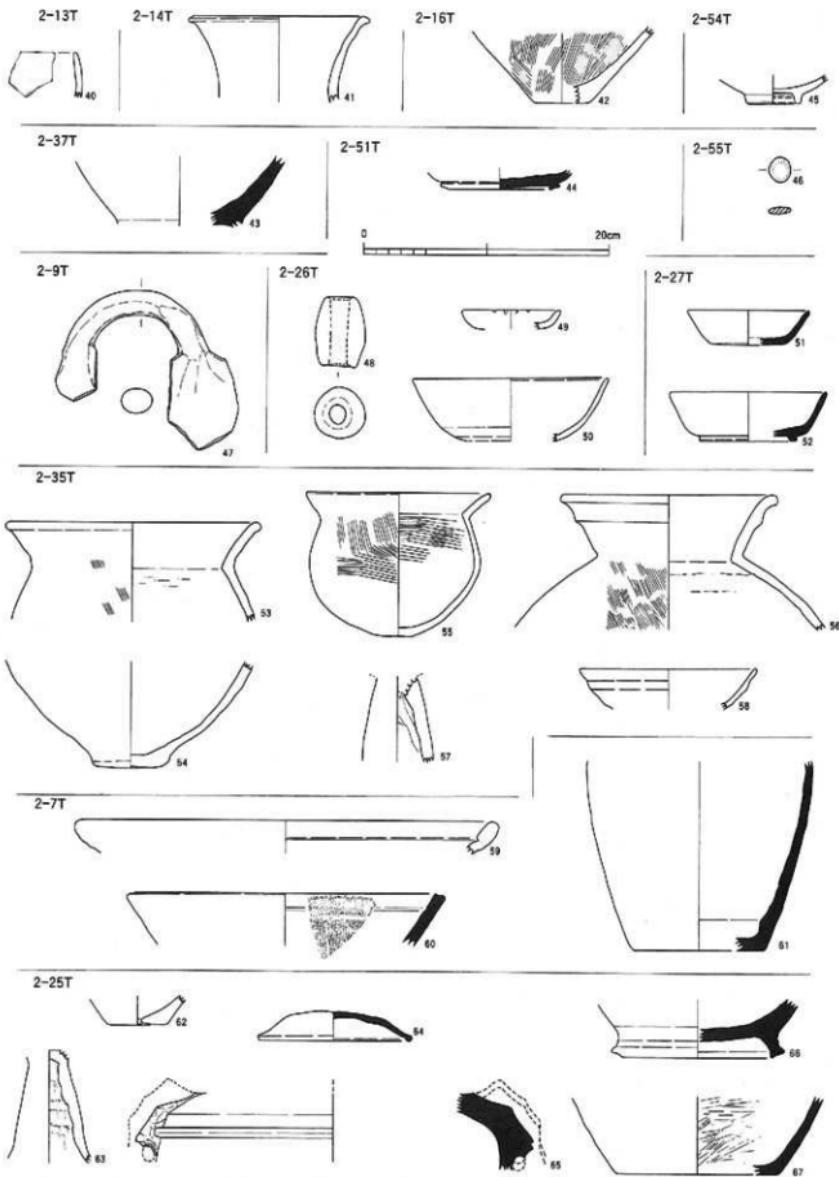
第12図 9地区造構図(1:80)

〈引用参考文献〉

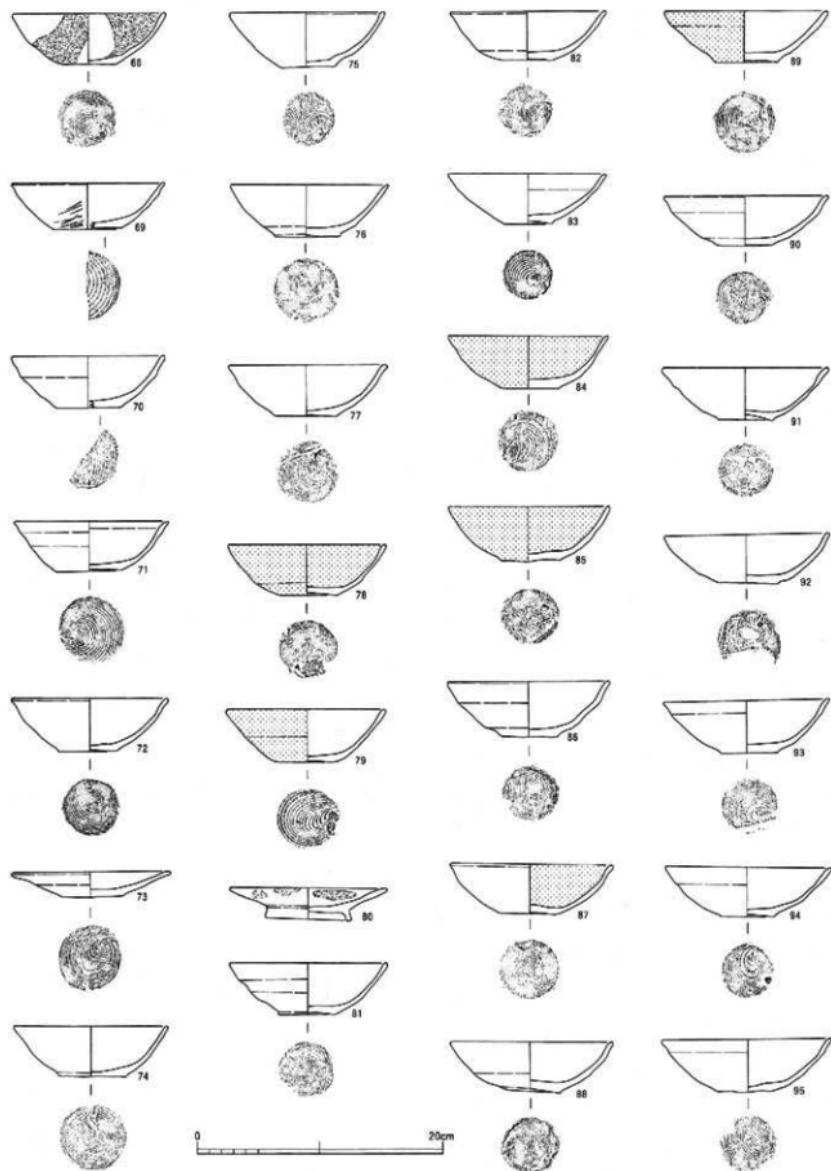
- 池野正男「射水丘陵における9・10世紀の須恵器窯」「大境12号」1988 富山考古学会  
石川県埋蔵文化財センター『漆町遺跡I』1986  
石川県立埋蔵文化財センター『佐々木ノテウラ遺跡』1986  
内田アキ子「越中における古代土師器の耀年予察」「埋蔵文化財調査概要一平成8年度一」1997  
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所  
大島町教育委員会「北高木遺跡発掘調査」1995  
金沢市教育委員会「千木ヤシキガ遺跡」1987  
金沢市埋蔵文化財センター「礪部カング遺跡」1999  
小杉町教育委員会「北野遺跡・椎土遺跡緊急発掘調査概要」1987  
小杉町教育委員会「HS-04遺跡発掘調査報告」1993  
小杉町教育委員会「深越貝塚遺跡、埴絆No.15遺跡発掘調査概要」2000  
小杉町教育委員会「黒河尺目遺跡発掘調査報告」2002  
小杉町教育委員会「赤田I遺跡発掘調査報告」2003  
小松市教育委員会「戸津古窯跡I」1991  
小松市教育委員会「戸津古窯跡II」1992  
静岡県考古学会「静岡県考古学研究 36」2004  
静岡県考古学会「静岡県における原始・古代の木製祭祀具」2005  
瀬戸市史編纂委員会「瀬戸市史 陶磁史編4」1994  
高岡市教育委員会「富山県高岡市美野下遺跡発掘調査概要」1986  
高岡市教育委員会「石塚遺跡・東木津遺跡調査報告」2001  
太宰府市教育委員会「太宰府条坊跡XV」2000  
富山県埋蔵文化財センター「栗山猪原遺跡」1990  
富山県教育委員会「南太閤山I遺跡 都市計画街路七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(3)」1985  
富山県教育委員会「富山県小杉町上野赤坂A遺跡-県民公園太閤山ランド内遺跡群発掘調査報告(1)-」1982  
富山市教育委員会「長岡杉林遺跡-富山市長岡杉林遺跡発掘調査報告書-」1987  
富山市教育委員会「古沢A遺跡発掘調査概要」1983  
奈良国立文化財研究所「木器集成図録 近畿古代編」1984  
藤沢良祐「瀬戸古窯址群II」「研究紀要X」1991 瀬戸市歴史民俗資料館  
北陸古代土器研究会「シンポジウム 北陸の10・11世紀代の土器様相」1997  
北陸中世土器研究会「中近世の北陸」1997 桂書房  
三島道子「五社遺跡出土の古墳時代土器について」「五社遺跡発掘調査報告」1998  
宮田進一「越中瀬戸の窯資料1」「大境12」1988 富山考古学会  
宮田進一「越中瀬戸の成立と展開」「情報と流通の日本史 地方間交流の視点から」1998 地方史研究協議会  
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所  
福海貴子「八日市地方遺跡出土土器の検討」「八日市地方遺跡I」2003 小松市教育委員会  
吉岡康暢「中世須恵器の研究」1994 吉川弘文館



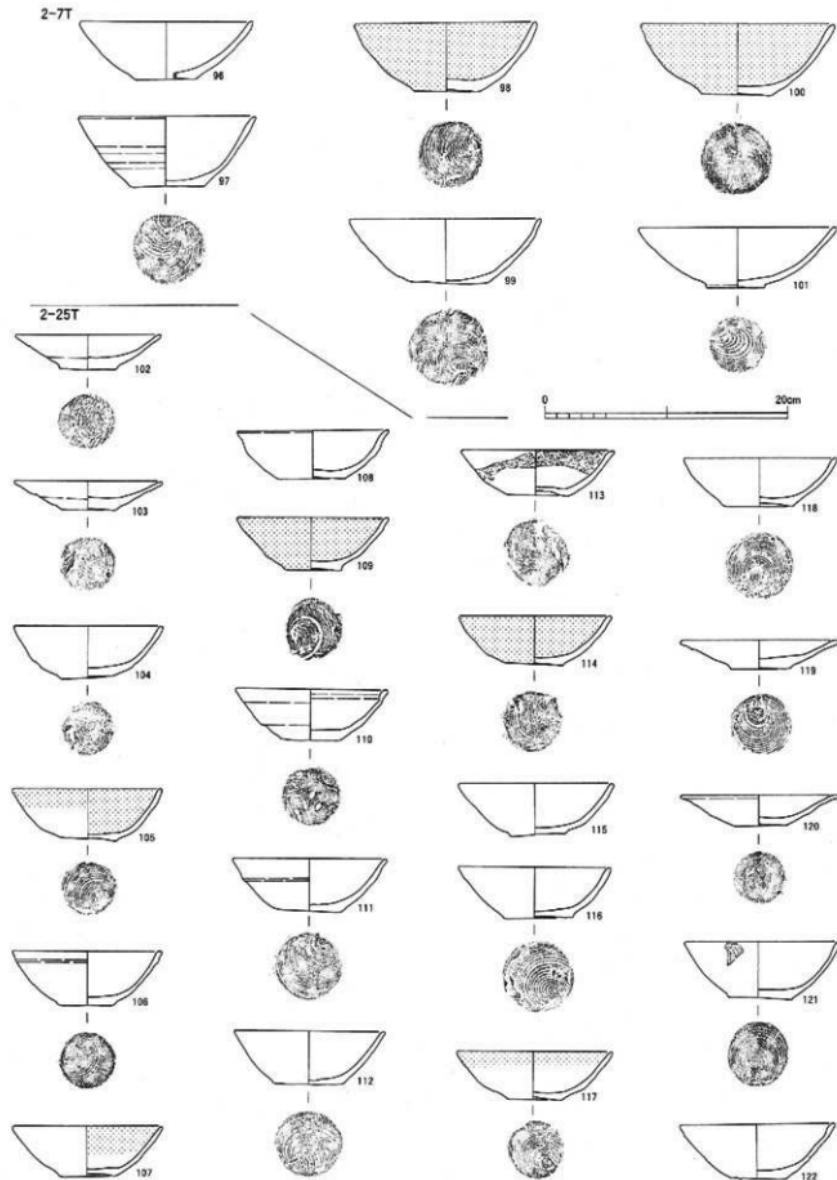
第13図 試掘調査の出土遺物(1-1T・2-11T・2-41T)



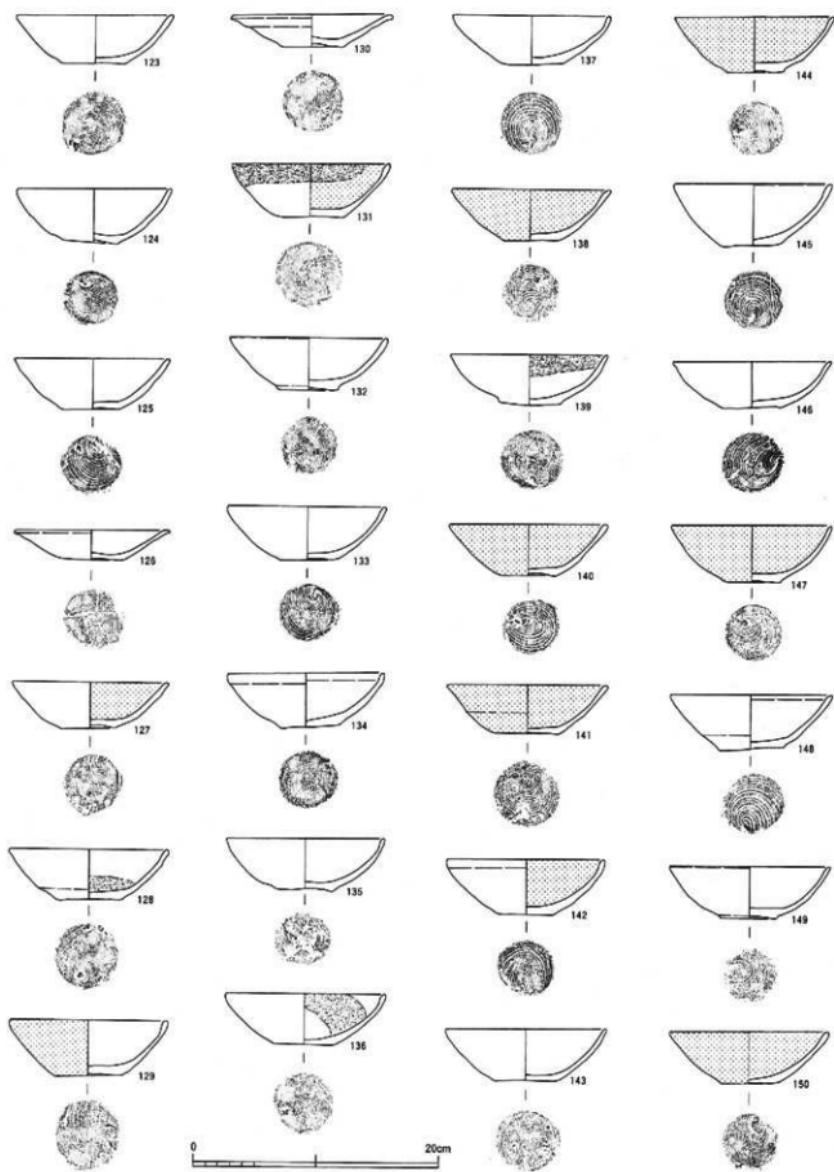
第14図 試掘調査の出土遺物(2-7T~2-55T)



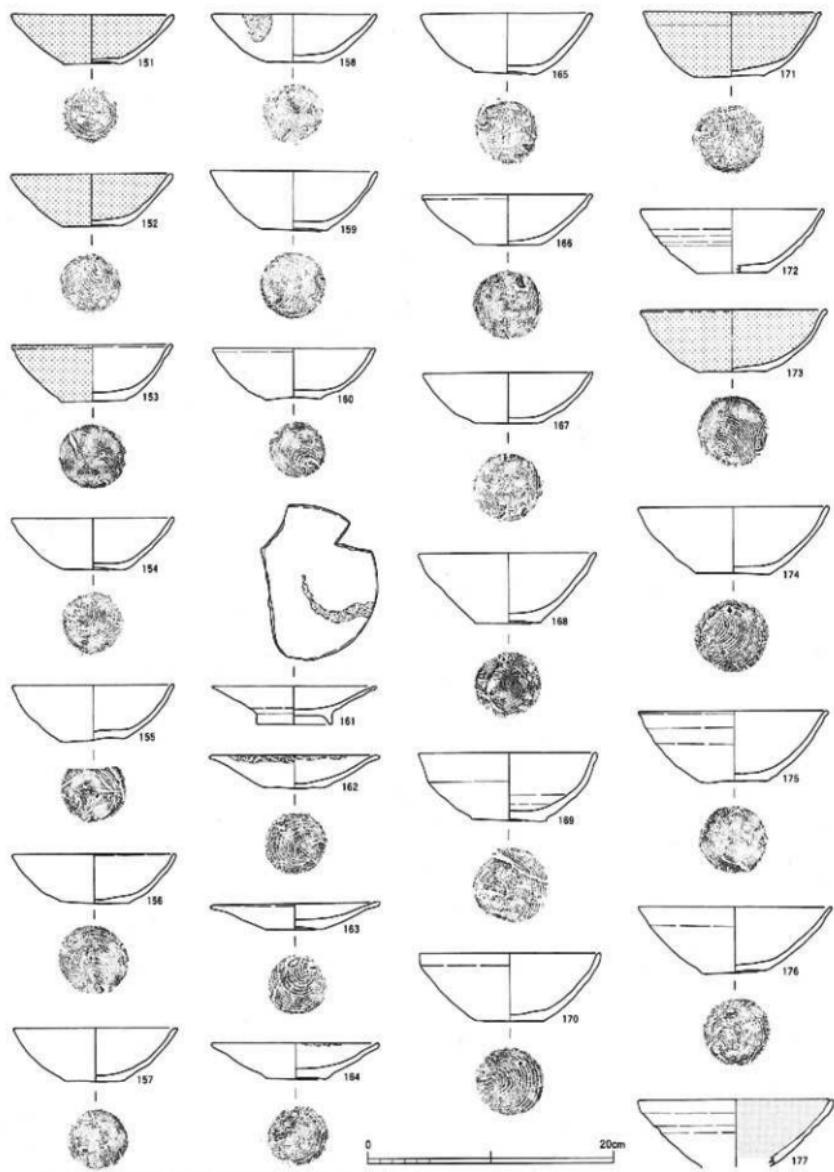
第15図 試掘調査の出土遺物(2-7T)



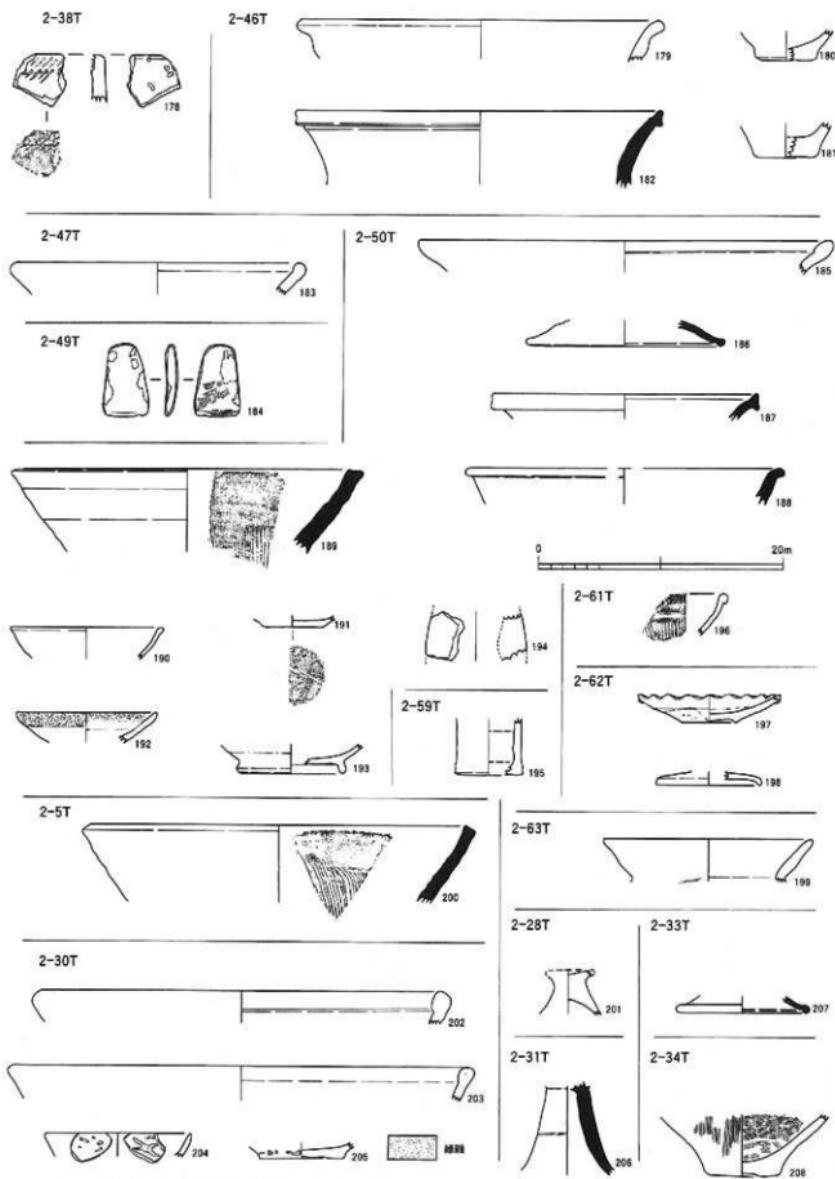
第16図 試掘調査の出土遺物(2-7T・2-25T)



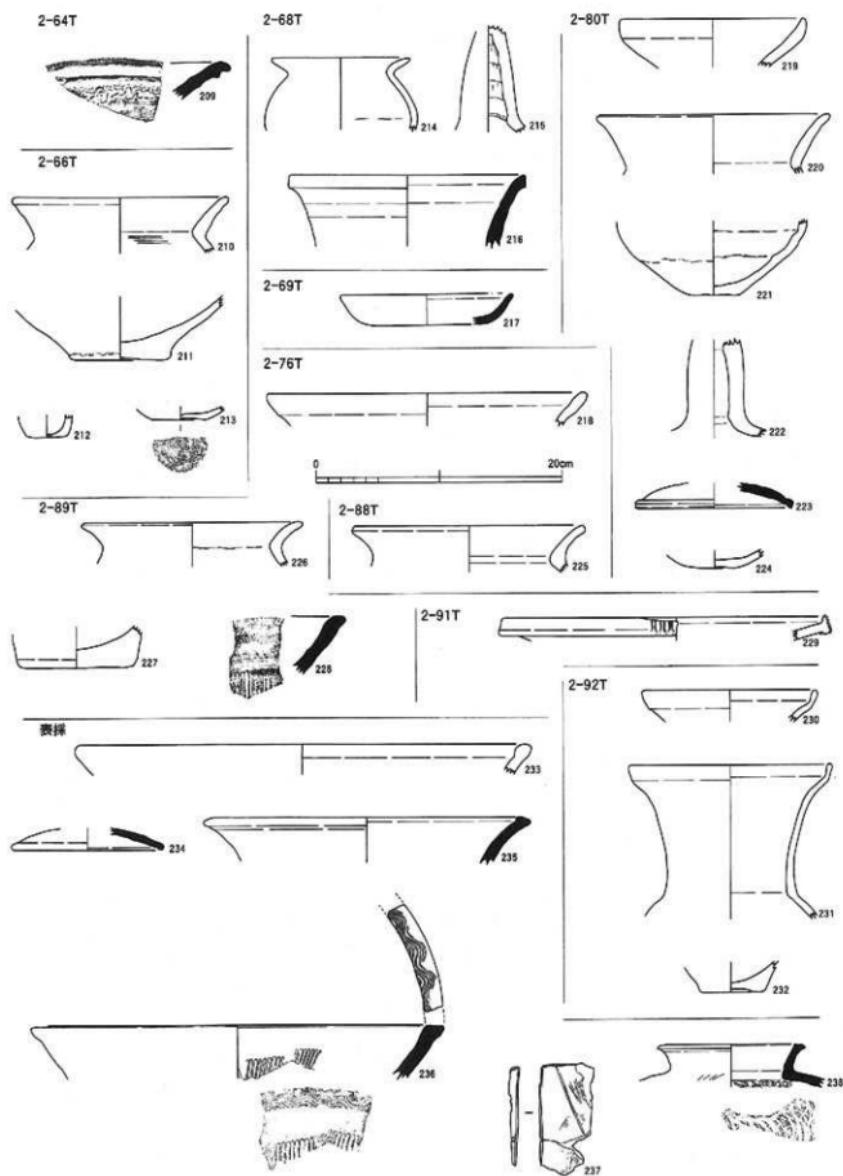
第17図 試掘調査の出土遺物(2-25T)



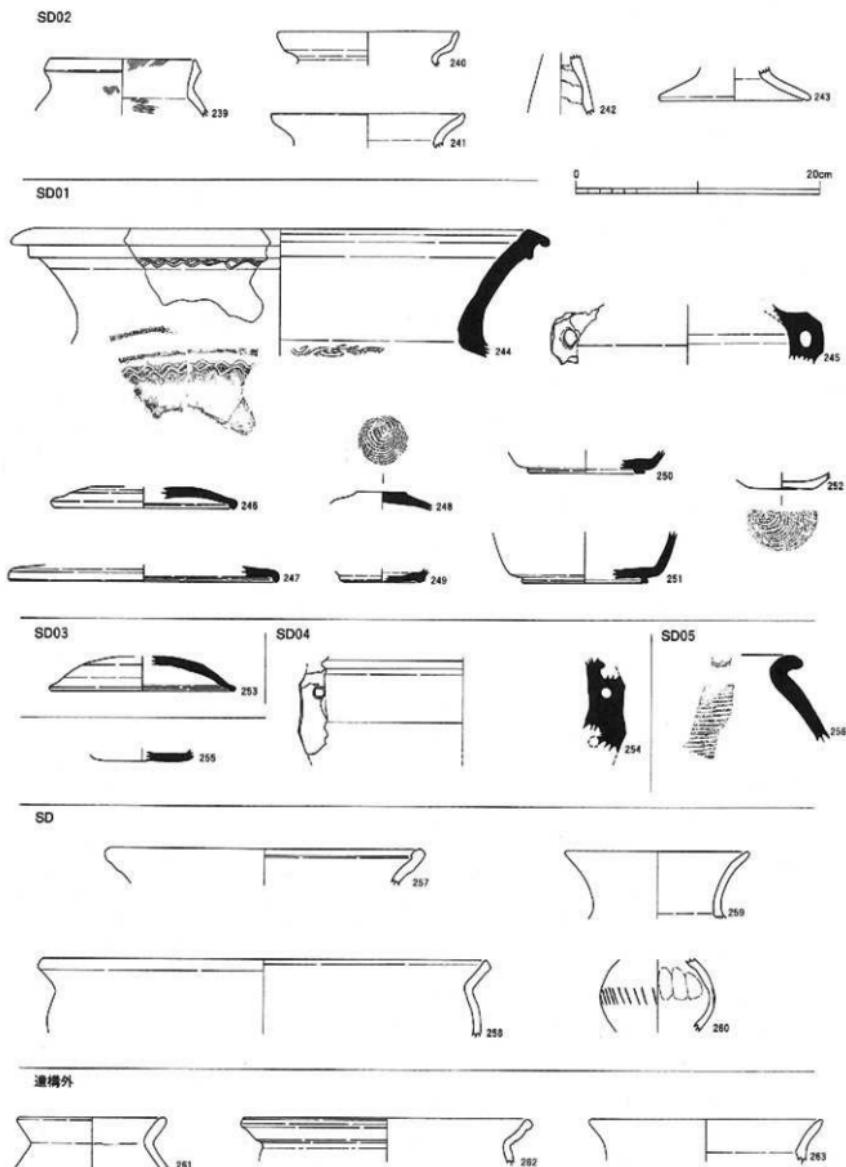
第18図 試掘調査の出土遺物(2-25T)



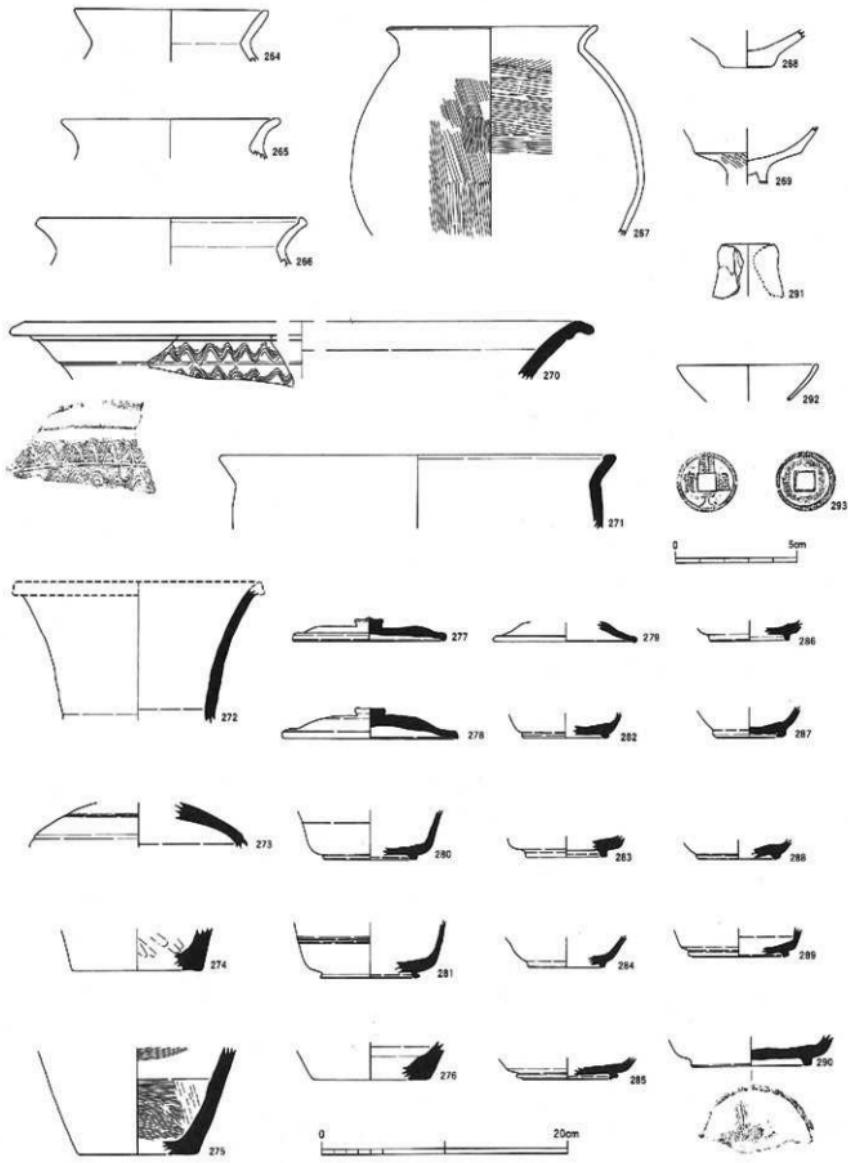
第19図 試掘調査の出土遺物(2-5T~2-63T)



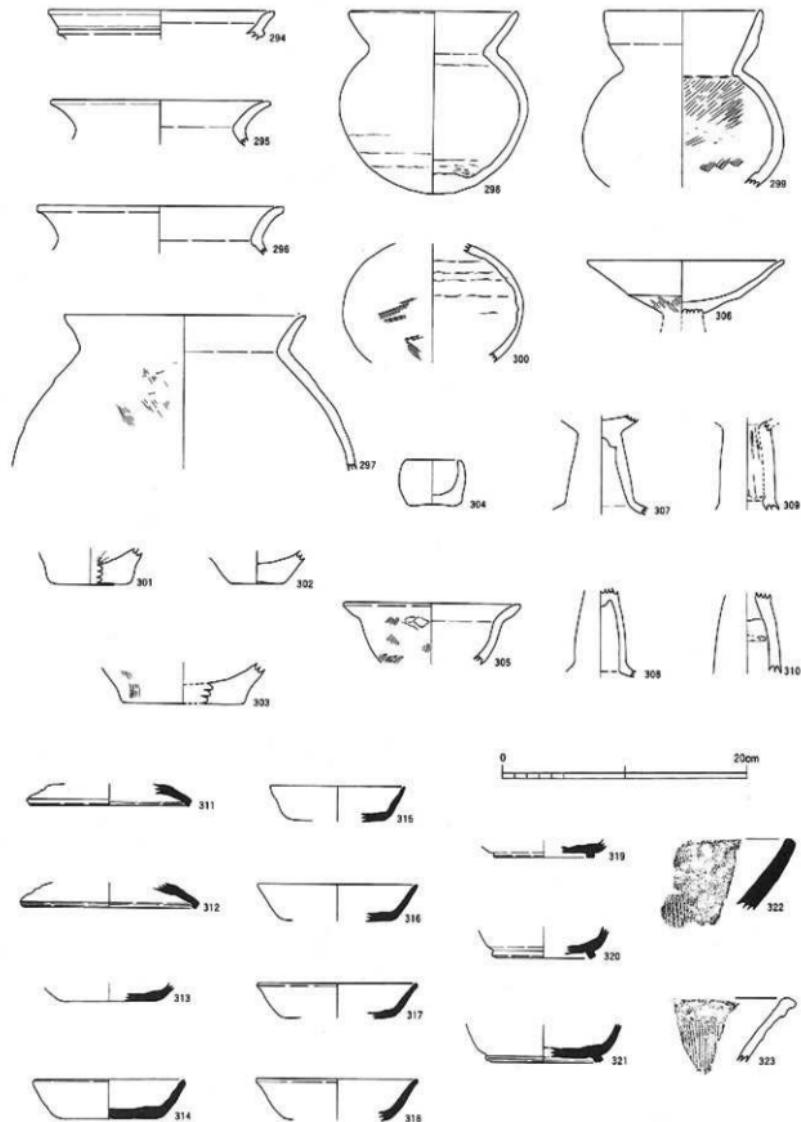
第20図 試掘調査の出土遺物(2-64T~2-92T), 表採



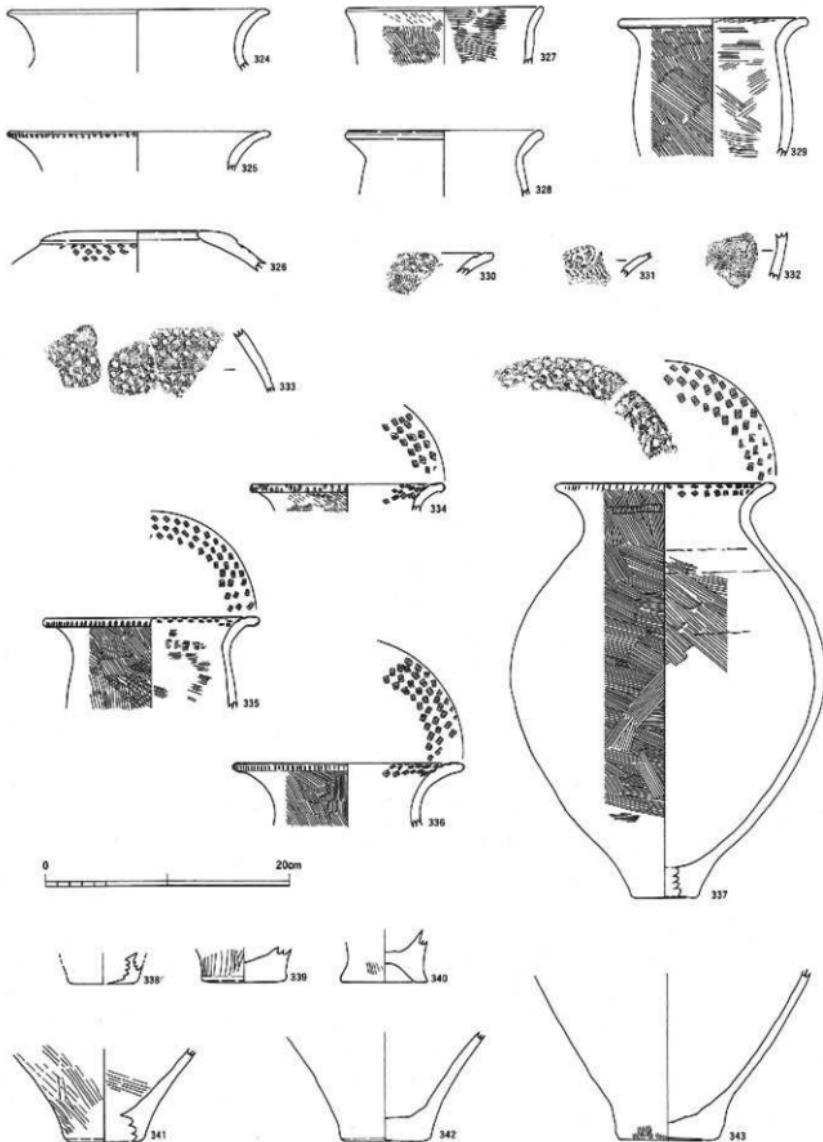
第21図 試掘調査の出土遺物(1-2T)－SD01～05, 遺構外－



第22図 試振調査の出土遺物(1-2T)

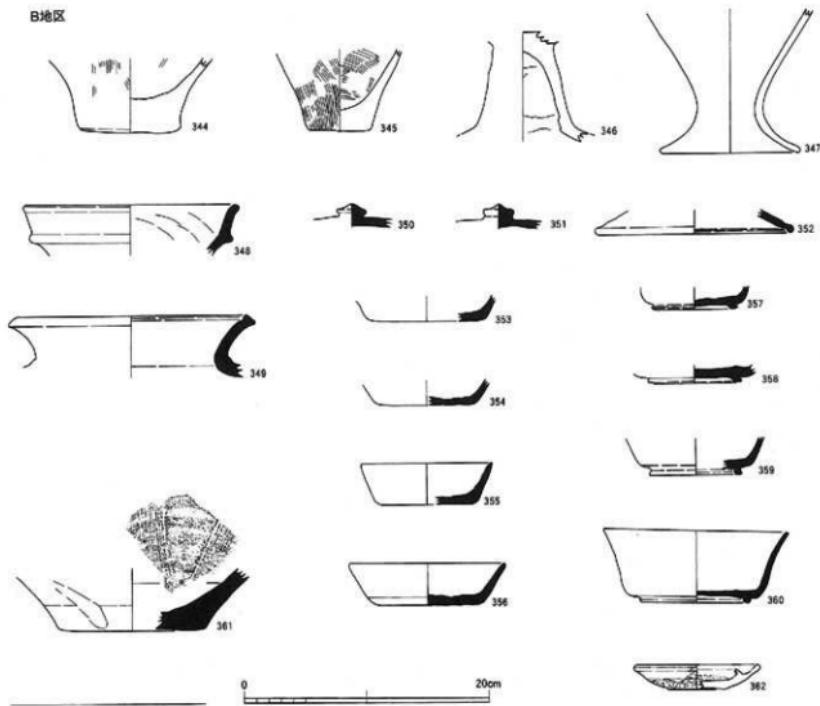


第23図 工事立会の出土遺物(A地区)

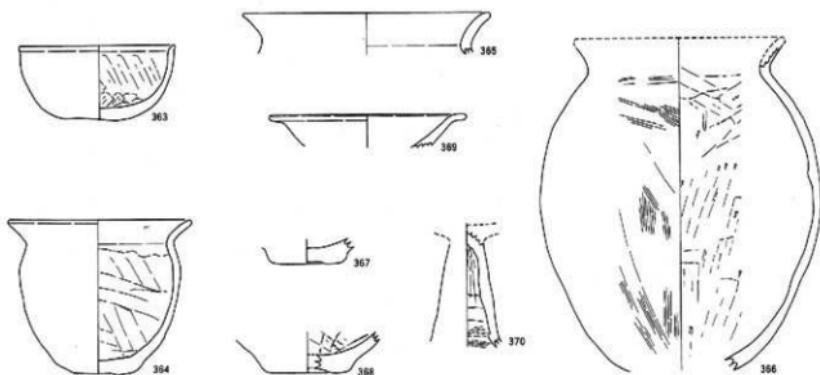


第24図 工事立会の出土遺物(B地区)

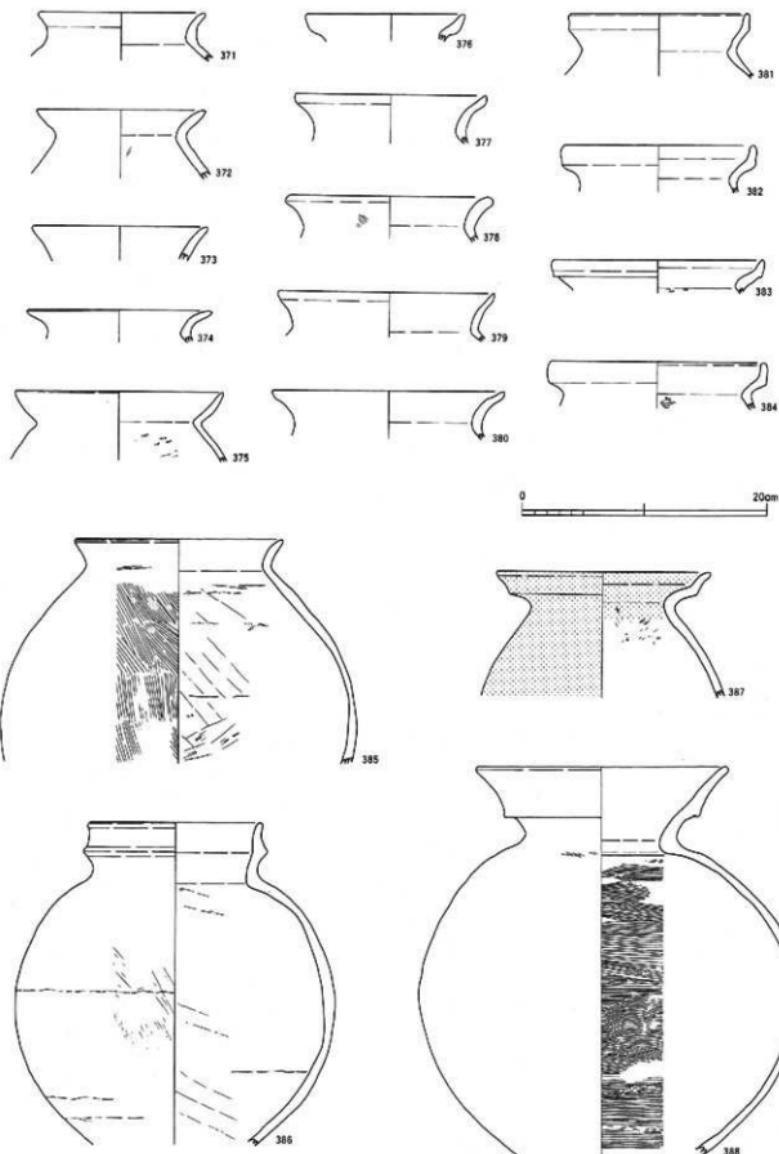
## B地区



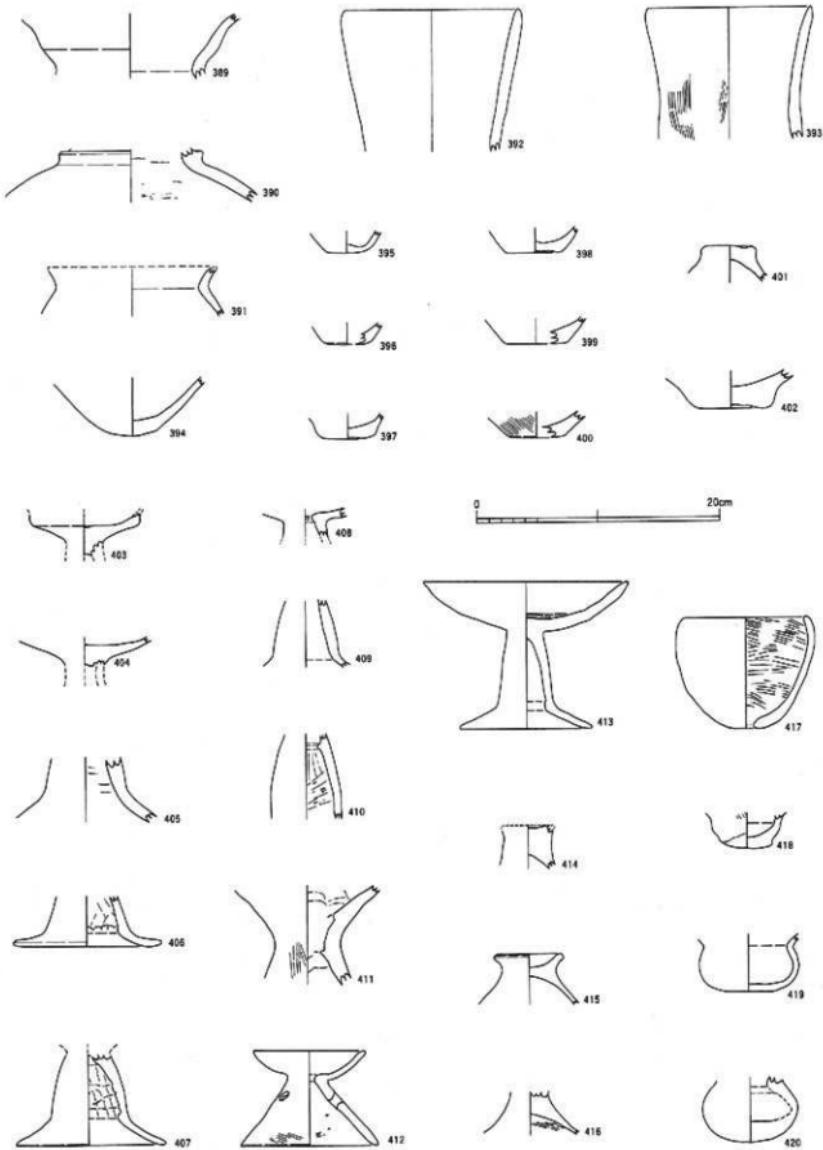
## C地区



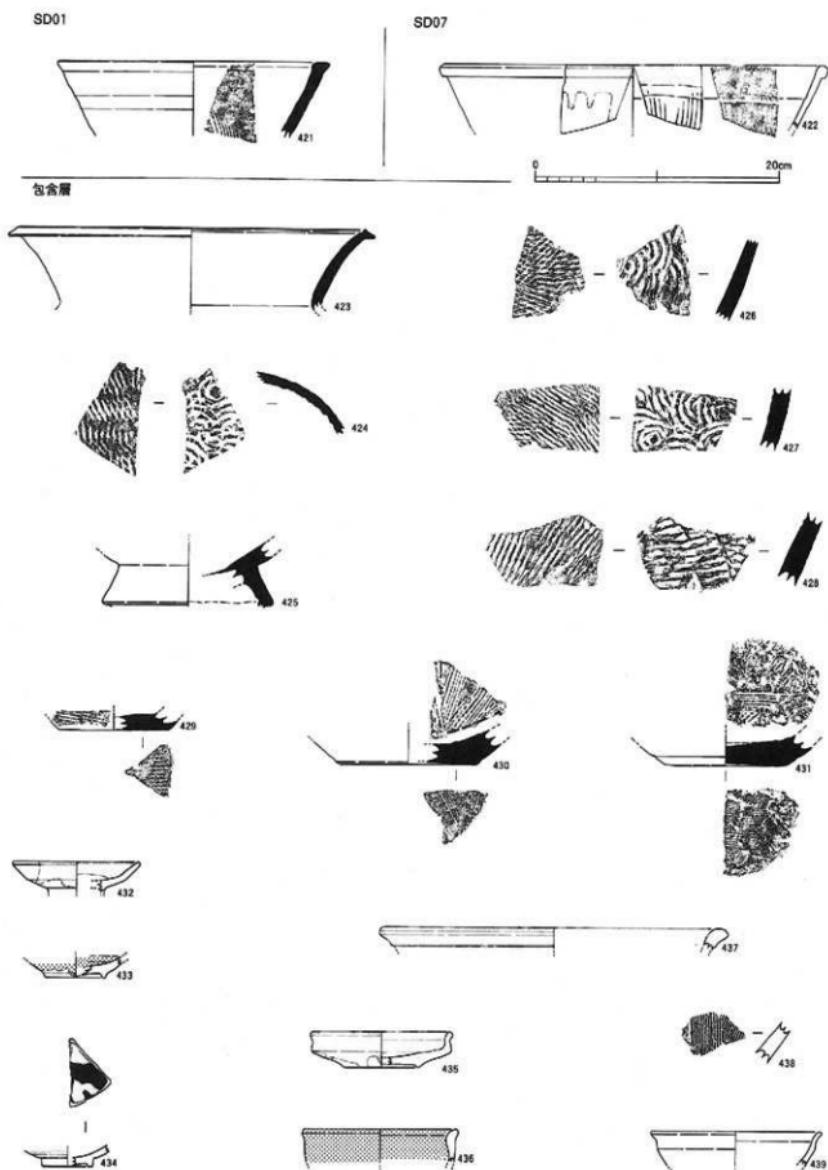
第25図 工事立会の出土遺物(B・C地区)



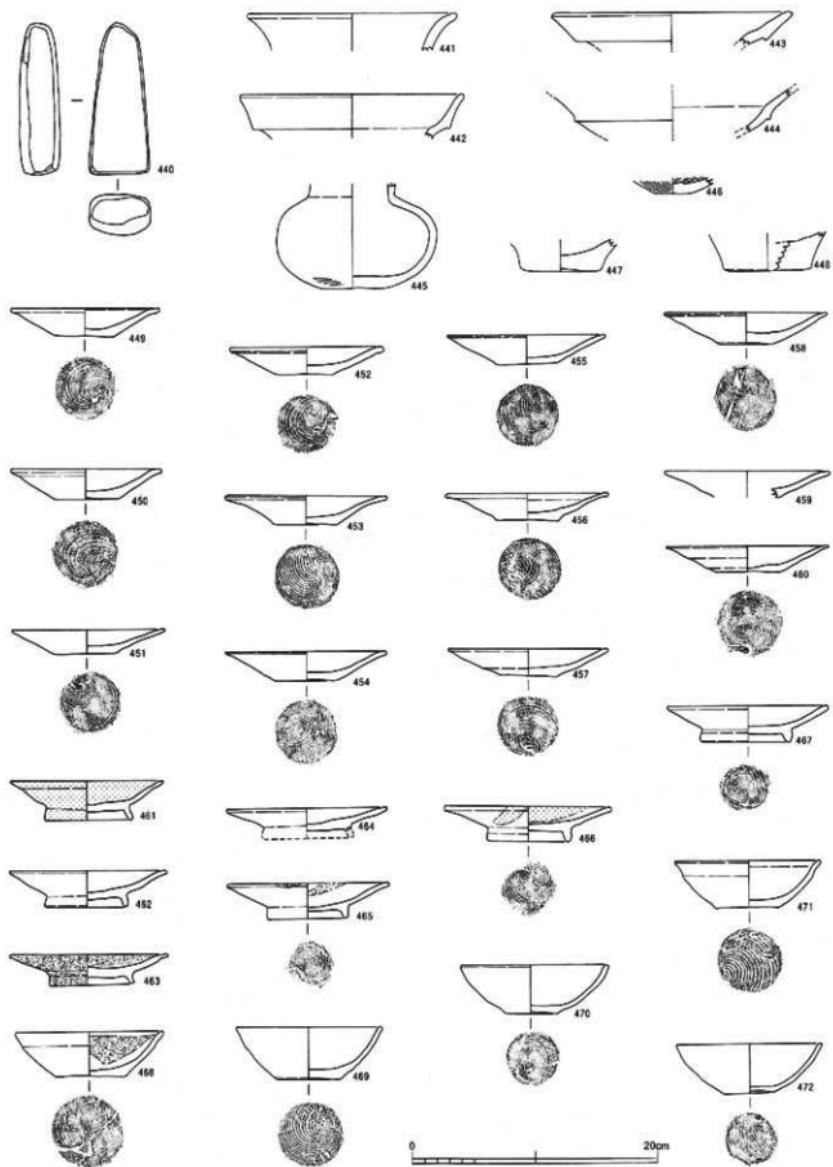
第26図 5地区の出土遺物



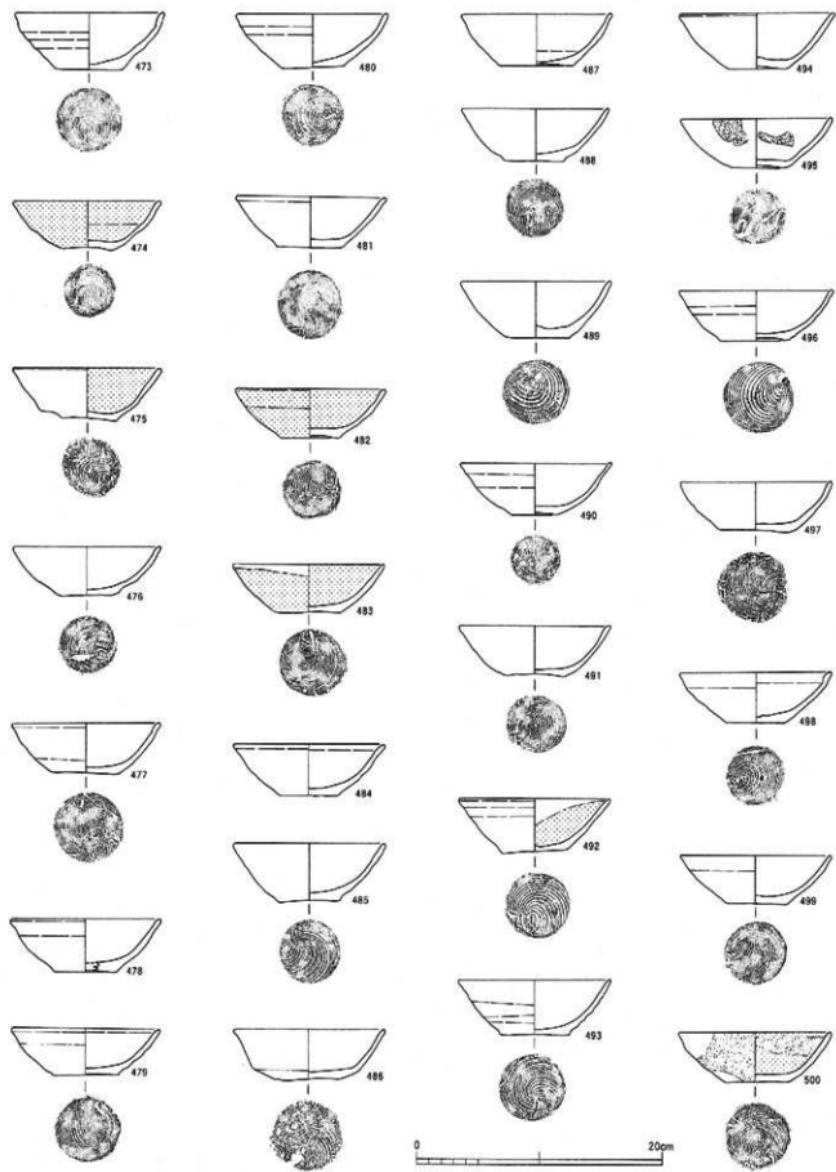
第27図 5地区の出土遺物



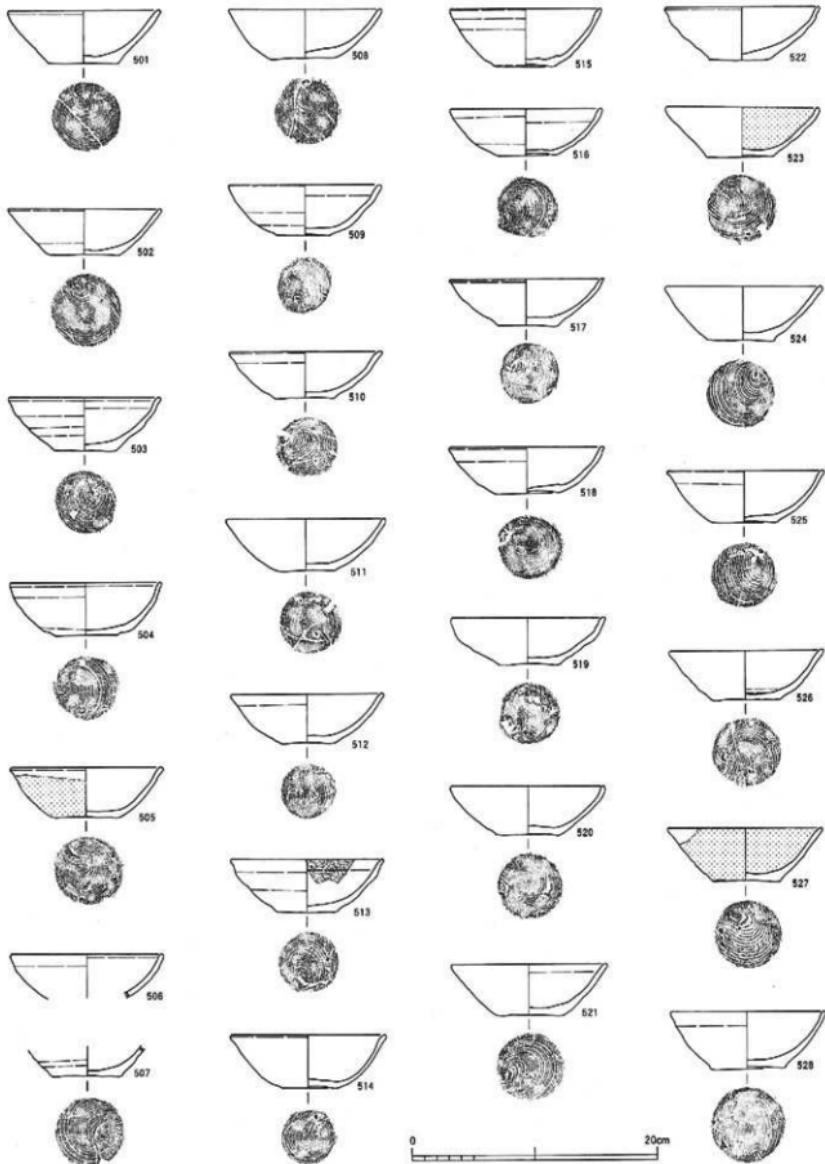
第28図 6地区の出土遺物—SD01・07, 包含層—



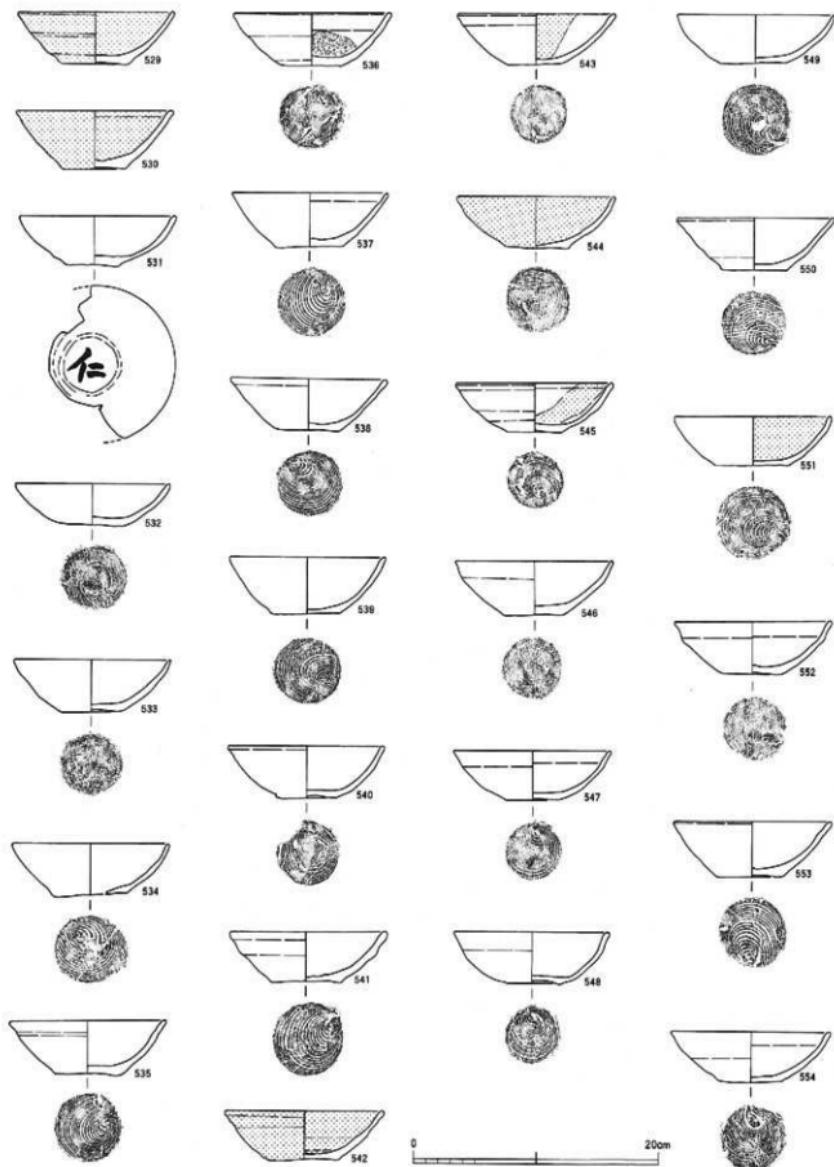
第29図 8地区の出土遺物—SD01—



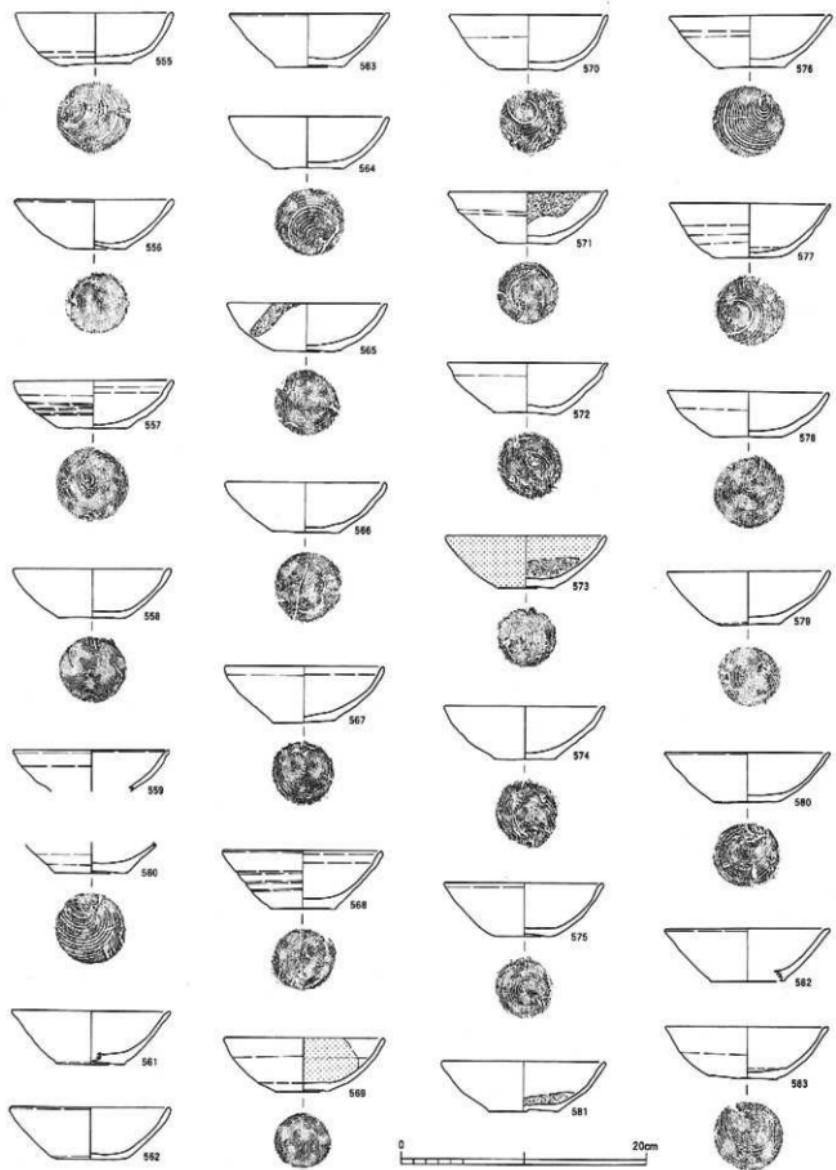
第30図 8地区の出土遺物—SD01—



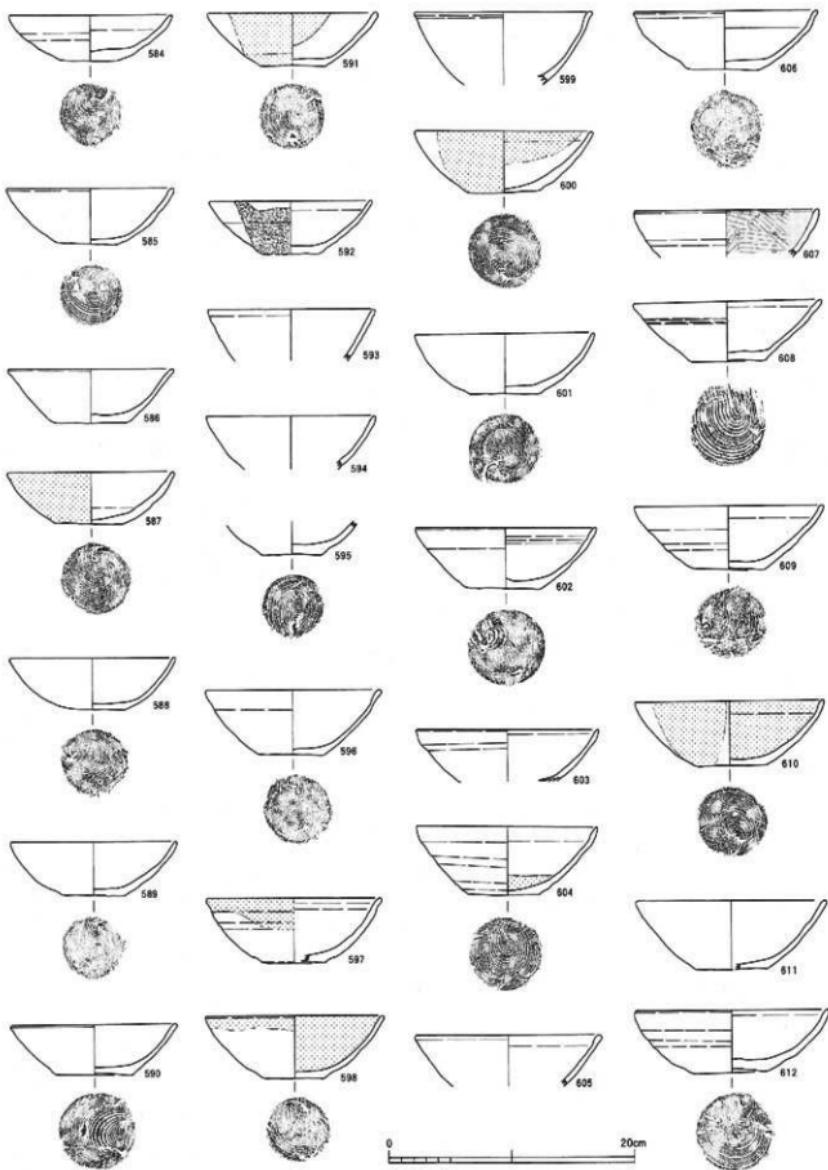
第31図 8地区の出土遺物—SD01—



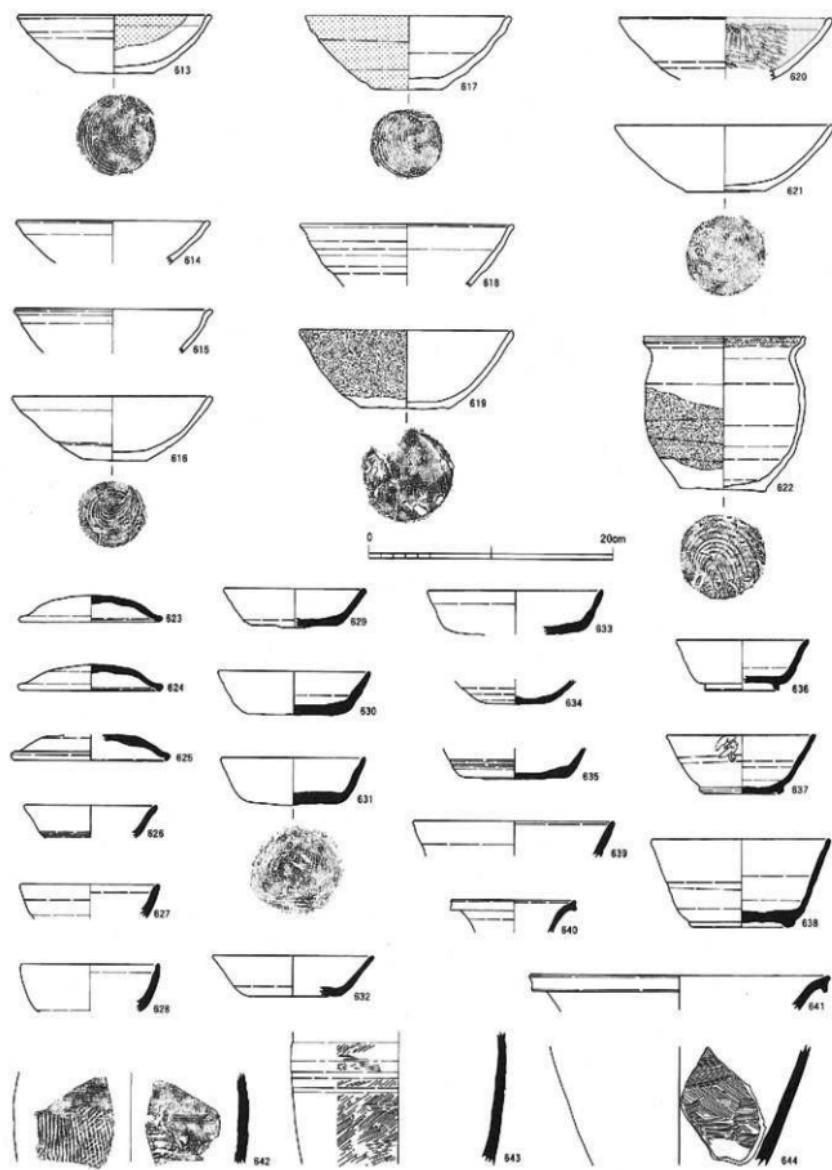
第32図 8地区の出土遺物—SD01—



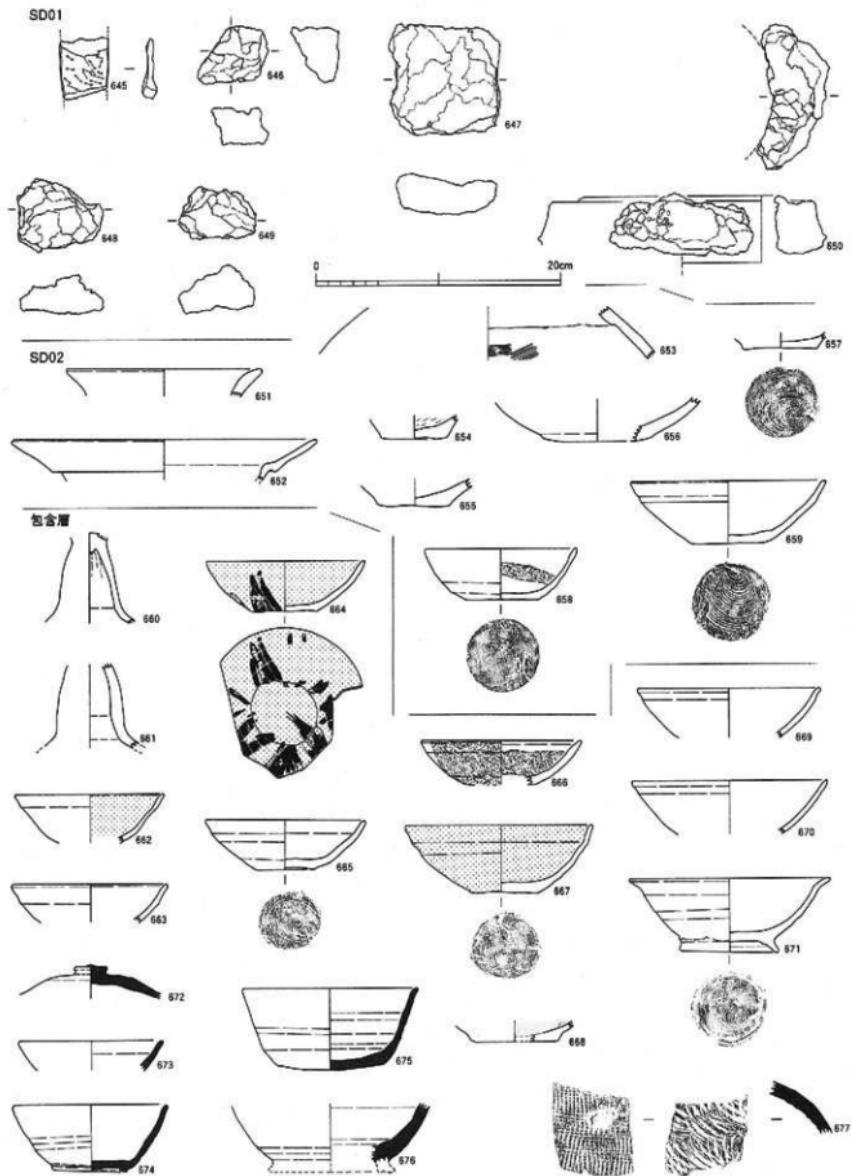
第33図 8地区の出土遺物—SD01—



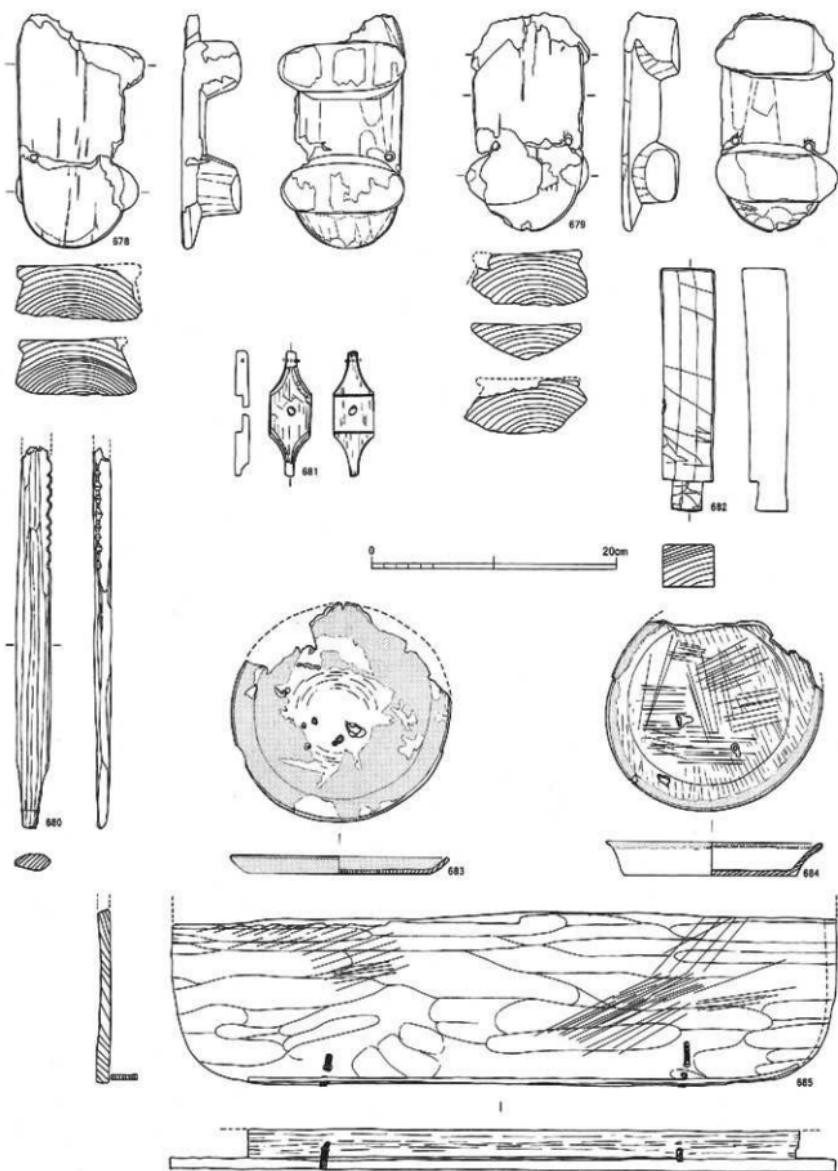
第34図 8地区の出土遺物—SD01—



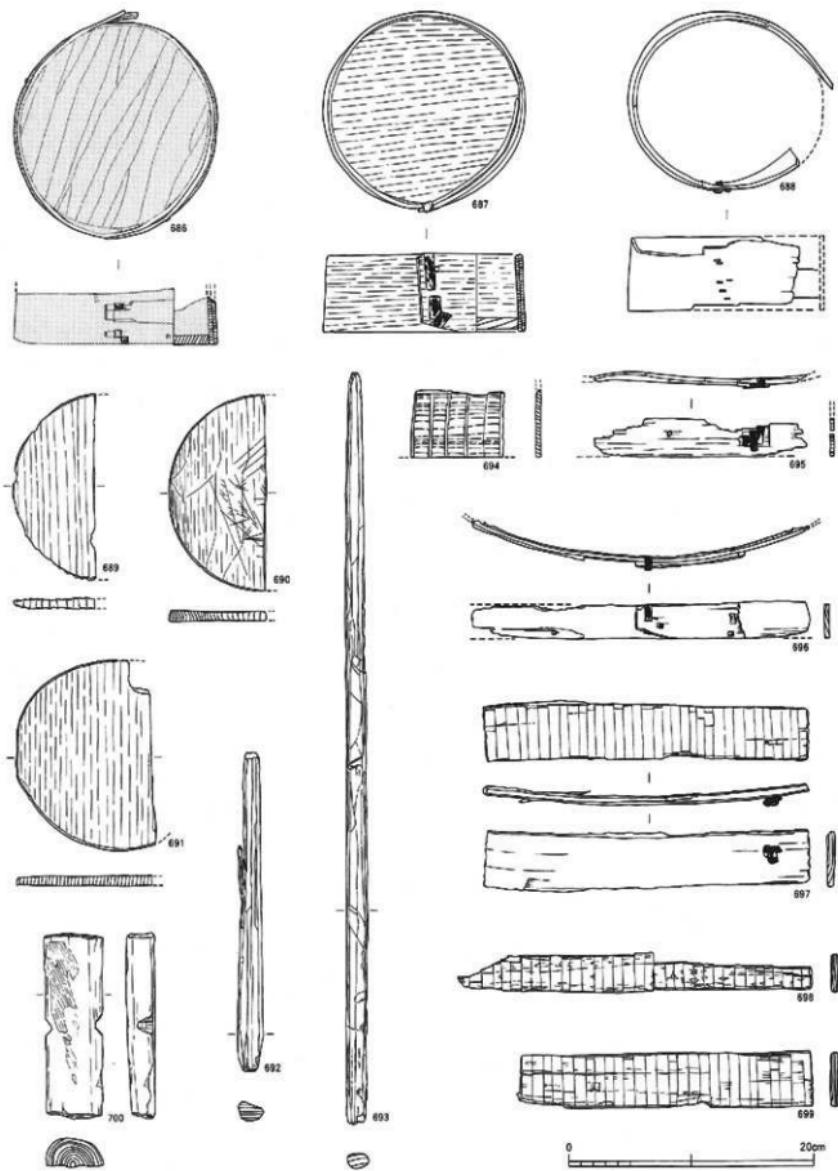
第35図 8地区の出土遺物—SD01—



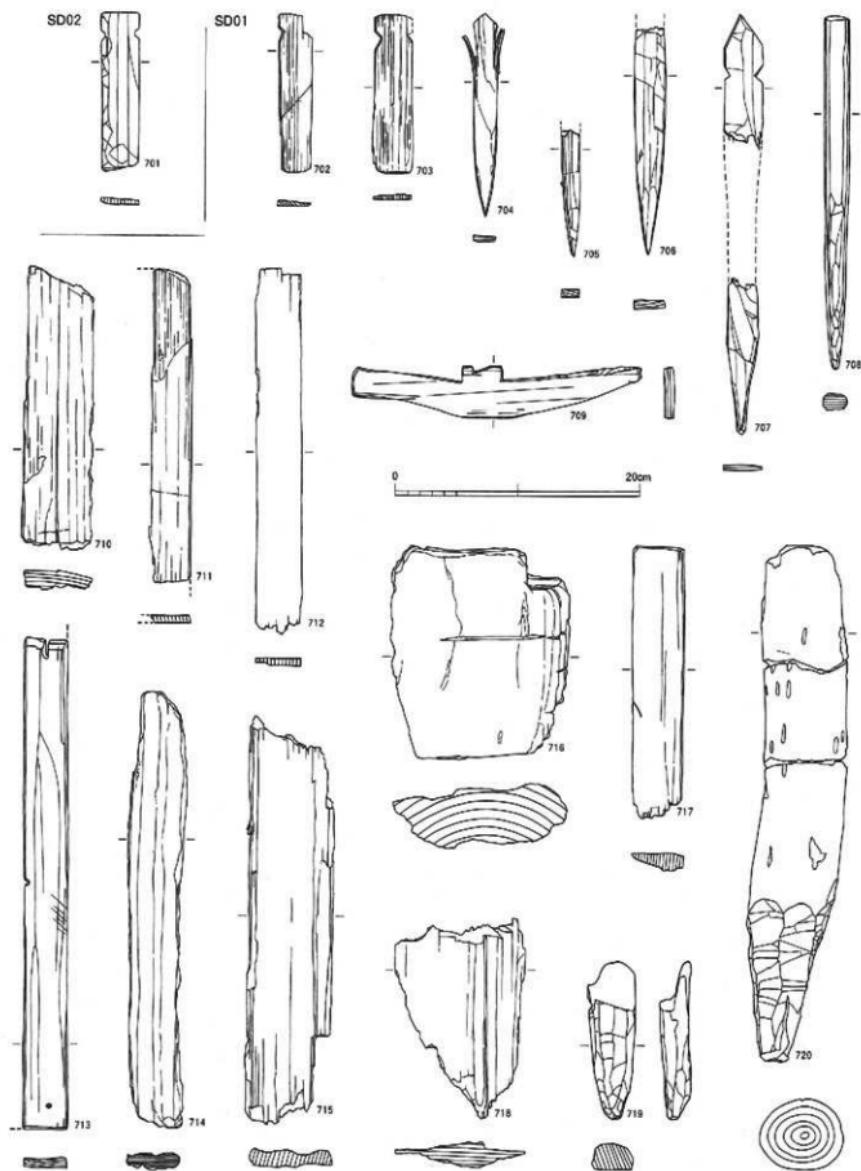
第36図 8地区の出土遺物—SD01・02, 包含層—



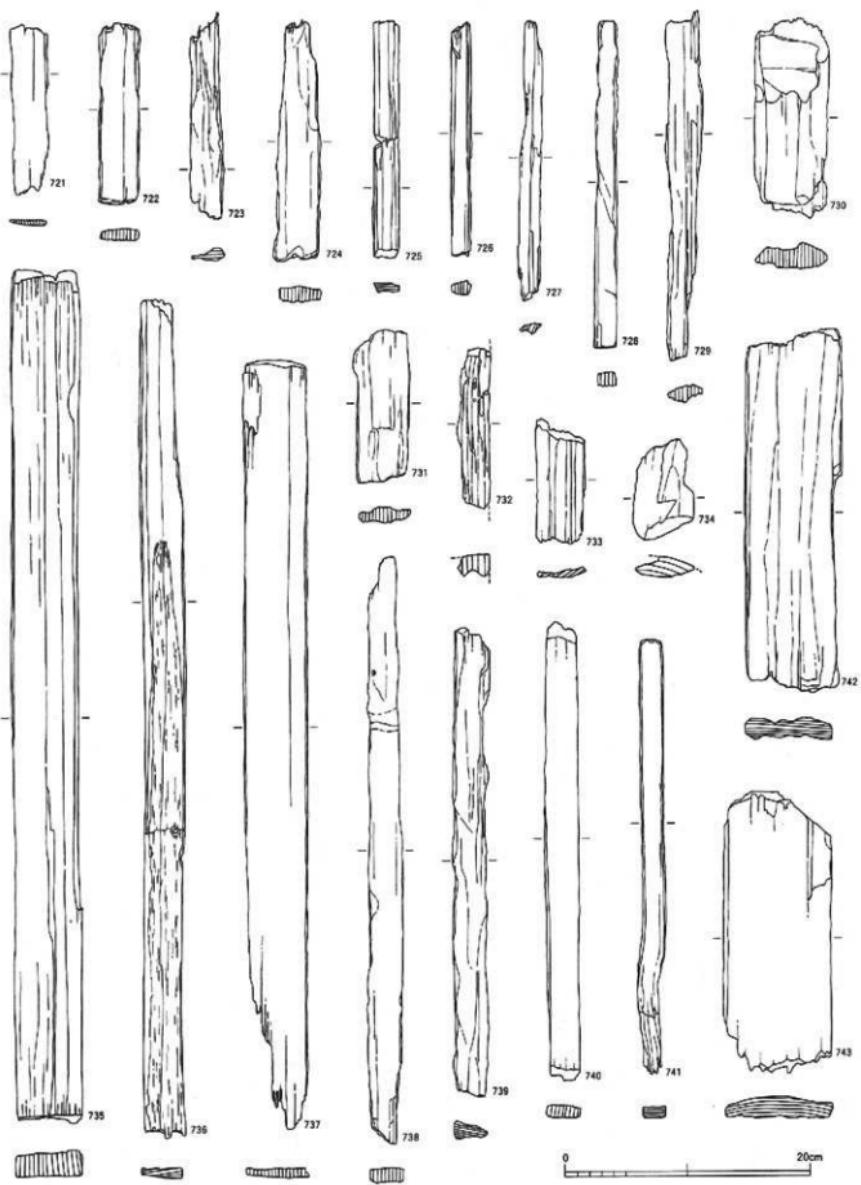
第37図 8地区の出土遺物—SD01—



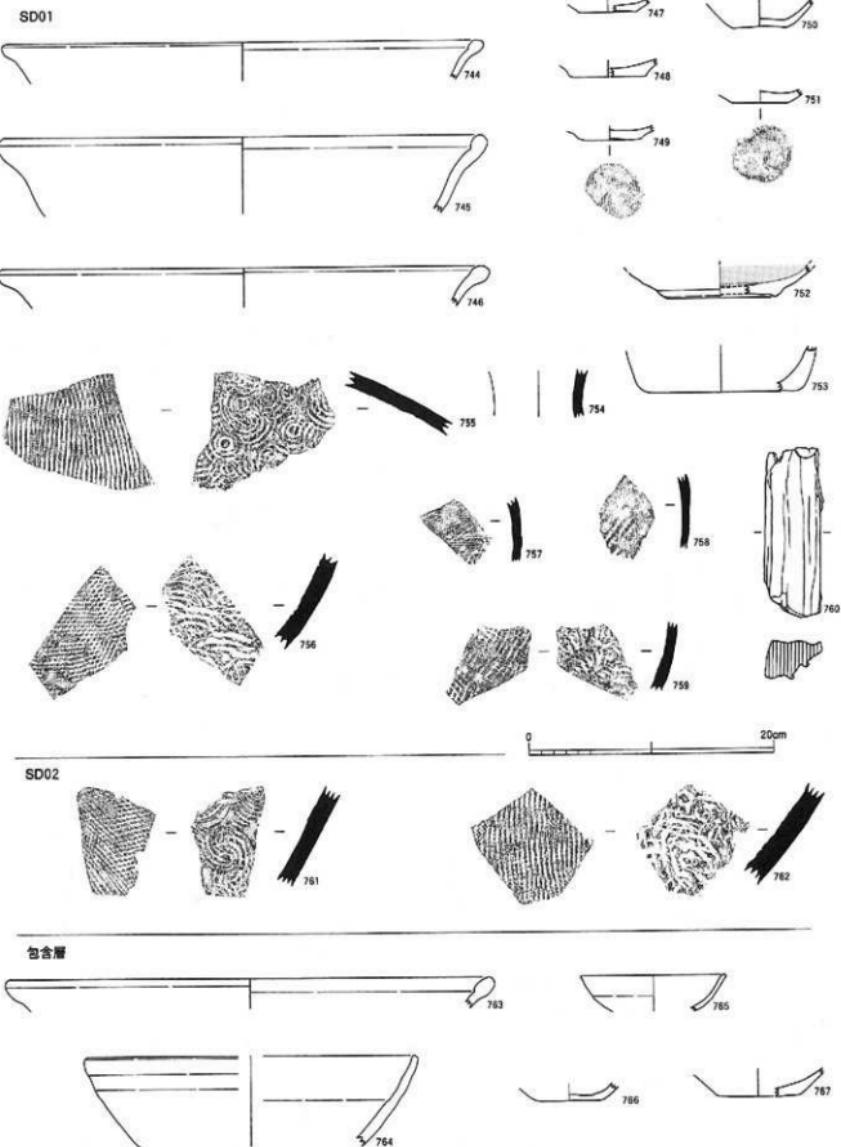
第38図 8地区の出土遺物—SD01—



第39図 8地区の出土遺物—SD01・02—

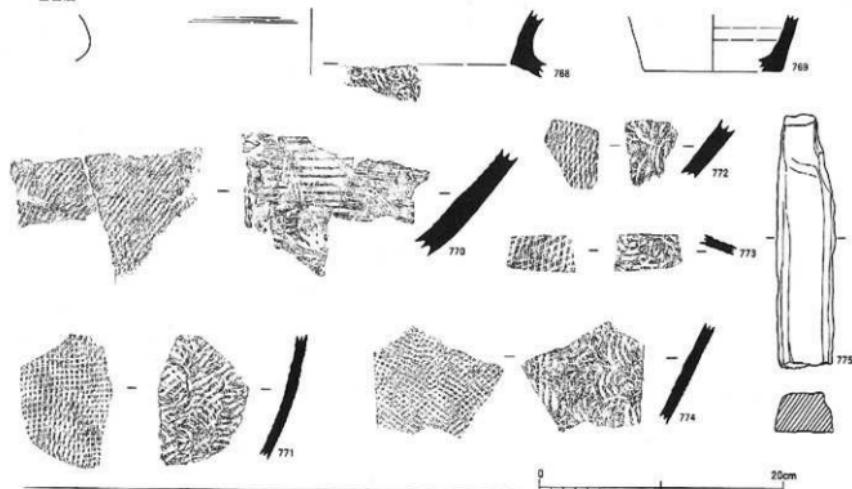


第40図 8地区の出土遺物—SD01—

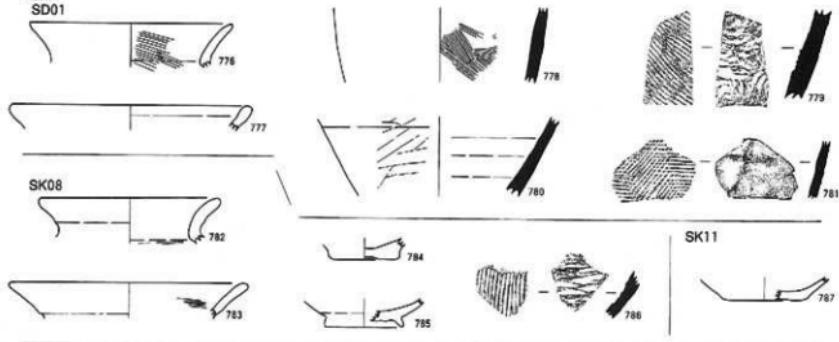


第41図 9地区の出土遺物—SD01・02, 包含層—

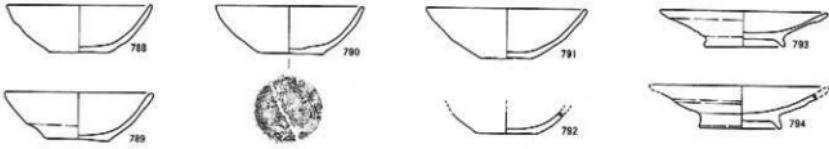
9地区  
包含層



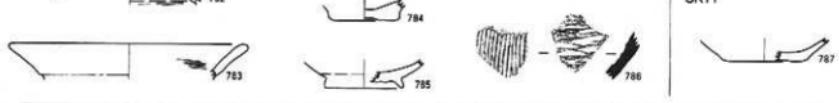
7地区  
SD01



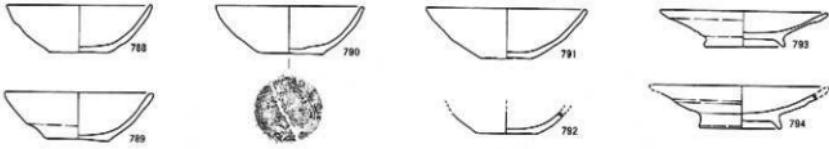
SK08



SK11



SK09



SD02



第42図 9地区の出土遺物—包含層— 7地区的出土遺物—SD01・02, SK08・09・11—

面番	No	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考		残存率
								裏(蓋)	外	
第13回	1	2-41レンチ	洗生土器	蓋			6.7			底 3/4
	2	1-1トレンチ	洗生土器	蓋	12.4					口 1/4
	3	1-1トレンチ	洗生土器	蓋	13.6					口 1/8
	4	1-1トレンチ		裏(蓋)			5.7			底 完存
	5	1-1トレンチ		底坏?						1/2
	6	1-1トレンチ	洗生土器	底坏				周径 18.6		
	7	1-1トレンチ	須恵器	底坏	11.6					口 1/16
	8	1-1トレンチ	須恵器	底坏	14.3					口 1/4
	9	1-1トレンチ	須恵器	底坏	15.7					口 1/25
	10	1-1トレンチ	須恵器	底坏						1/4
	11	耕作土	須恵器	底坏			5.7			1/6
	12	1-1トレンチ	須恵器	底坏			7.3			1/8
	13	1-1トレンチ	須恵器	底坏			7.8			1/4
	14	耕作土下	須恵器	底坏			6.9			
	15	便設排水路	須恵器	底坏			8.5			1/2
	16	1-1トレンチ	須恵器	底坏			8.9			1/4
	17	1-1トレンチ	須恵器	裏	38.0					1/8
	18	便設排水路	亞洲	蓋						1/8
	19	表層	亞洲	片口鉢		11.7				
	20	1-1トレンチ	亞洲	片口鉢		12.8				1/4
	21	2-11トレンチ	土師器		11.6					口 1/8
	22	2-11トレンチ	土師器		12.8					1/8
	23	2-11トレンチ	土師器		17.6					口 1/4
	24	2-11トレンチ	土師器		17.7			外面部焼付着		口 1/2 体 1/4
	25	2-11トレンチ	土師器	蓋	6.9	8.4	3.5			口 1/4
	26	2-11トレンチ	土師器	蓋	8.8					1/4
	27	2-11トレンチ	土師器	蓋						1/4
	28	2-11トレンチ	土師器	裏(蓋)			4.7			底 完存
	29	2-11トレンチ	土師器	裏			6.1			底 ほぼ完存 1/4
	30	2-11トレンチ	土師器	裏			4.8			底 完存
	31	2-11トレンチ	土師器		18.6			内外面赤彩痕		口 1/12
	32	2-11トレンチ	土師器	高坏	15.6					
	33	2-11トレンチ	土師器	高坏	15.4					
	34	2-11トレンチ	土師器	高坏						
	35	2-11トレンチ	土師器	高坏						
	36	2-11トレンチ	土師器	高坏				外面部赤彩		
	37	2-11トレンチ	土師器	高坏				背面一部赤彩		脚 1/2
	38	2-11トレンチ	土師器	高坏				周径 10.4 外面部赤彩		脚 1/2
	39	2-11トレンチ	須恵器	蓋				周径 11.6		1/5
第14回	40	2-13トレンチ	地中面戸	壇				鉢形		破片
	41	2-14トレンチ			13.6					1/4
	42	2-16トレンチ	洗生土器	裏(蓋)			4.7			1/4
	43	2-37トレンチ	須恵器							1/10
	44	2-51トレンチ	須恵器	底坏			9.6	生焼け		
	45	2-54トレンチ	須恵器				4.1			1/5
	46	2-55トレンチ	石製品	幕石						
	47	2-9トレンチ	洗生土器	把手						
	48	2-26トレンチ	土製品	土師器	周径 4.1			I 区		
	49	2-26トレンチ	中腹上部戸	邊明里	7.8			内外面タル付着 I 区表採		
	50	2-26トレンチ	白磁		15.9			I 区表採		1/12
	51	2-27トレンチ	須恵器	底坏	9.8	2.8				1/8
	52	2-27トレンチ	須恵器	底坏	12.6	4.0	7.8	内外面タル付着		1/4
	53	2-35トレンチ	土師器		20.1					口 1/4
第15回	54	2-35トレンチ	土師器				6.2			底 完存
	55	2-35トレンチ	土師器				3.0			3/4
	56	2-35トレンチ	土師器		14.7	11.8				口 完存
	57	2-35トレンチ	土師器	底坏	17.3					
	58	2-35トレンチ	中腹上部戸	底坏	14.2					口 1/8
	59	2-7トレンチ	土師器		33.0					口 1/16
	60	2-7トレンチ	珠洲	片口鉢	24.3					1/14
	61	2-7トレンチ	珠洲	裏			10.3			1/5
	62	2-25トレンチ		有孔鉢			4.9			底 完存
	63	2-25トレンチ	上部戸	高坏						
	64	2-25トレンチ	須恵器	底坏	12.0	2.3		ヘラキリ痕		完形
	65	2-25トレンチ	須恵器	双耳瓶						破片
	66	2-25トレンチ	須恵器	蓋			14.0			1/4
	67	2-25トレンチ	須恵器	双耳瓶			13.2			1/8

第3表 出土遺物観察表



図版	No.	遺物・出土品	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第17回	148	2-25レンチ	土師器	环	12.9	4.4	5.2	系切り痕	完形
	149	2-25レンチ	土師器	环	12.9	4.2	4.6	外腹一部僅付着 内外面赤彩痕 系切り痕	ほぼ完形
	150	2-25レンチ	土師器	环	12.9	4.2	4.6	内外面赤彩 系切り痕	ほぼ完形
第18回	151	2-25レンチ	土師器	环	13.0	4.0	4.7	内外面赤彩 系切り痕	口1/2 底 完存
	152	2-25レンチ	土師器	环	13.0	4.3	5.0	内外面赤彩痕 系切り痕	口1/2 底 完存
	153	2-25レンチ	土師器	环	13.0	4.7	5.4	内外面赤彩痕 内外赤彩 系切り痕	口1/2 底 完存
	154	2-25レンチ	土師器	环	13.1	4.2	5.1	内外面赤彩痕 系切り痕	ほぼ完形
	155	2-25レンチ	土師器	环	13.1	4.5	5.3	内外面赤彩痕 系切り痕	口1/2
	156	2-25レンチ	土師器	环	13.2	4.0	5.6	内外面赤彩痕 系切り痕	口1/2 底 完存
	157	2-25レンチ	土師器	环	13.2	4.3	4.8	内外面赤彩痕 系切り痕	完形
	158	2-25レンチ	土師器	环	13.2	3.9	5.0	内外面赤彩痕 内外赤彩痕 系切り痕	完形
	159	2-25レンチ	土師器	环	13.3	4.8	5.7	内外面赤彩痕 系切り痕	ほぼ完形
	160	2-25レンチ	土師器	环	13.5	4.0	4.6	系切り痕	口1/3 底 完存
	161	2-25レンチ	土師器	環	13.2	3.2	6.0	内面タルル付着 内外面赤彩痕	口3/5 底 完存
	162	2-25レンチ	土師器	環	13.2	2.7	5.0	内外面タルル付着 内外面赤彩痕 系切り痕	ほぼ完形
	163	2-25レンチ	土師器	環	13.4	2.1	4.8	系切り痕	完形
	164	2-25レンチ	土師器	環	13.5	3.0	4.8	口縁部内外面黒・内面タルル付着 系切り痕	完形
	165	2-25レンチ	土師器	环	13.6	5.9	5.2	内外面赤彩付着 内面赤彩痕 系切り痕	完形
	166	2-25レンチ	土師器	环	13.7	4.2	5.9	内外面赤彩痕 系切り痕	口2/3 底 完存
	167	2-25レンチ	土師器	环	13.7	4.1	5.7	内外面赤彩痕 系切り痕	口3/4 底 完存
第19回	168	2-25レンチ	土師器	环	14.3	5.8	5.5	内外面タルル付着 内外面赤彩痕 系切り痕	口4/5 底 完存
	169	2-25レンチ	土師器	环	14.3	5.5	6.1	系切り痕	口5/8 底 完存
	170	2-25レンチ	土師器	环	14.4	5.5	5.4	内外面赤彩痕 系切り痕	口5/8 底 完存
	171	2-25レンチ	土師器	环	14.5	5.2	5.9	内外面赤彩痕 系切り痕	口3/5 底 完存
	172	2-25レンチ	土師器	环	15.0	5.2	6.0	系切り痕	1/2
	173	2-25レンチ	土師器	环	15.0	5.0	5.8	内外面赤彩痕 系切り痕	口1/4 底 完存
	174	2-25レンチ	土師器	环	15.4	5.4	6.0	内外面赤彩痕 系切り痕	口7/8 底 完存
	175	2-25レンチ	土師器	环	15.4	5.8	5.8	系切り痕	口7/8 底 完存
	176	2-25レンチ	土師器	环	15.6	5.3	5.4	内外面赤彩痕 系切り痕	口7/8 底 完存
	177	2-25レンチ	土師器	环	15.6			内面黒色	口1/3
	178	2-38レンチ	瓦質土器						破片
	179	2-46レンチ			29.0				口1/16
	180	2-46レンチ		亮(透)		4.9		内面黒付着	底 1/4
	181	2-46レンチ		亮(透)		5.2			底 1/2
	182	2-46レンチ	須恵器	亮	29.6				口1/8
	183	2-47レンチ	土師器		23.0				口1/16
	184	2-48レンチ	石器	磨削石斧				三区中央	
	185	2-50レンチ	土師器		33.6				口1/24
	186	2-50レンチ	須恵器	环	15.4				口1/12
	187	2-50レンチ	須恵器		21.4				口1/16
	188	2-50レンチ		欧洲					
	189	2-50レンチ		欧洲	片口鉢	26.4			口1/13
	190	2-50レンチ		土師器		12.2			口1/12
	191	2-50レンチ		土師器		5.0		系切り痕	底 1/2
	192	2-50レンチ	越中高岡	燈明皿	11.3			鉄輪 タール付着	口1/8
	193	2-50レンチ	灰陶器	皿		8.2			底 1/4
	194	2-50レンチ		羽口					
	195	2-59レンチ		磨漆		5.6			底 1/4
	196	2-61レンチ		磨漆				鉄輪	破片
	197	2-62レンチ	越中高岡	ひだ皿?	11.5	2.3	4.5	鉄輪 重ね焼き痕	
	198	2-62レンチ		小杉鉢	8.3				1/8
	199	2-63レンチ	土師器		17.0				口1/8
	200	2-5レンチ	螺鈿	片口鉢	30.6				口1/12
	201	2-28レンチ		董					
	202	2-30レンチ	土師器		32.6				口1/8
	203	2-30レンチ	土師器		37.2				口1/24
	204	2-30レンチ	縦撚陶器	环	11.8			縦撚(わずかに痕跡あり)	口1/16
	205	2-30レンチ	縦撚陶器	环		6.4		縦撚(わずかに痕跡あり)	底 1/3
	206	2-31レンチ	須恵器	高环					
	207	2-33レンチ	須恵器	环	10.2				1/8
	208	2-34レンチ	須恵器	束(透)		6.1			底 完存
第20回	209	2-64レンチ	須恵器	亮					破片
	210	2-66レンチ	土師器		17.1				口1/8
	211	2-66レンチ		亮(透)		8.4			底 完存
	212	2-66レンチ	弥生土器	小型土器		3.3			底 完存
	213	2-66レンチ	土師器			4.2		系切り痕	底 1/2
	214	2-68レンチ			10.9				1/4
	215	2-68レンチ		高环					
	216	2-68レンチ	須恵器	亮	18.9				口1/8
	217	2-69レンチ	須恵器	环	13.8	2.5		生焼け	1/16
	218	2-76レンチ	土師器		25.8				口1/12
	219	2-80レンチ			14.1				口1/8
	220	2-80レンチ	土師器		18.6				口1/6
	221	2-80レンチ		亮(透)		4.0			底 完存

図版	No	遺物・出土品	種類	分類	口径(cm)	身高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
	222	2-80トレンチ	須恵器	高环	12.4				1/8
	223	2-80トレンチ	須恵器	坏盖			3.7		底 完存
	224	2-80トレンチ							口 1/16
	225	2-88トレンチ	土師器		18.6				口 1/16
	226	2-89トレンチ	土師器		17.5				底 1/4
	227	2-89トレンチ		壺(蓋)			9.8		破片
	228	2-89トレンチ	株洲	片口鉢					口 1/16
第20回	229	2-91トレンチ			26.2				口 1/6
	230	2-92トレンチ			13.9				1/8
	231	2-92トレンチ		壺	16.1				底 完存
	232	2-92トレンチ		壺(蓋)			4.7		口 1/24
	233	表探	土師器		36.4				1/6
	234	表探	須恵器	高环	11.9				口 1/14
	235	表探	須恵器	壺	25.1				口 1/10
	236	表探	株洲	片口鉢	30.8				
	237	表探	石器	砾石					
	238	表探	須恵器	横瓶	10.4				1/5
第21回	239	1-2トレンチSD02		壺	11.7				口 1/16
	240	1-2トレンチSD02		壺	14.4				口 1/8
	241	1-2トレンチSD02		壺	15.4				口 1/12
	242	1-2トレンチSD02	土師器	高环					
	243	1-2トレンチSD02	土師器	高环			12.0		
	244	1-2トレンチSD02	須恵器	壺	40.0			1-2-2-76トレンチを含む	口 1/8
	245	1-2トレンチSD02	須恵器	双耳瓶				自然釉	破片
	246	1-2トレンチSD02	須恵器	坏壺	14.4				口 1/14
	247	1-2トレンチSD02	須恵器	坏壺	21.6				口 1/15
	248	1-2トレンチSD02	須恵器	坏壺				系切刀痕	
	249	1-2トレンチSD02	須恵器	坏	6.8				底 1/5
	250	1-2トレンチSD02	須恵器	坏	9.2				底 1/4
	251	1-2トレンチSD02	須恵器	坏	10.3				1/4
	252	1-2トレンチSD02	土師器	坏			5.7	系切刀痕	底 1/2
	253	1-2トレンチSD02	須恵器	坏壺	14.5				口 1/8
	254	1-2トレンチSD02	須恵器	双耳瓶				自然釉	破片
	255	1-2トレンチSD02	須恵器	坏					底 1/3
	256	1-2トレンチSD02	株洲	壺					破片
	257	1-2トレンチSD	土師器		25.0				口 1/24
	258	1-2トレンチSD02			36.9				口 1/8
	259	1-2トレンチSD			14.6				口 1/8
	260	1-2トレンチSD	小型土器						1/4
	261	1-2トレンチ		壺	11.8			外面一部煤付着	口 1/3
	262	1-2トレンチ	土師器		22.4			外面赤彩痕	口 1/12
	263	1-2トレンチ	土師器		18.8				1/7
第22回	264	1-2トレンチ	土師器		15.7				口 1/8
	265	1-2トレンチ	土師器		17.3				口 1/8
	266	1-2トレンチ	土師器		21.1				口 1/10
	267	1-2トレンチ	土師器		16.8				1/2
	268	1-2トレンチ		壺(蓋)			4.6		底 1/2
	269	1-2トレンチ	土師器	高环					
	270	1-2トレンチ	須恵器	壺(蓋)	(44.8)				破片
	271	1-2トレンチ	須恵器	壺	31.7				口 1/16
	272	1-2トレンチ	須恵器	双耳瓶					
	273	1-2トレンチ	須恵器	壺					1/4
	274	1-2トレンチ	須恵器	壺(蓋)		10.3			底 1/5
	275	1-2トレンチ	須恵器	壺(蓋)		9.7			1/5
	276	1-2トレンチ	須恵器			9.5			底 1/4
	277	1-2トレンチ	須恵器	壺(蓋)	12.1	1.9	21	21年2月	1/4
	278	1-2トレンチ	須恵器	坏壺	14.0	2.5	24	24年2月	3/8
	279	1-2トレンチ	須恵器	坏壺	11.2				1/8
	280	1-2トレンチ	須恵器	坏壺			7.3		1/8
	281	1-2トレンチ	須恵器	坏			8.0		1/8
	282	1-2トレンチ	須恵器	坏			6.6		底 1/4
	283	1-2トレンチ	須恵器	坏			6.6		底 1/8
	284	1-2トレンチ	須恵器	坏			5.9		底 1/5
	285	1-2トレンチ	須恵器	坏			8.1		底 1/6
	286	1-2トレンチ	須恵器	坏			6.4		底 1/4
	287	1-2トレンチ	須恵器	坏			6.0		底 1/2
	288	1-2トレンチ	須恵器	坏			6.8		底 1/4
	289	1-2トレンチ	須恵器	坏			8.0		底 1/8
第23回	290	1-2トレンチ	須恵器	坏			9.8	ヘラ記号	底 1/2
	291	1-2トレンチ	羽口	坏					
	292	1-2トレンチ	土師器	坏	11.2				口 1/4
	293	1-2トレンチ	瓶					[開元通寶]	
	294	A地区	土師器		18.2		2区		口 1/18
	295	A地区 SD01	土師器	壺	17.5		2区		口 1/6

図版	名	通称・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
296	A地区	土師器	要		19.8			1区	口 1/8
297	A地区	土師器	要		19.6			2区	5/8
298	A地区	土師器			13.4			2区	口 1/4 底 完存
299	A地区	土師器	壺		12.6	14.9		2区	1/6
300	A地区	土師器	壺					外面糊付着 2区	
301	A地区	土師器	壺(蓋)			6.3	1区		底 1/2
302	A地区	土師器	壺(蓋)			4.0	1区		底 1/2
303	A地区	土師器				9.2	2区		底 1/5
304	A地区	土師器	小型土器		4.3		4.3	2区	口 1/3 底 完存
305	A地区	土師器			14.0	3.7		2区	口 1/8 体 1/4
306	A地区	土師器	高环		15.8			2区	
307	A地区	土師器	高环					1区	
308	A地区	土師器	高环					1区	
309	A地区	土師器	器台					1区	
310	A地区	土師器	高环					1区	
311	A地区	須恵器	壺環		12.8			1区	1/12
312	A地区	須恵器	壺環		14.0			1区	1/12
313	A地区	須恵器	壺					1区	底 1/5
314	A地区	須恵器	壺		12.2			1区	1/8
315	A地区	須恵器	壺		10.9	3.2		1区	1/4
316	A地区	須恵器	壺		13.0	2.9		1区	1/8
317	A地区	須恵器	壺		12.8	3.1		1区	1/16
318	A地区	須恵器	壺		13.0			1区	1/12
319	A地区	須恵器	壺			8.0	2区		底 1/8
320	A地区	須恵器	壺			8.4	1区		底 1/4
321	A地区	須恵器	壺			9.5	2区		底 1/4
322	A地区	弦纹	片口鉢				2区		破片
323	A地区							鉄物 1区	鐵片
324	B地区	弥生土器			20.3			SP1 2区 SP1 2区	口 1/4
325	B地区	弥生土器			20.8			SP1 2区	口 1/12
326	B地区	弥生土器			10.6			SP1 2区	口 1/8
327	B地区	弥生土器			15.5			SP1 2区	口 1/8
328	B地区	弥生土器			15.5			SP1 2区	口 1/4
329	B地区	弥生土器			14.8			外面糊付着 SP1 2区	口 1/8 体 1/4
330	B地区	弥生土器						SP1 2区	破片
331	B地区	弥生土器						SP1 2区	破片
332	B地区	弥生土器						外面糊付着 SP1 2区	破片
333	B地区	弥生土器						SP1 2区	破片
334	B地区	弥生土器			15.5			SP1 2区	口 1/8
335	B地区	弥生土器			17.0			外面一節糊付着 SP1 2区	1/3
336	B地区	弥生土器			17.8			SP1 2区	1/5
337	B地区	弥生土器	壺		17.0		5.5	SP1 2区	ほぼ完形
338	B地区	弥生土器	壺(蓋)			34.0	5.2	SP1	底 1/7
339	B地区	弥生土器	壺(蓋)				6.7	SP1 2区	底 1/2
340	B地区	弥生土器	壺(蓋)				6.9	SP 2区	底 ほぼ完存
341	B地区	弥生土器	壺				6.4	SP1	底 1/8
342	B地区	弥生土器	壺				7.3	SP1 2区	底 完存
343	B地区	弥生土器	壺				8.1	SP1 2区	底 完存
344	B地区	弥生土器	壺(蓋)				7.8	SP1 2区	底 完存
345	B地区	弥生土器	壺				5.0	SP1	底 完存
346	B地区	土師器	高环					SP1	
347	B地区	土師器					11.0	SP1 2区	1/4
348	B地区	須恵器			16.9			1区	口 1/6
349	B地区	須恵器	壺		18.6			SP1 2区	1/10
350	B地区	須恵器	壺			21.8	22.1	1区	
351	B地区	須恵器	壺蓋				22.6	22.4	1区
352	B地区	須恵器	壺蓋		15.6			1区	1/12
353	B地区	須恵器	壺				1区		底 1/5
354	B地区	須恵器	壺				1区		底 1/8
355	B地区	須恵器	壺		10.4			SP1 2区	1/5
356	B地区	須恵器	壺		12.5	3.4		口縁歪み SP1	1/2
357	B地区	須恵器	壺			3.4	7.0	1区	底 1/4
358	B地区	須恵器	壺				7.6	1区	底 1/2
359	B地区	須恵器	壺				7.4	2区	底 1/8
360	B地区	須恵器	壺		14.7		8.9	歪み 1区	完形
361	B地区	弦纹	片口鉢			5.9	12.1	1区	底 1/4
362	B地区	越中織戸			9.8		4.7	鉄箱 タール付着 1区	1/2
363	C地区	土師器			12.4	2.0		外面一部糊付着 A桟-SK02	口 1/5 底 ほぼ完存
364	C地区	土師器	要		14.8	6.1		外面糊付着 A桟-SK01	口 1/8 体 1/2 底 完存
365	C地区	土師器	要		19.9	12.6		外面糊付着 A桟-SK01-包含層	口 4/5
366	C地区	土師器	要					外面糊付着 A桟-SK02-包含層	1/4
367	C地区	土師器	壺(蓋)				5.8	A桟-SK01	底 ほぼ完存
368	C地区	土師器	壺(蓋)				6.9	A桟-SK01-包含層	底 1/2
369	C地区	土師器	高环		15.8			A桟-包含層	1/4

図版	No.	遺構・出土品	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第25図									
	370	C地区	土師器	高环				A様-包存層	
	371	SD01	土師器	甕	13.3				□ 1/4
	372	SD01	土師器	甕	13.5				□ 1/4
	373	SD01	土師器	甕	14.1				□ 1/6
	374	SD01	土師器	甕	14.5				□ 1/16
	375	9トレンチ	土師器	甕	16.8			外面一部焼付着	1/4
	376	SD01	土師器	甕	12.8				□ 1/6
	377	SD01	土師器	甕	15.5				□ 1/8
	378	SD01	土師器	甕	15.9				□ 1/4
	379	SD01	土師器	甕	17.5				□ 1/20
	380	SD01	土師器	甕	18.7				□ 1/12
	381	SD01	土師器	甕	14.2				□ 1/4
	382	SD01	土師器	甕	15.3				□ 1/8
	383	9トレンチ	土師器	甕	17.0				□ 1/4
	384	SD01	土師器	甕	17.5				□ 1/7
	385	9トレンチ	土師器	甕	16.6			外面焼付着	1/6
	386	12トレンチ	土師器	甕	13.8			外面焼付着	□ 2/3 体 1/2
	387	SD01	土師器	甕	17.3			口縁部内外面赤彩	□ 1/4
	388	SD01	土師器	甕	20.1				□ 2/3 体 1/2
第26図									
	389	SD01	土師器	甕					
	390	SD01	土師器	甕					
	391	SD01	土師器	甕					
	392	SD01	土師器	甕	14.0				□ 1/8
	393	SD01	土師器	甕	13.3				□ 1/8
	394	X5Y6	土師器	甕				外面焼付着	底 1/4
	395	SD01	土師器	甕(蓋)		3.0			底 3/4
	396	SD01	土師器	甕(蓋)		3.6			底 1/4
	397	SD01	土師器	甕		4.4			底 完存
	398	X3Y4	土師器	甕(蓋)		4.6			底 ほぼ完存
	399	SD01	土師器	甕(蓋)		4.8			底 1/3
	400	SD01	土師器	甕(蓋)		4.6			底 1/4
	401	SD01	土師器	甕					
	402	13トレンチ	土師器	甕(蓋)		6.1	外第一部焼付着		底 完存
	403	9トレンチ	土師器	高环					7/8
	404	2番	土師器	高环					
	405	SD01	土師器	高环					
	406	9トレンチ	土師器	高环					
	407	9トレンチ	土師器	高环					
	408	SD01	土師器	器台					脚 1/2
	409	9トレンチ	土師器	高环					1/3
	410	SD01	土師器	高环					
	411	9トレンチ	土師器	高环					
	412	SD01	土師器	器台	8.8	7.7	脚径 11.0 穿孔3ヶ所 内外面赤彩		1/4
	413	SD01	土師器	高环	16.7	12.1	脚径 10.4		1/4は完形
	414	SD01	土師器	甕					1/4は完形
	415	SD01	土師器	甕					
	416	2番	土師器	甕					
	417	SD01	土師器	有孔鉢	9.8	9.1			□ 2/3 底 完存
	418	SD01	土師器						底 完存
	419	SD01	土師器	小箱土器					1/2
	420	9トレンチ	土師器	小箱土器					4/5
第27図									
	421	SD01	珠洲	片口鉢	21.8				破片
	422	SD07	すり鉢	すり鉢	31.1				破片
	423	丸合層	須恵器	甕	28.2				□ 1/12
	424	X2Y3	須恵器	甕					
	425	X5Y4	須恵器	甕					
	426	X5Y6	須恵器	甕					
	427	X5Y7	須恵器	甕					
	428	X5Y7	須恵器	甕					
	429	丸合層	珠洲	甕	9.0				底 1/6
	430	X4Y6	珠洲	片口鉢	11.0				底 1/6
	431	X2Y4	珠洲	片口鉢	10.0				底 1/4
	432	X4Y6	越中窯戸		10.4				鐵施 内外面一部焼付着
	433	東七	越中窯戸						□ 1/8
	434	X5Y7	越中窯戸						底 1/5
	435	X5Y7	越中窯戸		11.2	2.9	6.2 鉄施		底 1/2
	436	表土			12.4				1/4
	437	X5Y3			27.5				口 1/12
	438	X2Y4							破片
	439	X5Y4							破片
第28図									
	440	SD01 2号上面	石器	(石斧?)	長さ 12.3	幅 4.8	高さ 3.3		完形
	441	SD01 5号		甕	16.6				□ 1/8
	442	SD01 5号		甕(蓋)	17.8				□ 1/8
	443	SD01 5号		甕	19.5				□ 1/8
第29図									





国版	No	道機・沿土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第34回	589	SD01 4号	土師器	壺A	13.4	4.3	5.3	内外面赤彩痕 細切り痕	□ 3/4 底 完存
	590	SD01 5号	土師器	壺A	13.4	4.0	6.4	糸切り痕	□ 1/3 底 完存
	591	SD01 3~4号	土師器	壺A	13.5	4.2	5.3	内外面赤彩 細切り痕	□ 2/3 底 完存
	592	SD01 3号	土師器	壺A	13.5	4.3	4.7	内外面塗・外画一帯タル付着 細切り痕	□ 1/3 底 3/5
	593	SD01 4号	土師器	壺A	13.5			外画面赤痕	□ 1/5
	594	SD01 3号	土師器	壺A	13.6				□ 1/4
	595	SD01 5号	土師器	壺A			5.1	内外面赤彩痕 細切り痕	底 完存
	596	SD01 4~5号	土師器	壺A	14.0	5.2	5.6	内外面赤彩痕 細切り痕	空形
	597	SD01 4~5号	土師器	壺A	14.0	5.2	5.3	内面赤彩痕 外面赤彩 細切り痕	□ 1/4 底 1/3
	598	SD01 5号	土師器	壺A	14.2	5.1	5.2	内面・縁部外面赤彩 細切り痕 合み	□ 3/4 底 完存
	599	SD01 4号	土師器	壺A	14.4			外画面赤痕	□ 1/5
	600	SD01 4号	土師器	壺A	14.4	5.0	6.3	内外面赤彩痕 細切り痕	空形
	601	SD01 4号	土師器	壺A	14.5	4.9	6.3	外画面赤痕 細切り痕	空形
	602	SD01 3号	土師器	壺A	14.6	5.0	6.1	内面一筋付着 内外面赤彩痕 細切り痕	ほぼ空形
	603	SD01 4号	土師器	壺A	14.7				□ 1/6
	604	SD01 5号	土師器	壺A	14.7	5.6	5.9	内面赤彩 外面赤彩痕 細切り痕	□ 2/3 底 完存
	605	SD01 4号	土師器	壺A	14.8			内外面赤彩痕	□ 1/4
	606	SD01 4号	土師器	壺A	14.8	4.7	5.6	内面塗付着 内外面赤彩痕 細切り痕	□ 3/4 底 完存
	607	SD01 4号~5号	土師器	壺A	15.0			内面黒色	□ 1/8
	608	SD01 5号	土師器	壺A	15.2	4.9	6.2	内外面赤彩痕 細切り痕	ほぼ空形
	609	SD01 2号上面	土師器	壺A	15.3	5.2	6.0	糸切り痕	□ 1/3 底 完存
	610	SD01 4号~5号	土師器	壺A	15.3	5.3	5.8	内面塗痕 外面赤彩 細切り痕	ほぼ空形
	611	SD01 5号	土師器	壺A	15.4	5.6	5.8	内面塗付着 内外面赤彩痕 細切り痕	□ 1/2 底 1/2
	612	SD01 5号	土師器	壺A	15.5	5.1	6.1	内外面赤彩痕 細切り痕	□ 4/5 底 完存
第35回	613	SD01 4号~5号	土師器	壺A	15.4	4.7	6.5	内面赤彩 外面赤彩痕 細切り痕	□ 2/3 底 完存
	614	SD01 4号	土師器	壺A	15.6				□ 1/5
	615	SD01 5号	土師器	壺A	15.8			内外面赤彩痕	□ 1/5
	616	SD01 3~5号	土師器	壺A	16.1	5.2	5.4	糸切り痕	□ 2/5 底 完存
	617	SD01 5号	土師器	壺A	16.5	5.9	5.9	内面・縁部付着 内面赤彩痕 外面赤彩 細切り痕	□ 2/3 底 完存
	618	SD01 5号	土師器	壺A	17.1			内面赤彩痕	□ 1/8
	619	SD01 5号	土師器	壺A	17.1	6.3	7.4	内外面赤彩痕 外面タル付着 内面赤彩痕	ほぼ空形
	620	SD01 5号	土師器	壺A	17.2			内面黒色	□ 1/6
	621	SD01 5号	土師器	壺A	17.5	5.3	6.5	内外面赤彩痕 細切り痕	□ 1/3 底 完存
	622	SD01 4~5号	土師器	壺A	17.5	12.5	6.9	内外面塗・タル付着 細切り痕	□ 1/4 底 完存
	623	SD01 3号	須恵器	壺A	11.1	2.1		ヘラキリ痕	空形
	624	SD01 5号	須恵器	壺A	11.4	2.1			ほぼ空形
	625	SD01 3号	須恵器	壺A	12.3				1/8
	626	SD01 3号	須恵器	壺A	10.7				□ 1/8
	627	SD01 5号	須恵器	壺A	11.1				□ 1/7
	628	SD01 5号	須恵器	壺A	11.1				□ 1/8
	629	SD01 2号	須恵器	壺A	11.2	3.2		ヘラキリ痕	□ 1/12 底 1/3
	630	SD01 5号	須恵器	壺A	12.1	3.5		ヘラキリ痕	□ 3/4 底 完存
	631	SD01 5号	須恵器	壺A	11.5	3.9		ヘラキリ痕	□ 1/8 底 完存
	632	SD01 5号	須恵器	壺A	12.9	3.3			□ 1/6
	633	SD01 5号	須恵器	壺A	14.0			ヘラキリ痕	底 1/4
第36回	634	SD01 2号上面	須恵器	壺A					底 1/3
	635	SD01 5号	須恵器	壺A					底 1/3
	636	SD01 5号	須恵器	平B	10.6	4.1	6.1	内外面塗付着	□ 1/3 底 1/3
	637	SD01 5号	須恵器	平B	12.0	4.7	6.8	墨痕 内外面塗付着	□ 7/8 底 完存
	638	SD01 5号	須恵器	平B	14.3	7.2	8.6		□ 1/4 底 完存
	639	SD01 4号	須恵器		16.2				□ 1/9
	640	SD01 2号上面	須恵器	盒	9.8			自然釉	□ 1/8
	641	SD01 3号	須恵器	盒	24.2				□ 1/12
	642	SD01 2号	須恵器	盒					破片
	643	SD01 4号	須恵器					内面塗付着	体 1/7
	644	SD01 5号	須恵器						破片
	645	SD01 5号	石器		砾石				
	646	SD01 3号							
	647	SD01 4号							
	648	SD01 5号							
	649	SD01 5号							
	650	SD01 3号							
	651	SD02		壺(蓋)					□ 1/16
	652	SD02		壺(蓋)					□ 1/8
	653	SD02		壺					
	654	SD02		壺(蓋)					
	655	SD02		壺(蓋)					
	656	SD02 3号	土師器	壺					
	657	SD02		土師器					
	658	SD02 3号	土師器	壺	12.2	4.1	6.1	内外面塗付着 細切り痕	ほぼ空形
	659	SD02 5号	土師器	壺	15.6	5.1	6.2	糸切り痕 SD02 3号を含む	□ 4/5 底 完存
	660	耕土							
	661	包含層							
	662	X6Y5排水路	土師器	壺B	12.1			内面赤彩 外面赤彩痕	□ 1/5

図版	No.	機器・出力区	種類	器種	口径(cm)	高さ(cm)	延長(cm)	備考	残存量
第35回	663	X6Y5排水路	土師器	壇B	12.6				□ 1/4
	664	X6Y4排水路	土師器	壇B	12.6	4.1	5.4	外面墨痕 内外面赤形 系切り痕	□ 1/4 底 はげ完存
	665	X6Y5排水路	土師器	壇B	12.8	4.1	4.9	内外面一部保付着 系切り痕	□ 1/4 底 はげ完存
	666	X6Y5排水路	土師器	壇B	13.0			内外面保付着付着	□ 1/3
	667	X6Y4排水路	土師器	壇B	15.0	5.5	6.4	内外面赤形 系切り痕	□ 1/4 底 はげ完存
	668	X6Y5排水路	土師器	壇B			7.0	内面黒色 系切り痕	底 1/5
	669	X6Y5排水路	土師器	壇B	14.7			内外面赤形	□ 1/6
	670	X6Y5排水路	土師器	壇B	15.8			内外面赤形痕	□ 1/4
	671	X6Y5排水路	土師器	壇B	16.0	6.0	7.6	内外面赤形痕 系切り痕	□ 1/2 底 はげ完存
	672	X6Y7 5番	須恵器	环状				まくらび	
	673	X3Y3	須恵器	环	11.6				□ 1/8
	674	X5Y8 3番	須恵器	环	12.4	5.4	6.2	内外面焦付着	はげ完形
	675	X6Y3排水路	須恵器	环	14.0	6.6			□ 1/2 底 3/4
	676	包含層	須恵器	壇				自然軸	体 1/8
	677	X6Y7 5番	須恵器	壇				自然軸	破片
第37回				(長さ 帯 厚さ)					
	678	SD01 4号	木製品	下駄	18.9	9.9	4.8	迷術	
	679	SD01 4号	木製品	下駄	17.7	10.1	4.5	迷術	
	680	SD01 5号	木製品	紡錘形	31.2	2.8	1.3		
	681	SD01 5号	木製品	鍔端具	9.2	3.3	1.1	系車穴	
	682	SD01 3号	木製品	部材	19.8	4.4	3.4		完形
	683	SD01 4号	木製品	圓	口径 17.3	器高 13		内外面黒赤塗り	はげ完形
	684	SD01 4号	木製品	圓	口径 17.4	器高 27		口縁部墨張り黒塗り	はげ完形
	685	SD01 5号	木製品	手鏡形	54.1	14.0	1.1	皮止め2ヶ所	
第38回	686	SD01 5号	木製品	曲物	腰帶 16.6			内外面黒赤塗り 釘穴5ヶ所	
	687	SD01 4号	木製品	曲物	腰帶 16.5		6.4	釘穴4ヶ所	完形
	688	SD01 3号	木製品	曲物	[腰帶] 15.9		6.0	底無なし	
	689	SD01 3号	木製品	曲物底板	15.1	6.7	0.9		1/2
	690	SD01 4号	木製品	曲物底板	16.0	7.9	0.9		1/2
	691	SD01 4号	木製品	曲物底板	15.7	11.1	0.6		2/3
	692	SD01 5号	木製品	曲物底板	26.2	2.1	1.5	杓子の柄	
	693	SD01 2号	木製品	漆器	61.4	1.7	1.2	杓子の柄?	
	694	SD01 4号	木製品	漆器	6.5	7.5	0.4		
	695	SD01 4号	木製品	漆器	17.3	3.2	0.3	有孔 底止め1ヶ所	
	696	SD01 4号	木製品	漆器	27.6	3.0	0.4	底止め2ヶ所	
	697	SD01 4号	木製品	漆器	26.4	4.8	0.7		
	698	SD01 5号	木製品	漆器	28.5	3.1	0.6		
	699	SD01 5号	木製品	漆器	24.1	4.4	0.6		
	700	SD01 4号	木製品	漆子	15.1	4.8	2.4	切り欠2ヶ所	
第39回	701	SD02 3号	木製品	木札	12.8	3.2	0.5		
	702	SD01 3号	木製品	木札	12.8	1.7	0.4		
	703	SD01 4号	木製品	木札	12.9	3.2	0.4		
	704	SD01 5号	木製品	盾半	16.4	1.9	0.5		
	705	SD01 5号	木製品	盾半	10.2	1.5	0.7		
	706	SD01 5号	木製品	盾半	18.4	2.5	0.8		
	707	SD01 5号	木製品	盾半	(34.0)	3.1	0.4		
	708	SD01 5号	木製品	腰状製品	28.7	2.0	1.3		完形
	709	SD01 4号	木製品	腰形	23.6	4.2	0.8		完形
	710	SD01 4号	木製品	板状製品	23.0	5.7	1.5		
	711	X6Y5排水路	木製品	板状製品	25.7	3.3	0.6		
	712	SD01 3号	木製品	板状製品	29.9	3.7	0.6		
	713	SD01 4号	木製品	板状製品	40.2	3.6	0.8	有孔	
	714	SD01 4号	木製品	板状製品	35.6	4.8	1.4		
	715	SD01 3号	木製品	板状製品	33.3	7.0	1.5		
	716	SD01 5号	木製品	板状製品	17.5	14.5	5.3	焼け重	
	717	SD01 5号	木製品	板状製品	22.7	4.2	1.4		
	718	SD01 4号	木製品	板状製品	16.3	10.6	2.1		
	719	SD01 3号	木製品	杭	12.8	3.8	2.1		
	720	SD01 5号	木製品	杭	42.1	7.0	5.7		
第40回	721	SD01 2号上面	木製品	板状製品	13.9	3.2	0.4		
	722	SD01 2号上面	木製品	板状製品	14.8	3.3	0.9		
	723	SD01 2号上面	木製品	板状製品	16.8	2.7	1.0		
	724	SD01 2号上面	木製品	板状製品	19.4	3.7	1.3		
	725	SD01 5号	木製品	板状製品	19.3	2.2	0.9		
	726	SD01 3号	木製品	板状製品	19.0	1.7	1.2		
	727	SD01 5号	木製品	板状製品	22.7	1.8	0.8		
	728	SD01 3号	木製品	板状製品	26.5	1.8	1.1		
	729	SD01 2号上面	木製品	板状製品	28.4	2.9	1.5		
	730	SD01 5号	木製品	板状製品	16.2	6.1	2.1		
	731	SD01 3号	木製品	板状製品	12.5	4.6	1.3		
	732	X6Y5排水路	木製品	板状製品	13.1	2.6	1.8		
	733	SD01 4号	木製品	板状製品	10.3	4.0	0.8		
	734	SD01 5号	木製品	板状製品	8.3	4.3	1.7		
	735	SD01 3-4号	木製品		69.8	5.7	2.1		

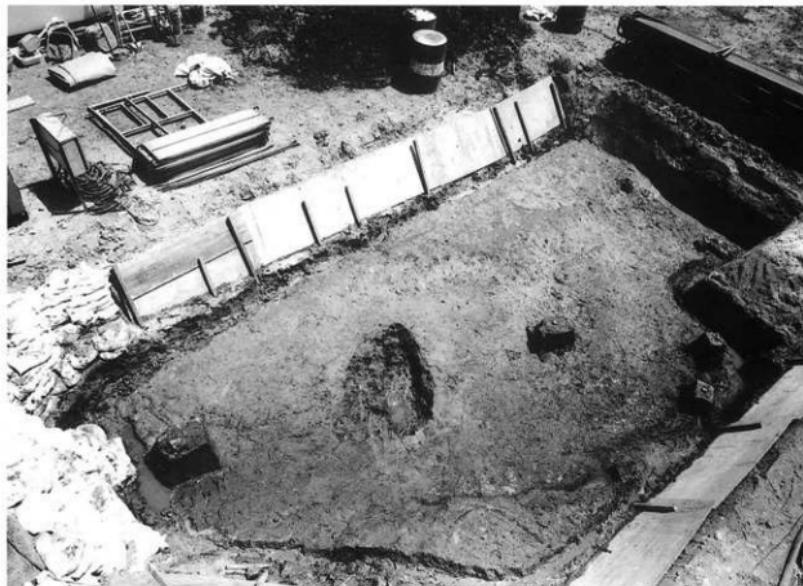
回数	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考		残存量
								突孔1ヶ所	焼付痕	
第40回	736	SD01 4号	木製品	板状製品	68.5	3.3	0.8			
	737	SD01 4号	木製品	板状製品	62.9	5.3	0.8			
	738	SD01 2号上部	木製品	板状製品	47.9	2.8	1.2	有孔		
	739	SD01 2号上部	木製品	板状製品	38.3	2.9	1.5			
	740	SD01 3号	木製品	板状製品	37.4	2.8	1.1			
	741	SD01 5号	木製品	板状製品	35.5	2.2	0.9			
	742	SD01 4号	木製品	板状製品	29.8	7.9	1.7			
	743	SD01 4号	木製品	板状製品	23.0	8.8	1.7			
	744	SD01	土師器	罐	37.8					破片
	745	SD01	土師器	罐	38.6					□ 1/16
第41回	746	SD01	土師器	罐	39.1					□ 1/24
	747	SD01	土師器	壺		4.7				底 1/2
	748	SD01	土師器	壺		6.2	高切り痕			底 1/2
	749	SD01	土師器	壺		5.2	系切り痕			底 4/5
	750	SD01	土師器	壺		4.4	系切り痕			底 1/12 完存
	751	SD01	土師器	壺		4.3	系切り痕			底 1/12 完存
	752	SD01	土師器	壺			内面黒色			
	753	SD01				12.6				1/10
	754	SD01	須恵器	壺						1/7
	755	SD01	須恵器	壺						破片
第42回	756	SD01	須恵器	壺						破片
	757	SD01	須恵器	壺						破片
	758	SD01	須恵器	壺						破片
	759	SD01	須恵器	壺						破片
	760	SD01	木製品	角状製品	14.0	4.7	3.2			
	761	SD02	須恵器	壺						破片
	762	SD02	須恵器	壺						破片
	763	包含層	土師器	鍋	39.0					□ 1/18
	764	包含層	土師器	壺	(26.4)					□ 1/14
	765	耕土	土師器	小皿	11.8					□ 1/5
	766	包含層	土師器	壺		5.4				底 3/8
	767	包含層	土師器	壺		6.8				底 1/2
	768	包含層	須恵器	壺						1/12
	769	X2-3'V7.7号	須恵器	壺			10.9			底 1/5
	770	X6Y5 6-7号	須恵器	壺						破片
第43回	771	包含層	須恵器	壺						破片
	772	包含層	須恵器	壺						破片
	773	包含層	須恵器	壺						破片
	774	包含層	須恵器	壺						破片
	775	X6Y6 7号	木製品	角状製品	20.7	4.8	3.2			
	776	SD01			16.3					□ 1/8
	777	SD01	土師器	壺	19.0					□ 1/10
	778	SD01	須恵器	壺						破片
	779	SD01	須恵器	壺						破片
第44回	780	SD01	珠洲	壺						破片
	781	SD01	珠洲	壺						破片
	782	SK08			14.3					□ 2/3
	783	SK08			19.0					□ 1/8
	784	SK08	土師器	壺		5.7				底 1/3
	785	SK08	土師器	壺		6.2				底 1/3
	786	SK08	須恵器	壺						破片
	787	SK11	土師器	壺		7.2				底 1/2
	788	SK09	土師器	壺	11.6	3.8	5.2			3/4
	789	SK09	土師器	壺	11.8	3.8	5.1	糸切り痕		□ 7/8 底 完存
第45回	790	SK09	土師器	壺	11.8	3.8	5.6	糸切り痕		□ 1/2 底 完存
	791	SK09	土師器	壺	12.7	4.1	4.2			1/2
	792	SK09	土師器	壺		5.0				底 完存
	793	SK08-09	土師器	壺	13.4	3.0	6.3	糸切り痕		ほぼ完形
	794	SK09	土師器	壺		6.6				底 完存
	795	SK09	土師器	壺		6.4	外部傷付有 糸切り痕			底 1/2
	796	SD02					4.0			破片
	797	SD02	須恵器	壺						底 1/2
	798	SD02					3.8			破片
	799	SD02	漆戸喰通							底 1/8

口：口縁部 底：底部  
 体：体部 壊：壊部  
 脊：脚部



平安時代の溝跡出土遺物(8地区)

図版 1 5 地区



調査区全景(南西から)



SD01(東から)



SD01の土層



SD01 遺物出土状況



SD01 遺物出土状況



調査区全景(西から)



遺構検出状況(南西から)



作業風景



SD01 完掘後



SD01の土層

図版3 7地区



調査区全景(西から)



SK02,SK09



SK09 遺物出土状況



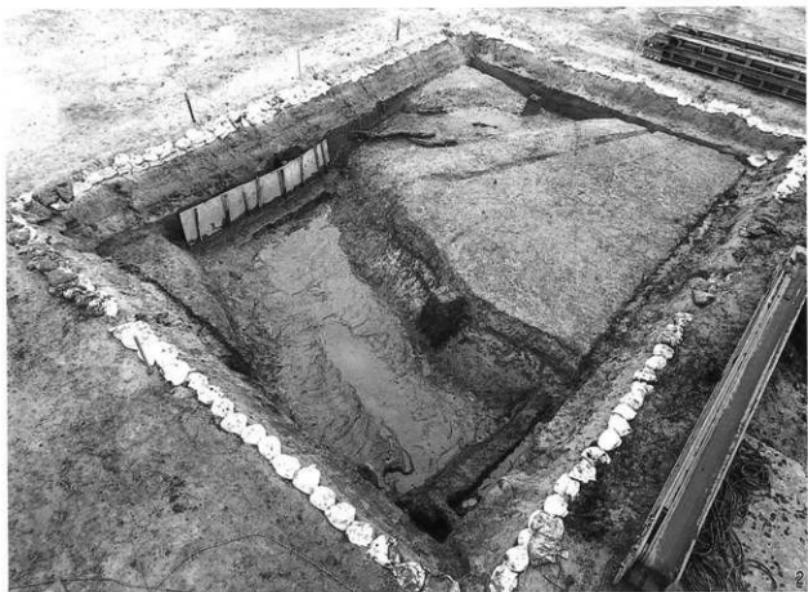
SK09の土層



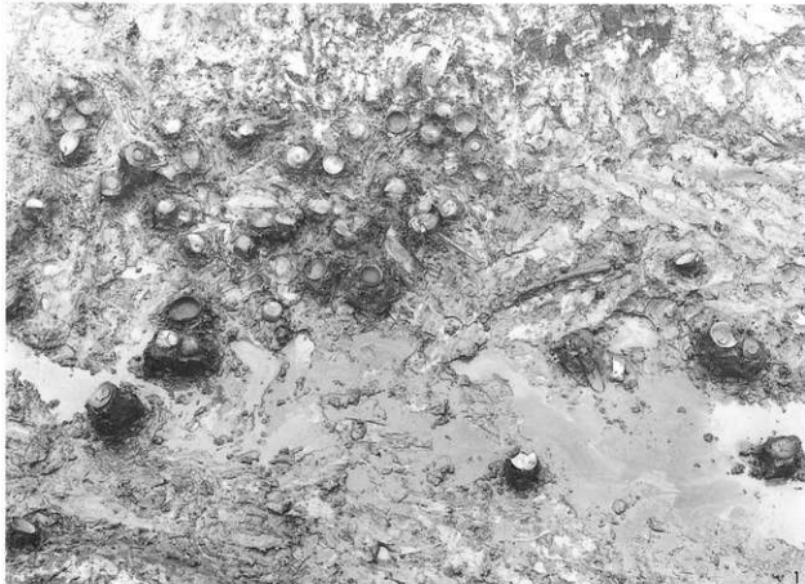
SK08 遺物出土状況



調査区全景(北から)



SD01(南西から)



SD01 遺物出土状況(東から)



SD01 土器出土状況



SD01 土器出土状況



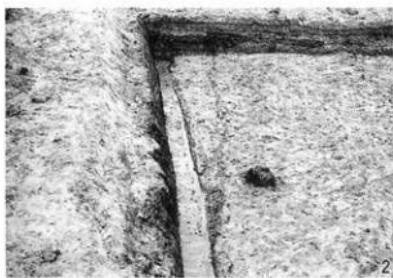
SD01 土器出土状況



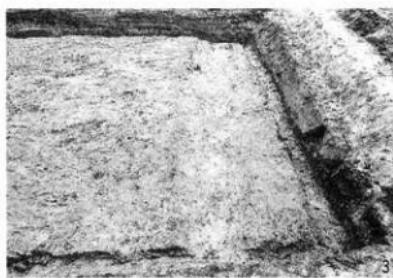
SD01 木製曲物出土状況



調査区全景(北から)



SD01 完掘後



SD02 完掘後

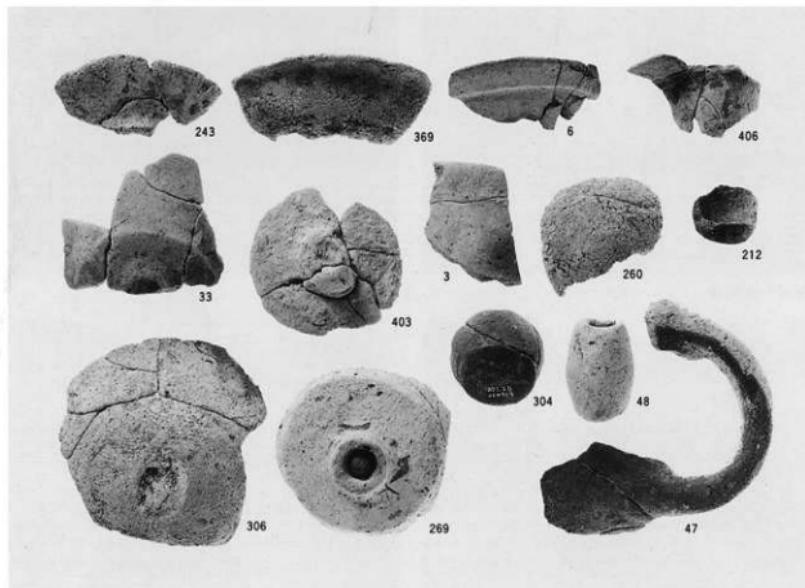
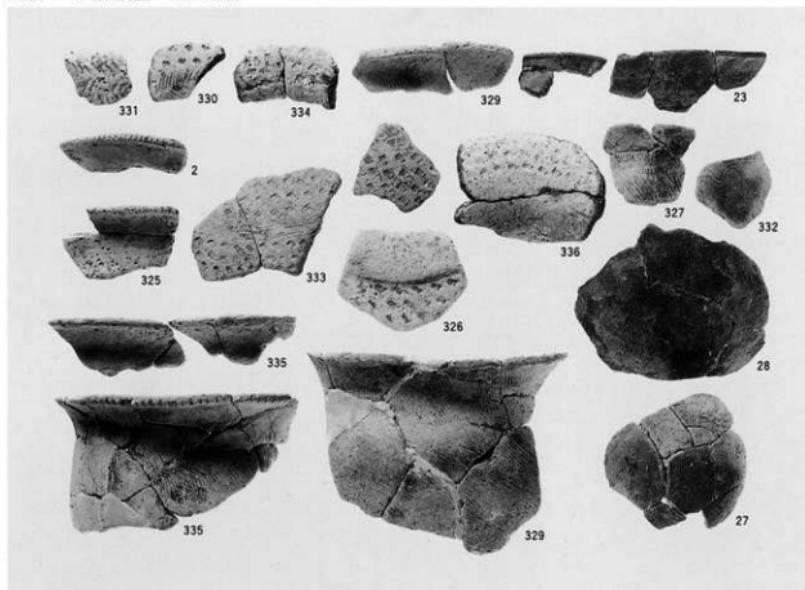


SD01の土層

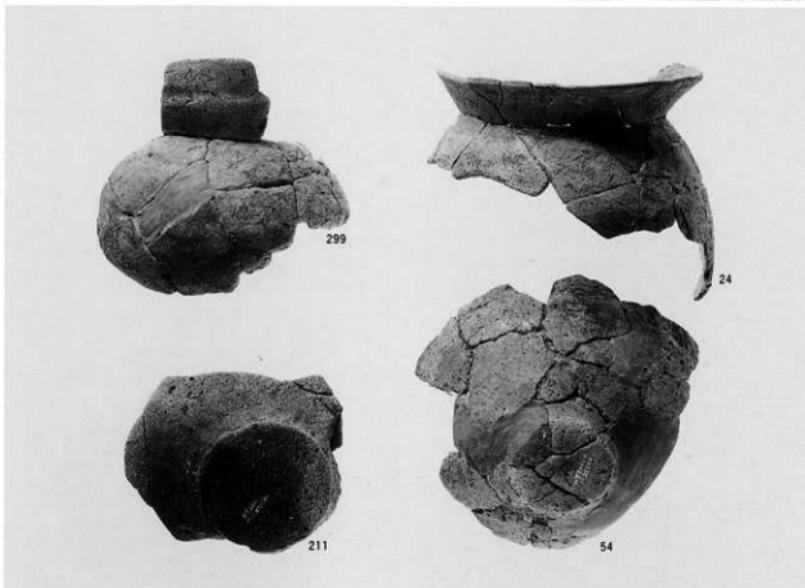


SD02の土層

図版7 試掘調査の出土遺物



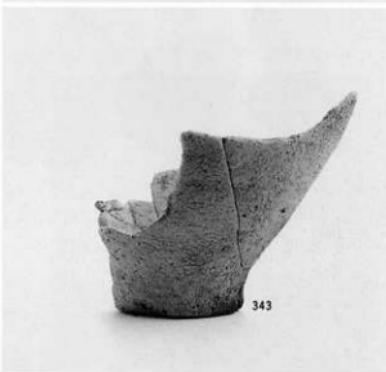
図版 8 試掘調査の出土遺物



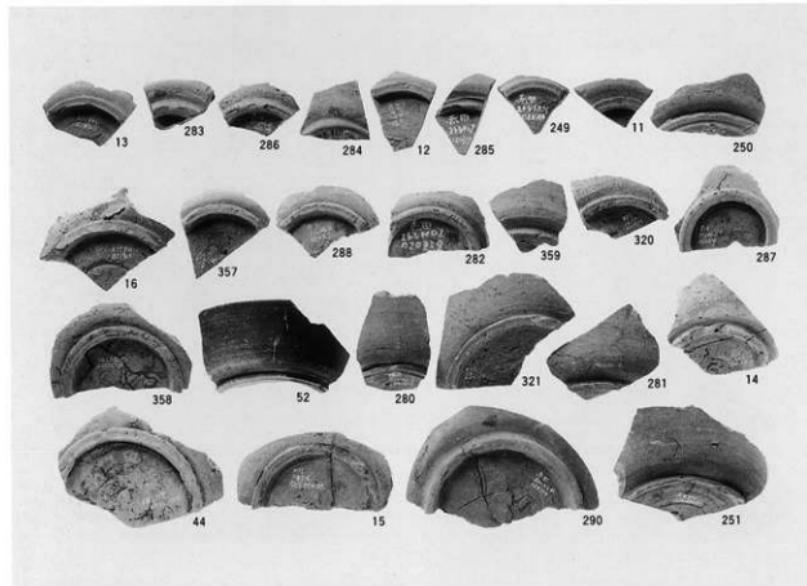
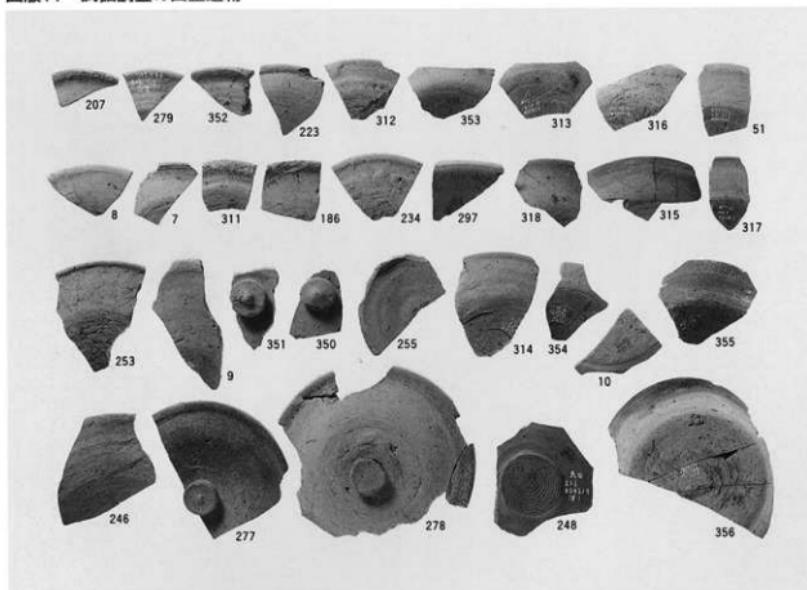
図版 9 試掘調査の出土遺物



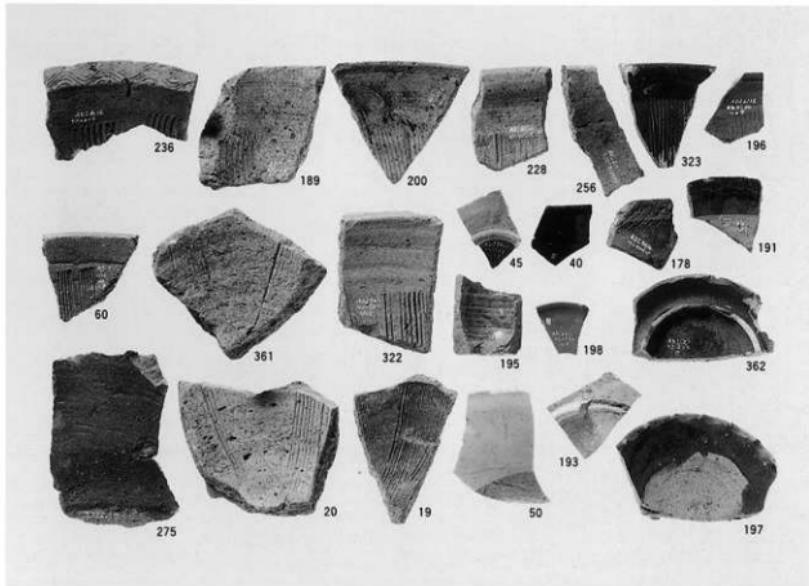
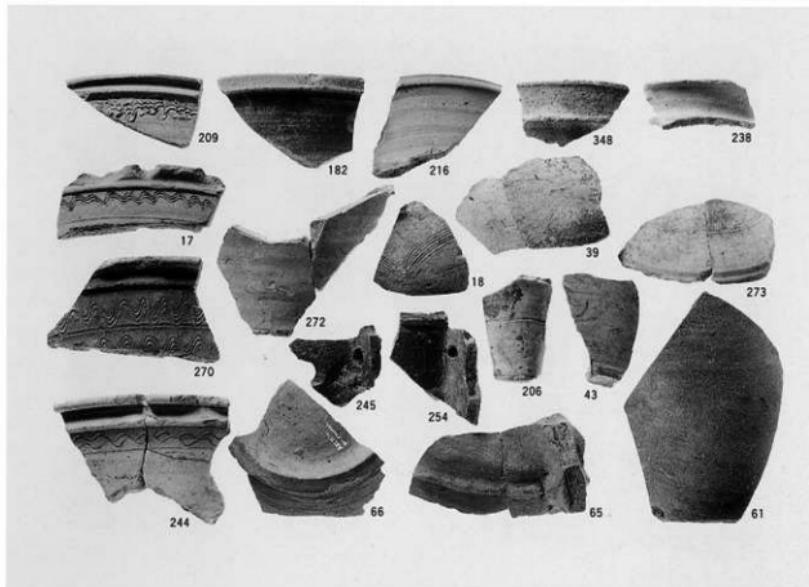
図版10 試掘調査の出土遺物



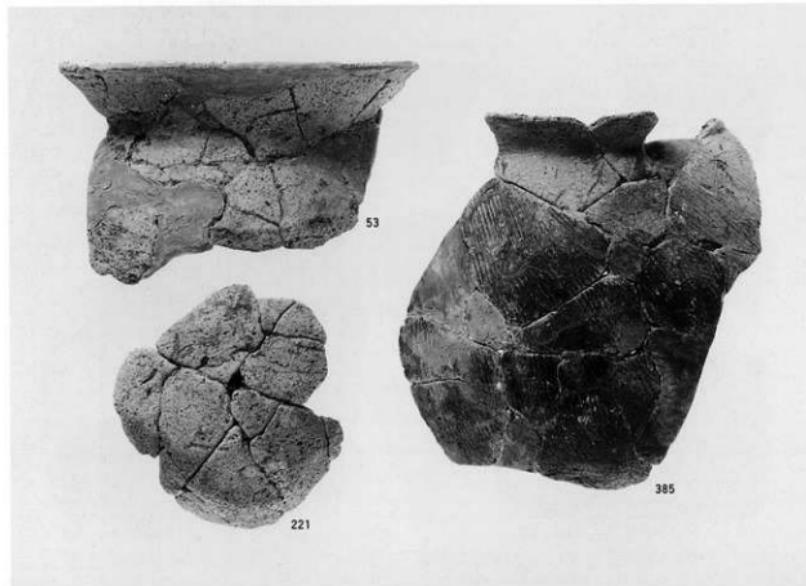
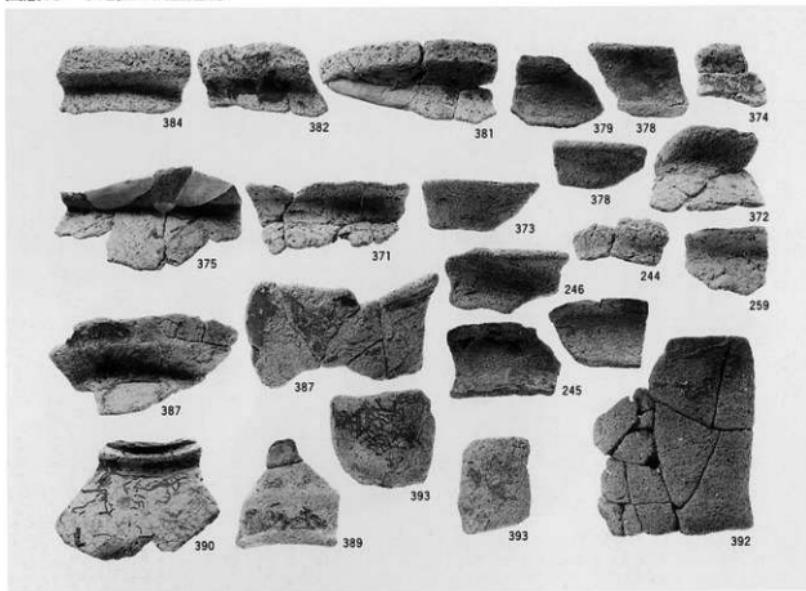
図版11 試掘調査の出土遺物



図版12 試掘調査の出土遺物



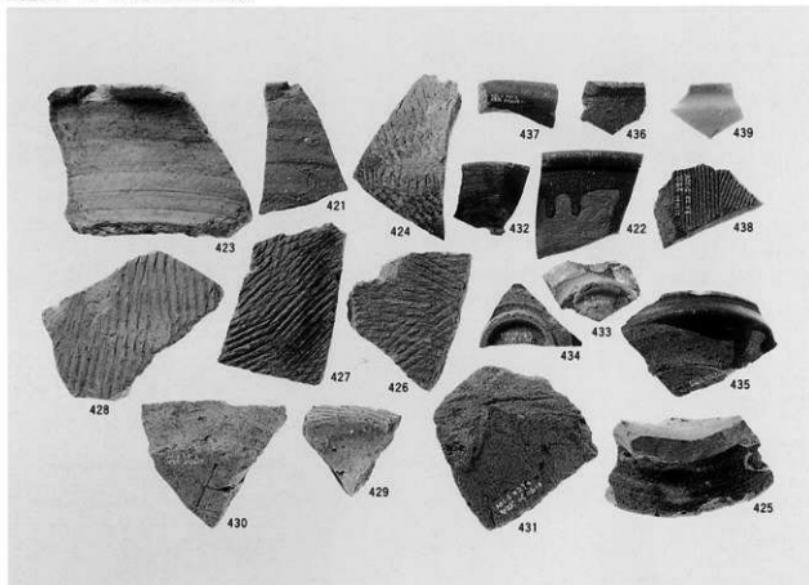
図版13 5 地区の出土遺物



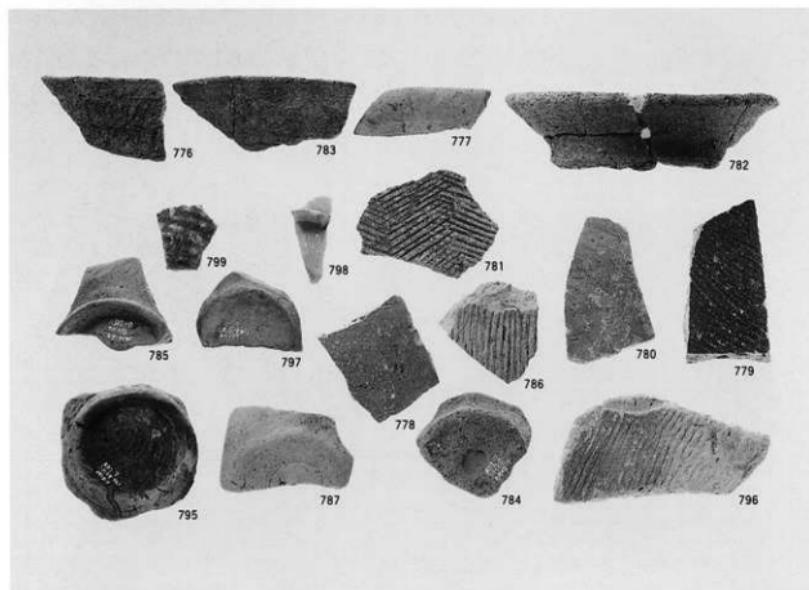
図版14 5地区の出土遺物



図版15 6・7地区の出土遺物

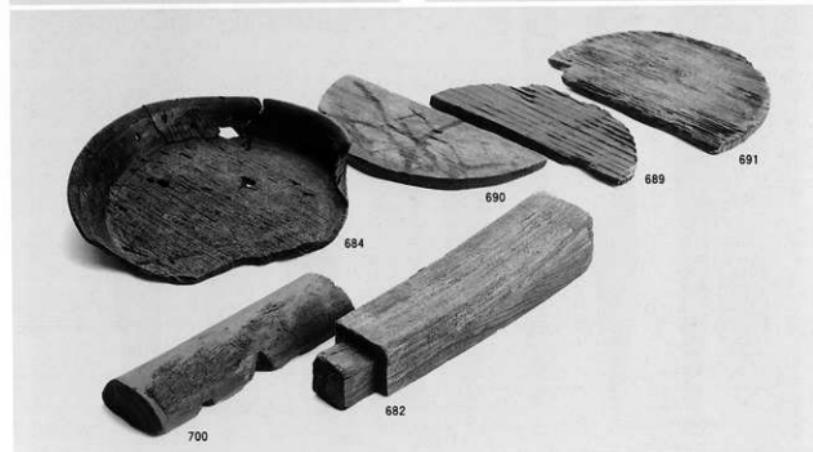
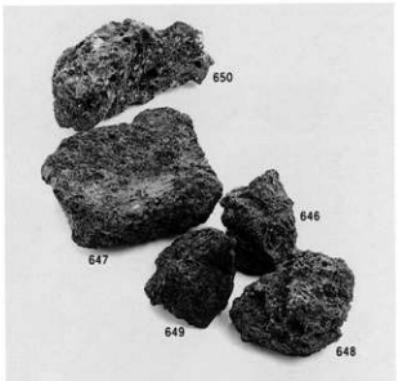
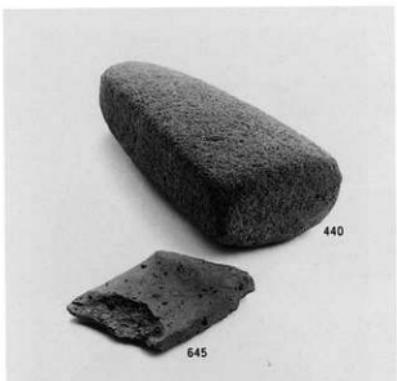


6 地区

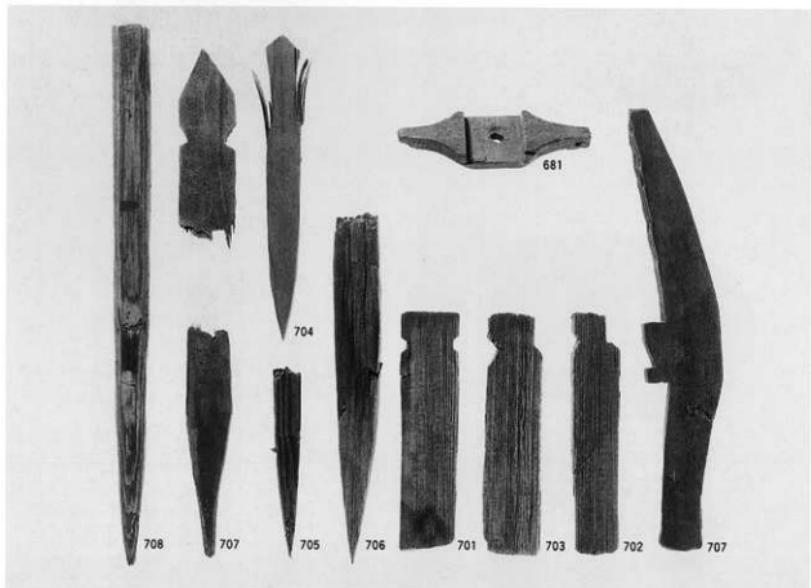
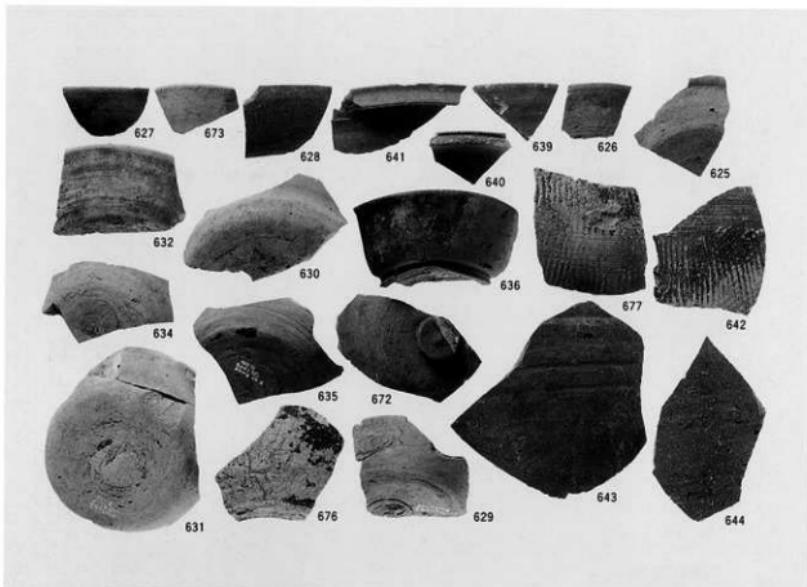


7 地区

図版16 8 地区の出土遺物



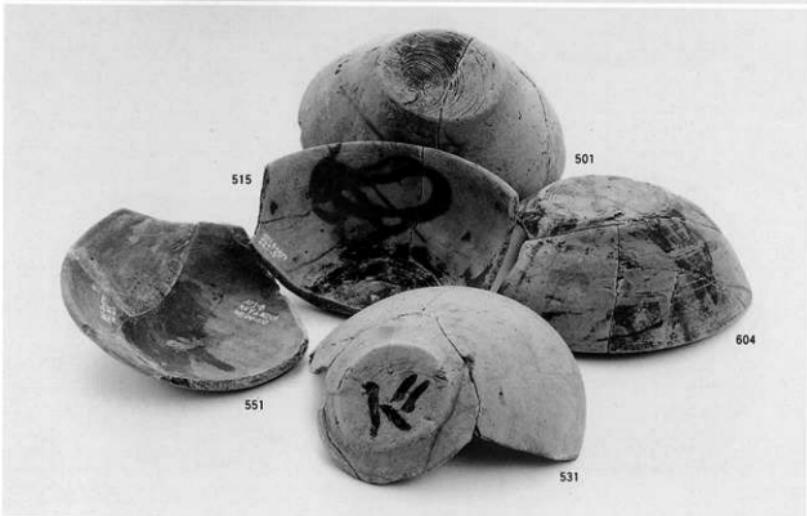
図版17 8地区の出土遺物



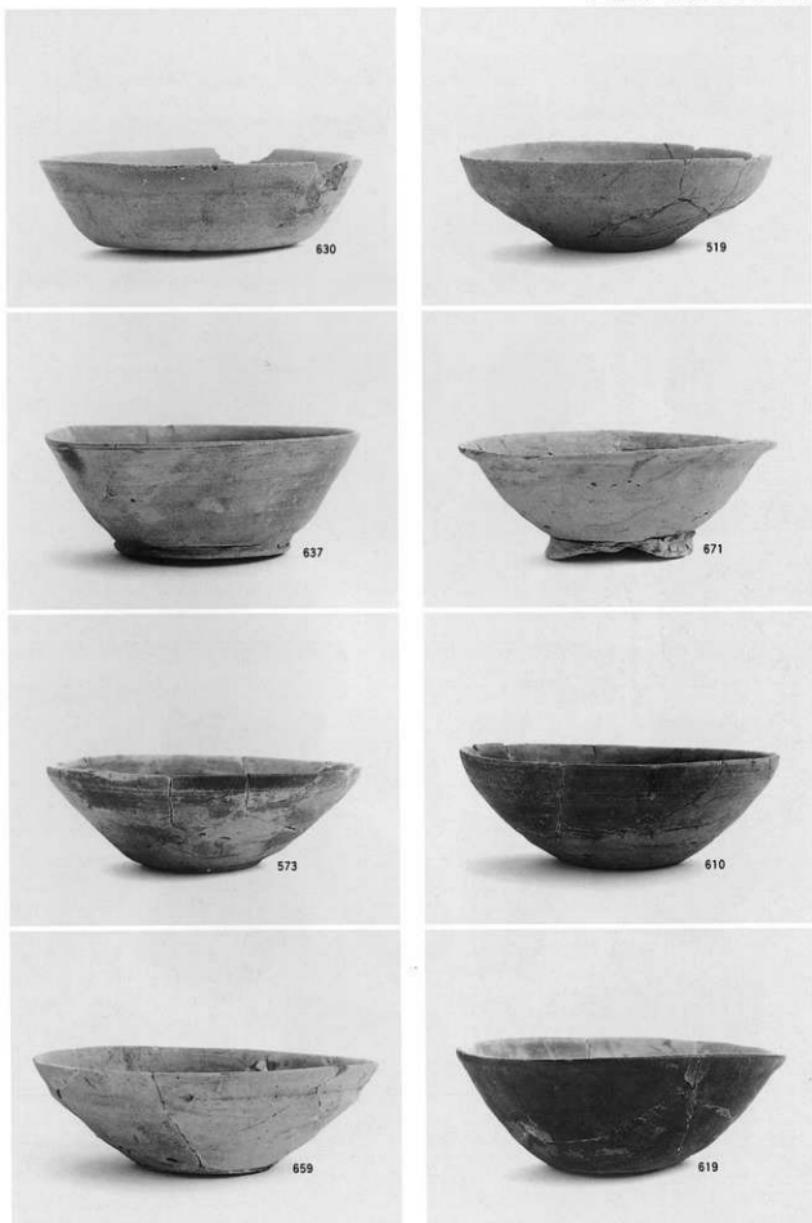
図版18 8 地区の出土遺物



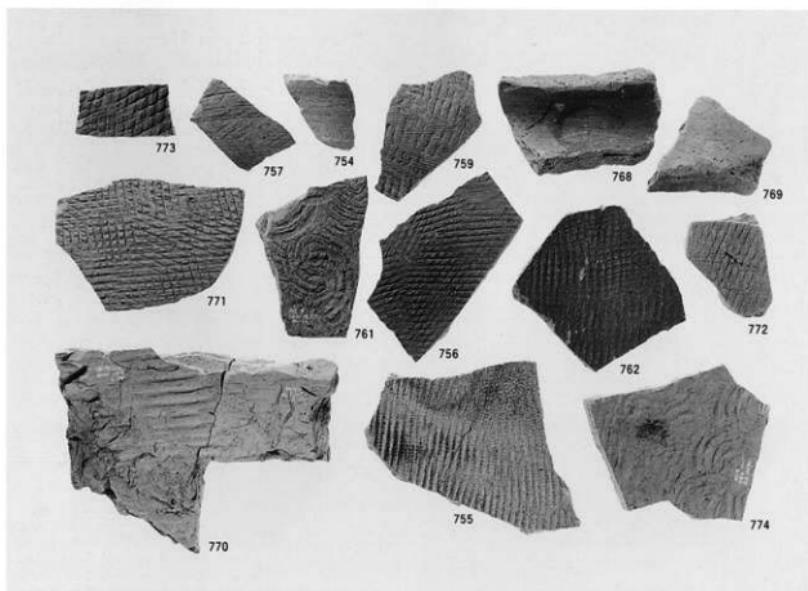
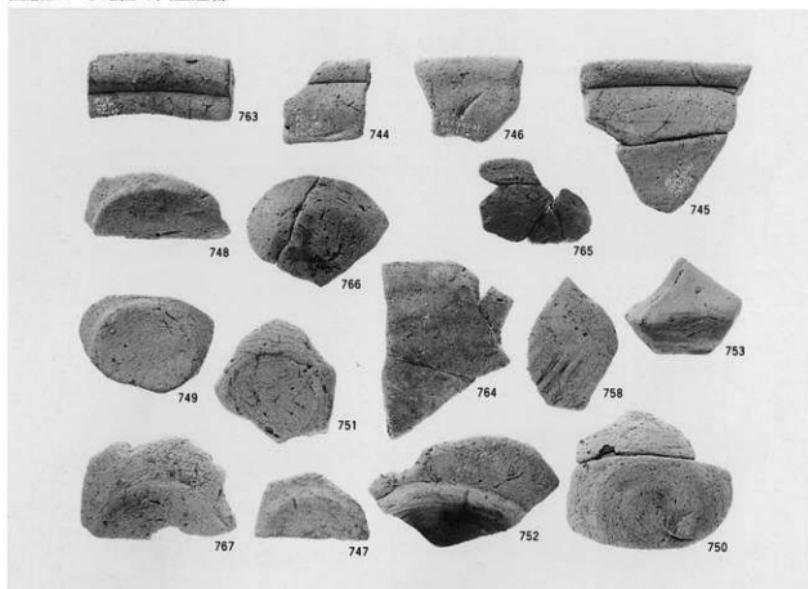
図版19 8 地区の出土遺物



図版20 8 地区の出土遺物



図版21 9地区の出土遺物



## 報告書抄録

ふりがな	あかんだいちらいせきははくつちょうさがいよう					
書名	赤田 I 遺跡発掘調査概要(1)					
副書名	—個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査—					
編著者名	原田 義範(小杉町教育委員会)、高野 裕二・藤田 慶一・新宅 哲久(㈱中部日本鉱業研究所)					
編集機関	小杉町教育委員会、㈱中部日本鉱業研究所					
発行機関	小杉町教育委員会					
所在地	〒939-0393 富山県射水郡小杉町戸破1511 TEL(0766)56-1511					
発行年月日	西暦2005年3月31日					

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あかんだいら 赤田 I	富山県射水郡 小杉町下条	16381	301	36度 42分 35秒	137度 05分 25秒	20020318~ 20020320 20020417~ 20020510 20020527~ 20020610 20020903~ 20020904	3,144	土地区画整理事業 に先立つ試掘調査
						20020918~ 20020920 20021203~ 20021204 20030228	1,537	土地区画整理事業 に先立つ工事立会 調査
						20040520~ 20040604 20040607~ 20040616 20040928~ 20041028 20041025~ 20041119 20041118~ 20041126	656	個人専用住宅建築 に先立つ本発掘調 査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
赤田 I	散布地 集落跡 祭祀遺跡	古墳(前期) 平安	溝 土坑	弥生土器・土師器 須恵器・珠浜 墨書き土器・黒色土器 越中瀬戸・古錢 木製品・石器	

平成17年3月31日発行

## 赤田 I 遺跡発掘調査概要(1)

—個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査—

編集 小杉町教育委員会・(株)中部日本鉱業研究所  
発行 小杉町教育委員会

〒 939-0393 富山県射水郡小杉町戸破1511

TEL 0766-56-1511

印刷 とうざわ印刷工芸株式会社



2005年3月